

項目別業務実績評価

<評価凡例>
 S 計画に対し十分に取り組み、顕著な成果が得られている。 A 計画に対し十分に取り組み、成果が得られている。
 B 計画に対し十分に取り組んでいる。 C 計画に対する取り組みは十分ではない。

<県評価区分(年度評価)>
 ☆ 「○」のうち、特に着目する状況であるもの。 ○ 良好な状況であるもの。
 △ より一層の取組を期待するもの。 ▼ 取組の改善を強く求めるもの。

令和4年度
 第1回評価委員会 資料1-4 議題1

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																									
						説明																																														
第2 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する事項 県立病院機構は、定款で定める業務について、質の向上に努め、多様化する県民の医療ニーズへの対応に努めること。また、その成果を県民や他の医療機関と共有できるよう、県民視点での情報発信に努めるほか、患者や家族の立場に立ち、その満足度が高められるよう、創意工夫に取り組むこと。	第2 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためのべき措置 県立病院では、県民の医療需要に的確に対応し、安全で質の高い医療の提供を図る。このためには、医療の品質管理が必要である。この医療の質を向上させるため、定量的目標を定め、適切な医療の提供を行い、県立病院にふさわしい優秀な人材の確保と育成、医療に関する調査及び研究、地域への支援、県民の安心、安全を守るための災害等における医療救護体制の整備に努める。	第1 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためのべき措置																																																		
1 医療の提供 医療機関として求められる基本的な診療理念や県立病院が担う医療を明確にし、他の医療機関との機能分担や連携のもと、医療の質の向上に努め、患者や家族、地域から信頼される医療を提供すること。	1 医療の提供 県立病院機構の職員は、県立病院が担う役割と責任を認識するとともに、医療機関に求められる基本的な診療理念を理解し、医療の提供に当たってはそれを実践する。	1 医療の提供																																																		
(1) 基本的な診療理念 診療に当たっては、患者が最良の治療効果を得られるよう、患者との信頼関係の構築に努め、科学的根拠に基づく最適な医療を患者への十分な説明と同意のもとに安全に提供すること。	(1) 基本的な診療理念 診療に当たっては、患者自らが選択し納得できるよう、患者への十分な説明など、患者との信頼関係の構築に努め、科学的根拠に基づく医療を安全に提供するため、医療技術の向上、チーム医療の推進、医療安全対策の充実などに取り組む。	(1) 基本的な診療理念 各県立病院は、患者が選択し納得できる最良の医療を提供するため、次の事項等に取り組む。 ①患者への十分な説明と同意の徹底 ②医療技術の向上 ③チーム医療の推進 ④医療安全対策の充実 ⑤患者満足の向上																																																		
			1	各病院	①患者の適切な医療が受けられる権利を尊重し、セカンドオピニオンを実施する。 セカンドオピニオン数 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>114</td> <td>115</td> <td>90</td> <td>112</td> <td>114</td> <td>114</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>39</td> <td>58</td> <td>58</td> <td>48</td> <td>74</td> <td>48</td> </tr> </tbody> </table> セカンドオピニオン情報提供料算定件数(総合) (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>診療情報提供料(II)</td> <td>121</td> <td>145</td> <td>150</td> <td>116</td> <td>116</td> <td>111</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	総合	114	115	90	112	114	114	こども	-	-	-	-	-	-	こども	39	58	58	48	74	48	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	診療情報提供料(II)	121	145	150	116	116	111	A				・こども病院のセカンドオピニオン件数(他医療機関から紹介された件数)及び、総合病院の情報提供料算定件数(他医療機関へ紹介した件数)は減少したものの、患者からの求めに適切に対応するとともに、他医療機関との信頼関係も構築できている。 ・今後も引き続き、患者への十分な説明と同意のもと、信頼関係に基づく安全・最適な医療を提供することが求められる。
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																														
総合	114	115	90	112	114	114																																														
こども	-	-	-	-	-	-																																														
こども	39	58	58	48	74	48																																														
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																														
診療情報提供料(II)	121	145	150	116	116	111																																														
			2	総合	①②③運用実績などのエビデンスに基づくクリニカルパスの新規作成や見直しを行う。 クリニカルパスの新規作成、適用率等実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規作成(件)</td> <td>16</td> <td>15</td> <td>34</td> <td>9</td> <td>23</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>修正(件)</td> <td>224</td> <td>130</td> <td>253</td> <td>103</td> <td>225</td> <td>66</td> </tr> <tr> <td>適用率(%)</td> <td>66.3</td> <td>62.6</td> <td>63.3</td> <td>63.9</td> <td>68.3</td> <td>68.8</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	新規作成(件)	16	15	34	9	23	17	修正(件)	224	130	253	103	225	66	適用率(%)	66.3	62.6	63.3	63.9	68.3	68.8	A				クリニカルパスに関する運用・管理について、医療の質の向上や業務の効率化に繋がるよう、医療従事者が定期的に議論を行っている。 クリニカルパスの新規作成及び修正件数は、診療報酬改定(通常2年毎)の影響を受けるため、令和3年度は、令和2年度実績を下回った。 ・クリニカルパス管理委員会を毎月開催し、新規作成だけでなく既存パスを随時見直す体制がとられている。 ・クリニカルパスの新規作成・修正は、診療報酬の改定年度において、改定内容への対応として増加する傾向があるため、令和2年度に比べて新規作成件数は減少しているが、適用率は高い水準を維持している。														
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																														
新規作成(件)	16	15	34	9	23	17																																														
修正(件)	224	130	253	103	225	66																																														
適用率(%)	66.3	62.6	63.3	63.9	68.3	68.8																																														
			3	こども	①②③入院における患者の負担軽減及び計画的でわかりやすい医療を提供するため、精神科に適したクリニカルパスを作成し導入する。 令和3年度末現在 稼働クリニカルパス 4件 (m-ECT、転倒転落、鑑定入院、クロザピン) 稼働クリニカルパス件数 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>稼働クリニカルパス</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	稼働クリニカルパス	4	4	4	4	4	4	A				こどもの医療センターにおいて導入が可能なクリニカルパス4件を導入済みである。今後、必要に応じ新規クリニカルパス作成もしくは既存クリニカルパスの見直しを行い、患者の負担軽減に努め、より良い医療を提供していく。 ・稼働クリニカルパス数は導入が可能なものについては導入済みであるため、令和2年度と同水準である。 ・精神科医療では個々の病状に合わせた診療となるケースが多く、パスを適用できるケースは限られるが、m-ECT、転倒転落、鑑定入院、クロザピンに導入されており、患者の負担軽減と計画的な医療の提供に努めている。																												
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																														
稼働クリニカルパス	4	4	4	4	4	4																																														
			4	こども	①②③入院における患者の負担軽減及び計画的でわかりやすい医療を提供するため、小児科に適したクリニカルパスを作成し導入する。 ※令和3年度は病棟工事に伴い、一時的に稼働させたクリニカルパスがあり件数が増加した。 稼働クリニカルパス件数 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>稼働クリニカルパス</td> <td>48</td> <td>48</td> <td>51</td> <td>51</td> <td>52</td> <td>61</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	稼働クリニカルパス	48	48	51	51	52	61	A				クリニカルパスについては、導入が可能なものに関して、積極的に導入し、新規クリニカルパス作成、既存クリニカルパスの見直しを行い、患者の負担軽減に努め、より良い医療を提供した。 ・クリニカルパスの積極的な導入により、稼働クリニカルパス数は令和2年度から9件増加している。 ・成人の場合と異なり、小児の場合は、薬剤の量など患者の体重別に細分化するなどきめ細かな対応が必要であり、患者に配慮した計画的な医療が提供されている。																												
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																														
稼働クリニカルパス	48	48	51	51	52	61																																														

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																																																																																																																																																																																			
						説明																																																																																																																																																																																																																								
			5	③チーム医療を推進し、多職種による病院横断的な活動を通して、質の高い医療を提供する。	<p>チーム医療の推進(カンファレンスの開催) 3年度末時点</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>チーム名</th> <th>開催頻度</th> <th>主要メンバー</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">総合</td> <td>栄養サポートチーム</td> <td>2回/週</td> <td>医師、看護師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師</td> </tr> <tr> <td>感染制御チーム</td> <td>院内52回 院外4回/年</td> <td>医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師</td> </tr> <tr> <td>抗菌薬適正使用支援チーム</td> <td>毎日</td> <td>医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>1回/月</td> <td>医師、看護師、栄養士</td> </tr> <tr> <td>呼吸ケアチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師、看護師、臨床工学士、理学療法士</td> </tr> <tr> <td>認知症ケアチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師、看護師、薬剤師、社会福祉士、公認心理師</td> </tr> <tr> <td>精神科リエゾンチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師、看護師、薬剤師</td> </tr> <tr> <td>緩和ケアチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師、看護師、薬剤師、公認心理師、栄養士</td> </tr> <tr> <td>糖尿病透析予防診療チーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師、看護師、栄養士</td> </tr> <tr> <td>排尿ケアチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師、看護師</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">こころ</td> <td>栄養サポートチーム</td> <td>週1回</td> <td>医師・看護・栄養等</td> </tr> <tr> <td>感染防止対策チーム</td> <td>院内52回 院外4回/年</td> <td>医師・看護・薬剤師・臨床検査</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>1回/月</td> <td>医師・看護</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">こども</td> <td>栄養サポートチーム</td> <td>週1回</td> <td>医師・看護・栄養等</td> </tr> <tr> <td>感染防止対策チーム</td> <td>院内52回 院外4回/年</td> <td>医師・看護・薬剤師・臨床検査</td> </tr> <tr> <td>緩和ケアチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師・看護・薬剤師・臨床心理士・栄養</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策部会</td> <td>1回/月</td> <td>医師・看護</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション</td> <td>講堂(週1回 病棟)</td> <td>医師・看護・理学療法等</td> </tr> </tbody> </table> <p>チーム医療に対する診療報酬上の評価加算の状況 (単位: 千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">病院</th> <th rowspan="2">項目</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="10">総合</td> <td>栄養サポートチーム</td> <td>1,290</td> <td>1,345</td> <td>1,154</td> <td>904</td> <td>1,246</td> <td>1,092</td> </tr> <tr> <td>感染制御チーム</td> <td>74,929</td> <td>75,792</td> <td>93,168</td> <td>92,879</td> <td>86,309</td> <td>86,701</td> </tr> <tr> <td>抗菌薬適正使用支援チーム</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>15,985</td> <td>19,122</td> <td>17,563</td> <td>17,643</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>6,320</td> <td>3,905</td> <td>4,815</td> <td>2,085</td> <td>755</td> <td>1,630</td> </tr> <tr> <td>呼吸ケアチーム</td> <td>144</td> <td>59</td> <td>1</td> <td>92</td> <td>143</td> <td>224</td> </tr> <tr> <td>認知症ケアチーム</td> <td>568</td> <td>6,248</td> <td>4,462</td> <td>4,456</td> <td>4,445</td> <td>4,287</td> </tr> <tr> <td>精神科リエゾンチーム</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1,743</td> <td>2,316</td> <td>4,164</td> </tr> <tr> <td>緩和ケアチーム</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>3,163</td> <td>20,389</td> <td>17,965</td> <td>20,600</td> </tr> <tr> <td>糖尿病透析予防診療チーム</td> <td>462</td> <td>263</td> <td>508</td> <td>998</td> <td>431</td> <td>235</td> </tr> <tr> <td>排尿ケアチーム</td> <td>—</td> <td>2</td> <td>200</td> <td>212</td> <td>388</td> <td>536</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>83,713</td> <td>87,614</td> <td>123,456</td> <td>142,880</td> <td>131,561</td> <td>137,112</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">こころ</td> <td>感染防止対策チーム</td> <td>434</td> <td>380</td> <td>352</td> <td>368</td> <td>290</td> <td>347</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>434</td> <td>380</td> <td>352</td> <td>368</td> <td>290</td> <td>347</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">こども</td> <td>栄養サポートチーム</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>2</td> <td>8</td> <td>40</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>感染防止対策チーム</td> <td>19,870</td> <td>18,880</td> <td>27,610</td> <td>27,460</td> <td>25,090</td> <td>23,660</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>—</td> <td>2,725</td> <td>2,200</td> <td>2,535</td> <td>2,550</td> <td>2,470</td> </tr> <tr> <td>緩和ケアチーム</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>136</td> <td>590</td> <td>310</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション</td> <td>58,883</td> <td>56,527</td> <td>52,394</td> <td>58,836</td> <td>59,137</td> <td>72,397</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>78,753</td> <td>78,132</td> <td>82,206</td> <td>88,975</td> <td>87,407</td> <td>98,857</td> </tr> </tbody> </table>	区分	チーム名	開催頻度	主要メンバー	総合	栄養サポートチーム	2回/週	医師、看護師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師	感染制御チーム	院内52回 院外4回/年	医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師	抗菌薬適正使用支援チーム	毎日	医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師	褥瘡対策チーム	1回/月	医師、看護師、栄養士	呼吸ケアチーム	1回/週	医師、看護師、臨床工学士、理学療法士	認知症ケアチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師、社会福祉士、公認心理師	精神科リエゾンチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師	緩和ケアチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師、公認心理師、栄養士	糖尿病透析予防診療チーム	1回/週	医師、看護師、栄養士	排尿ケアチーム	1回/週	医師、看護師	こころ	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・栄養等	感染防止対策チーム	院内52回 院外4回/年	医師・看護・薬剤師・臨床検査	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護	こども	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・栄養等	感染防止対策チーム	院内52回 院外4回/年	医師・看護・薬剤師・臨床検査	緩和ケアチーム	1回/週	医師・看護・薬剤師・臨床心理士・栄養	褥瘡対策部会	1回/月	医師・看護	リハビリテーション	講堂(週1回 病棟)	医師・看護・理学療法等	病院	項目	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	総合							総合	栄養サポートチーム	1,290	1,345	1,154	904	1,246	1,092	感染制御チーム	74,929	75,792	93,168	92,879	86,309	86,701	抗菌薬適正使用支援チーム	—	—	15,985	19,122	17,563	17,643	褥瘡対策チーム	6,320	3,905	4,815	2,085	755	1,630	呼吸ケアチーム	144	59	1	92	143	224	認知症ケアチーム	568	6,248	4,462	4,456	4,445	4,287	精神科リエゾンチーム	—	—	—	1,743	2,316	4,164	緩和ケアチーム	—	—	3,163	20,389	17,965	20,600	糖尿病透析予防診療チーム	462	263	508	998	431	235	排尿ケアチーム	—	2	200	212	388	536	計	83,713	87,614	123,456	142,880	131,561	137,112	こころ	感染防止対策チーム	434	380	352	368	290	347	計	434	380	352	368	290	347	こども	栄養サポートチーム	—	—	2	8	40	20	感染防止対策チーム	19,870	18,880	27,610	27,460	25,090	23,660	褥瘡対策チーム	—	2,725	2,200	2,535	2,550	2,470	緩和ケアチーム	—	—	—	136	590	310	リハビリテーション	58,883	56,527	52,394	58,836	59,137	72,397	計	78,753	78,132	82,206	88,975	87,407	98,857	<p>令和2年度、SARS-CoV-2(以下、「新型コロナウイルス」という。)感染症への対応のため、多職種による院内感染対策のチームを創設し、感染防止の取組、情報収集などを行っている。</p> <p>令和3年度についても、総合病院内の新型コロナウイルス感染症専門病棟では、各部署から医師、看護師等を派遣し、多職種が対応に当たった。</p> <p>各病院では、最良の医療を提供するため、診療科の枠を越えた多職種カンファレンスを実施した。特に総合病院では、精神科医師の着任により、緩和ケアチーム及び精神科リエゾンチームによる診療報酬上の評価加算が高い水準で推移しており、収益面においても大きく貢献している。</p> <p>多職種による病院横断的な活動体制が上記の成果に結びついている。</p>	<p>・各病院とも多職種によるチーム医療が推進されており、患者の状況に的確に対応できる体制が確保されている。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症への対応に当たっては、総合病院において、感染症対策室を中心とした院内感染対策チームが、県や市保健所等との情報共有や患者受入れに関する調整などを行っている。</p> <p>・県立病院として、本県の新型コロナウイルス感染症対策において重要な役割を果たし、医療提供体制の確保に貢献している。</p> <p>・各病院において、多職種からなるチームが感染防止の取組や情報収集などを行い、院内感染対策を徹底している。</p> <p>・診療報酬上の評価加算も堅調に増加しており、令和元年7月に施設基準を取得した、総合病院の精神科リエゾンチームの算定件数は令和3年度も引き続き高い水準を維持するなど、収益面においても貢献している。</p> <p>・総合病院の褥瘡対策チームの評価加算が減少傾向にあるが、ハイリスク患者に対して手厚くケアを行う方針としたことによるものであり、褥瘡発生率も年々減少している。</p> <p>・総合病院では、こころの医療センターの医師を含めた認知症ケアチームが院内カンファレンスを実施するなど、病院間の連携も図られており、認知症に発展する可能性のある患者も含めて早期介入することにより、認知症悪化予防とともに身体疾患の治療を円滑に受けられるよう取り組んでいる。</p>	14		☆
区分	チーム名	開催頻度	主要メンバー																																																																																																																																																																																																																											
総合	栄養サポートチーム	2回/週	医師、看護師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師																																																																																																																																																																																																																											
	感染制御チーム	院内52回 院外4回/年	医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師																																																																																																																																																																																																																											
	抗菌薬適正使用支援チーム	毎日	医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師																																																																																																																																																																																																																											
	褥瘡対策チーム	1回/月	医師、看護師、栄養士																																																																																																																																																																																																																											
	呼吸ケアチーム	1回/週	医師、看護師、臨床工学士、理学療法士																																																																																																																																																																																																																											
	認知症ケアチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師、社会福祉士、公認心理師																																																																																																																																																																																																																											
	精神科リエゾンチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師																																																																																																																																																																																																																											
	緩和ケアチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師、公認心理師、栄養士																																																																																																																																																																																																																											
	糖尿病透析予防診療チーム	1回/週	医師、看護師、栄養士																																																																																																																																																																																																																											
	排尿ケアチーム	1回/週	医師、看護師																																																																																																																																																																																																																											
こころ	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・栄養等																																																																																																																																																																																																																											
	感染防止対策チーム	院内52回 院外4回/年	医師・看護・薬剤師・臨床検査																																																																																																																																																																																																																											
	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護																																																																																																																																																																																																																											
こども	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・栄養等																																																																																																																																																																																																																											
	感染防止対策チーム	院内52回 院外4回/年	医師・看護・薬剤師・臨床検査																																																																																																																																																																																																																											
	緩和ケアチーム	1回/週	医師・看護・薬剤師・臨床心理士・栄養																																																																																																																																																																																																																											
	褥瘡対策部会	1回/月	医師・看護																																																																																																																																																																																																																											
	リハビリテーション	講堂(週1回 病棟)	医師・看護・理学療法等																																																																																																																																																																																																																											
病院	項目	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																																																																							
		総合																																																																																																																																																																																																																												
総合	栄養サポートチーム	1,290	1,345	1,154	904	1,246	1,092																																																																																																																																																																																																																							
	感染制御チーム	74,929	75,792	93,168	92,879	86,309	86,701																																																																																																																																																																																																																							
	抗菌薬適正使用支援チーム	—	—	15,985	19,122	17,563	17,643																																																																																																																																																																																																																							
	褥瘡対策チーム	6,320	3,905	4,815	2,085	755	1,630																																																																																																																																																																																																																							
	呼吸ケアチーム	144	59	1	92	143	224																																																																																																																																																																																																																							
	認知症ケアチーム	568	6,248	4,462	4,456	4,445	4,287																																																																																																																																																																																																																							
	精神科リエゾンチーム	—	—	—	1,743	2,316	4,164																																																																																																																																																																																																																							
	緩和ケアチーム	—	—	3,163	20,389	17,965	20,600																																																																																																																																																																																																																							
	糖尿病透析予防診療チーム	462	263	508	998	431	235																																																																																																																																																																																																																							
	排尿ケアチーム	—	2	200	212	388	536																																																																																																																																																																																																																							
計	83,713	87,614	123,456	142,880	131,561	137,112																																																																																																																																																																																																																								
こころ	感染防止対策チーム	434	380	352	368	290	347																																																																																																																																																																																																																							
	計	434	380	352	368	290	347																																																																																																																																																																																																																							
こども	栄養サポートチーム	—	—	2	8	40	20																																																																																																																																																																																																																							
	感染防止対策チーム	19,870	18,880	27,610	27,460	25,090	23,660																																																																																																																																																																																																																							
	褥瘡対策チーム	—	2,725	2,200	2,535	2,550	2,470																																																																																																																																																																																																																							
	緩和ケアチーム	—	—	—	136	590	310																																																																																																																																																																																																																							
	リハビリテーション	58,883	56,527	52,394	58,836	59,137	72,397																																																																																																																																																																																																																							
計	78,753	78,132	82,206	88,975	87,407	98,857																																																																																																																																																																																																																								
			6	④医療安全室及び感染対策委員会等を中心に、マニュアルの見直しや研修会を通じて院内感染防止対策・医療安全対策を実施する。	<p>年度末までに3病院で、11回の院内感染対策研修、22回の医療安全対策研修を行い、安全・安心な医療の提供に対する職員への意識づけと、体制整備を行っている。</p> <p>医療安全対策、院内感染対策研修等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="6">集団感染数(件)</th> <th colspan="4">院内感染対策研修 医療安全対策研修</th> </tr> <tr> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th colspan="2">3年度末</th> <th colspan="2">3年度末</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>研修数(回)</td> <td>参加者数(人)</td> <td>研修数(回)</td> <td>参加者数(人)</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3,048</td> <td>13</td> <td>4,081</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>432</td> <td>6</td> <td>585</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>3,221</td> <td>3</td> <td>1,432</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>11</td> <td>6,701</td> <td>22</td> <td>6,098</td> </tr> </tbody> </table> <p>※院内感染対策研修・医療安全対策研修ともに法定回数は2回</p>	区分	集団感染数(件)						院内感染対策研修 医療安全対策研修				28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3年度末		3年度末									研修数(回)	参加者数(人)	研修数(回)	参加者数(人)	総合	2	0	0	1	0	1	2	3,048	13	4,081	こころ	0	0	1	0	0	0	4	432	6	585	こども	0	3	4	0	1	0	5	3,221	3	1,432	計	2	3	5	1	1	1	11	6,701	22	6,098	<p>各病院では、感染対策委員会や医療安全委員会を行う他、研修についても法定回数を上回る実績を積んでいる等、継続的な対策研修の実施体制が確立している。</p> <p>令和3年度も、新型コロナウイルス感染症の院内感染対策として、感染対策室を中心とした中核要員によるチームが感染防止に関する取組や情報収集などを担い、県との調整のうえ患者の受入を適切に行っている。</p> <p>また、令和3年度中にはVRE(バンコマイシン耐性腸球菌)の集団感染が発生を1件確認している。標準予防策および接触感染予防策の徹底を実施して対応した。</p>	<p>・院内感染対策・医療安全対策研修を継続的に実施しており、安全・安心な医療の提供に関する職員への意識付けが行われている。</p> <p>・令和3年度は、令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策も踏まえた内容を扱い、法定回数をはるかに超える回数を実施している。</p> <p>・総合病院においては、新型コロナウイルス感染症対策に特化した院内感染対策チームが、県や市保健所等との情報共有や患者受入れに関する調整などを行っており、県立病院として、本県の新型コロナウイルス対策において重要な役割を果たし、地域医療の確保に貢献している。</p>	14		☆																																																																																																																																								
区分	集団感染数(件)						院内感染対策研修 医療安全対策研修																																																																																																																																																																																																																							
	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3年度末		3年度末																																																																																																																																																																																																																					
							研修数(回)	参加者数(人)	研修数(回)	参加者数(人)																																																																																																																																																																																																																				
総合	2	0	0	1	0	1	2	3,048	13	4,081																																																																																																																																																																																																																				
こころ	0	0	1	0	0	0	4	432	6	585																																																																																																																																																																																																																				
こども	0	3	4	0	1	0	5	3,221	3	1,432																																																																																																																																																																																																																				
計	2	3	5	1	1	1	11	6,701	22	6,098																																																																																																																																																																																																																				

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																					
						説明																																										
			7	④⑤固定チームナーシングによる看護提供を行うことで、看護の継続性を図り、患者の安心を高める。	<p>「患者様の声」の推移(看護師) (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ご意見</td> <td>57</td> <td>92</td> <td>85</td> <td>81</td> <td>53</td> <td>79</td> </tr> <tr> <td>感謝</td> <td>37</td> <td>28</td> <td>29</td> <td>40</td> <td>34</td> <td>37</td> </tr> </tbody> </table> <p>患者満足度調査 (単位:%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>3目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院</td> <td>97.8</td> <td>98.2</td> <td>98.9</td> <td>98.0</td> <td>98.2</td> <td>97.6</td> <td>90以上</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	ご意見	57	92	85	81	53	79	感謝	37	28	29	40	34	37	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	入院	97.8	98.2	98.9	98.0	98.2	97.6	90以上	A	<p>令和3年度の看護師に対する「患者様の声」の件数は、令和2年度実績値を上回った。今後も寄せられた意見を参考に質の高い看護を提供できるよう努める。</p>	<p>・「患者様の声」の件数は面会制限を行った令和2年度と比較して増加した。 ・固定したチームメンバーで受け持ち患者を分担して看護を行う「固定チームナーシング方式」のもと、入院から退院まで看護が展開されている。 ・看護師メンバーが固定されることで、患者に寄り添った質の高い看護の提供が可能となり、患者との間に信頼関係が強くなるものと考えられる。</p>			
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																										
ご意見	57	92	85	81	53	79																																										
感謝	37	28	29	40	34	37																																										
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																									
入院	97.8	98.2	98.9	98.0	98.2	97.6	90以上																																									
			8	⑤患者の視点に立った質の高い医療の提供を目指し、患者満足度調査を行い、患者満足度の改善につなげる。	<p>患者満足度調査 (単位:%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>3目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>入院 97.8 外来 93.2</td> <td>入院 98.2 外来 94.0</td> <td>入院 98.9 外来 94.3</td> <td>入院 98.0 外来 93.6</td> <td>入院 98.2 外来 94.3</td> <td>入院 97.6 外来 95.6</td> <td>入院 90以上 外来 85以上</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>入院 — 外来 88.5</td> <td>入院 — 外来 94.4</td> <td>入院 — 外来 91.0</td> <td>入院 — 外来 95.7</td> <td>入院 — 外来 92.7</td> <td>入院 — 外来 100.0</td> <td>入院 — 外来 85以上</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>入院 98.4 外来 98.1</td> <td>入院 97.5 外来 99.3</td> <td>入院 96.1 外来 98.9</td> <td>入院 99.0 外来 98.1</td> <td>入院 95.3 外来 96.5</td> <td>入院 100.0 外来 97.3</td> <td>入院 90以上 外来 90以上</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	総合	入院 97.8 外来 93.2	入院 98.2 外来 94.0	入院 98.9 外来 94.3	入院 98.0 外来 93.6	入院 98.2 外来 94.3	入院 97.6 外来 95.6	入院 90以上 外来 85以上	こころ	入院 — 外来 88.5	入院 — 外来 94.4	入院 — 外来 91.0	入院 — 外来 95.7	入院 — 外来 92.7	入院 — 外来 100.0	入院 — 外来 85以上	こども	入院 98.4 外来 98.1	入院 97.5 外来 99.3	入院 96.1 外来 98.9	入院 99.0 外来 98.1	入院 95.3 外来 96.5	入院 100.0 外来 97.3	入院 90以上 外来 90以上	S	<p>総合病院における令和3年度満足度調査は目標値を上回った。特に、施設に関する改善要望に関しては、リニューアル工事における病室、相談室、共用部トイレ等の改修を行うなど、適切に対応を行った。</p> <p>こころの医療センターにおける令和3年度満足度調査の回答は、満足もしくはどちらかと言えば満足との内容であった。病院スタッフの対応や相談のしやすさが主に評価されたものである。</p> <p>こども病院における令和3年度満足度調査結果は、入院、外来ともに目標(90%以上)を上回った。過去に売店についてスペース拡充・商品充実の要望が多かったため、改修工事を実施し、令和2年3月にコンビニエンスストアをオープンした。その結果、売店に対する満足度は上昇し、令和3年度も90%以上を維持している。また、院内の投書にもコンビニの品揃えが充実していったことに対する感謝が継続的に寄せられた。</p>	<p>・患者満足度調査を毎年実施し、調査結果をもとに患者サービスの向上につながるよう、きめ細かい改善策が講じられている。 ・こども病院の売店スペースの拡充により、バギーを伴った店内の移動が可能になるなど、患者家族の利便性の向上につながっていることが調査結果にも反映されている。 ・総合病院、こころの医療センターにおいても、患者の意見を施設改修や業務改善につなげており、引き続き、各病院とも患者の視点に立った対応が期待される。</p>	1	1	☆					
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																									
総合	入院 97.8 外来 93.2	入院 98.2 外来 94.0	入院 98.9 外来 94.3	入院 98.0 外来 93.6	入院 98.2 外来 94.3	入院 97.6 外来 95.6	入院 90以上 外来 85以上																																									
こころ	入院 — 外来 88.5	入院 — 外来 94.4	入院 — 外来 91.0	入院 — 外来 95.7	入院 — 外来 92.7	入院 — 外来 100.0	入院 — 外来 85以上																																									
こども	入院 98.4 外来 98.1	入院 97.5 外来 99.3	入院 96.1 外来 98.9	入院 99.0 外来 98.1	入院 95.3 外来 96.5	入院 100.0 外来 97.3	入院 90以上 外来 90以上																																									

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																															
						説明																																																				
(3) 県立病院が重点的に取り組む医療 県立総合病院においては、先端医学棟の設備・機能を最大限に活用し、3大疾患(がん、脳血管疾患、心疾患)を中心に高度・専門医療や急性期医療等を提供すること。また、高度救命救急センターの運用による広範囲熱傷等の特殊疾病患者の受入れ等、高度救急医療を継続して提供するほか、広域的な救急医療の提供への対応を図ること。 なお、中期目標期間の各事業年度において、病床利用率90%以上、入院患者満足度90%以上、外来患者満足度85%以上の達成を目指すこと。 県立こころの医療センターにおいては、精神科救急・急性期医療の提供や他の医療機関では対応困難な治療の実施及び司法精神医療の充実を図るほか、多様な精神疾患への対応や早期入院・早期社会復帰を支援する医療提供体制の充実に努めること。 なお、中期目標期間の各事業年度において、病床利用率85%以上、外来患者満足度85%以上の達成を目指すこと。	(3) 県立病院が重点的に取り組む医療 県が掲げる6疾病5事業を念頭に、各県立病院が専門性を活かしつつ、県立病院間や地域の医療機関との連携を強化して、病態に即した確かな医療を提供する。特に、全国的な課題とされている救急医療や急性期医療の充実に重点的に取り組む。	(3) 県立病院が重点的に取り組む医療 各県立病院は、県が求める政策医療を念頭に、それぞれの特性を生かし、以下の医療に重点的に取り組む。	-	-	-	-	-																																																			
			-	-	-	-	-	-																																																		
			-	-	-	-	-	-	-																																																	
	ア 循環器疾患・がん疾患については、小児は県立こども病院が、成人は県立総合病院がそれぞれ県内の中核病院の機能を果たしている。	ア 循環器疾患・がん疾患については、小児は県立こども病院が、成人は県立総合病院がそれぞれ県内の中核病院の機能を果たしている。	-	-	-	-	-																																																			
	イ 周産期医療における産科合併症及び脳卒中等産科以外の疾患による合併症や精神科患者の身体合併症などについては、各県立病院が連携して取り組む。	イ 周産期医療における産科合併症及び脳卒中等産科以外の疾患による合併症や精神科患者の身体合併症などについては、各県立病院が連携して取り組む。	14	・周産期医療、精神科患者の身体合併症、認知症に対して、機構内3病院が連携し、より適切な医療の提供を行う。	児童の措置入院等、こども病院での受入れが困難な場合はこころの医療センターにて受入れている。 周産期医療における搬送実績 (単位: 件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こども→総合</td> <td>3</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>総合→こども</td> <td>11</td> <td>15</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table> こころの医療センターの精神科医師の総合病院への配置状況 (単位: 人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こころ→総合</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> こころの医療センターから総合病院への身体合併症による搬送件数 (単位: 人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こころ→総合</td> <td>7</td> <td>4</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	こども→総合	3	7	8	7	3	3	総合→こども	11	15	13	13	13	9	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	こころ→総合	0	0	0	1	2	2	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	こころ→総合	7	4	9	6	4	8	3病院1法人のメリットを活かし、患者の搬送、医師の応援体制等病院間の連携協力体制を構築している。 総合病院に常勤の精神科医師を2名配置し、精神科医療体制の構築に向けた連携を実施している。 また、こころの医療センターとこども病院の精神科医師が定期的に合同症例検討会を実施してきたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う各病院の感染対策を優先させていることもあり、令和3年度は開催を見送った。引き続き相互連携を図るために、感染状況を踏まえた上で再開する。 こども病院から総合病院に母体搬送が行われている。同一法人のメリットを活かし、搬送時のスムーズな医師の応援派遣や設備の有効活用が図られた。 今後、総合病院精神科棟の整備にあたり、精神科医師が中心となり、機構における精神科医療のあり方や役割分担を含めた検討を進める。	・認知症をはじめとした精神科患者における身体合併症、周産期医療における合併症への対応等において、3病院の各特性を活かして相互に連携が図られている。 ・令和3年度も引き続き、こども病院から総合病院へ母体搬送が行われるなど、医師の応援派遣や設備の有効活用といった、同一法人の利点が活かされている。 ・こころの医療センターから総合病院へ精神科医2人を配置し、精神科リエゾンチーム、認知症ケアチーム、緩和ケアチームに参画することで、診療報酬加算の算定件数増に大きく貢献している。 ・総合病院においては、精神科棟の整備に向け、令和3年度から設計に着手しており、重篤な身体合併症患者の受入れに向け、体制整備を図っている。 ・機構3病院の連携体制の更なる強化を進めるとともに、精神科医師の配置がチーム医療等の各方面に及ぼした効果等も十分に分析の上、検討していくことが期待される。	14	○
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																				
こども→総合	3	7	8	7	3	3																																																				
総合→こども	11	15	13	13	13	9																																																				
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																				
こころ→総合	0	0	0	1	2	2																																																				
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																				
こころ→総合	7	4	9	6	4	8																																																				

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																																																																																																				
						説明																																																																																																																																									
	ウ	結核指定医療機関、エイズ拠点病院及び難病医療協力病院等として感染症医療や難病医療、移植医療、アレルギー疾患医療に着実に取り組む。	ウ	結核指定医療機関、エイズ拠点病院及び難病医療協力病院等として感染症医療や難病医療、移植医療、アレルギー疾患医療に着実に取り組む。 特に、SARS-CoV-2(新型コロナウイルス)などの感染症について、県と連携、協力して拡大防止に対応できる体制を整備する。	15	<p>・新型コロナウイルスなどの感染症について、県と連携、協力して拡大防止に対応できる体制を整備する。 【総】・結核病棟を維持する。また各種感染症や難病、アレルギー疾患医療は県内医療機関との連携・協力関係を進める。 【総・子】・腎臓移植、造血幹細胞移植、強角膜片作成(総合病院のみ)等への取組みを継続する。 【子】・アレルギー疾患拠点病院として、講習会の実施等の取組みを継続する。</p> <p>総合・こころ・子ども</p> <p>(総合) 結核病棟は50床で運用している。エイズ拠点病院としてエイズ患者の受入体制を整えている。</p> <table border="1"> <caption>入院患者数 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>エイズ</td> <td colspan="6">非公開</td> </tr> <tr> <td>結核</td> <td>119</td> <td>108</td> <td>111</td> <td>92</td> <td>95</td> <td>85</td> </tr> </tbody> </table> <p>移植実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>腎移植</td> <td>14</td> <td>18</td> <td>14</td> <td>17</td> <td>12</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>造血幹細胞移植</td> <td>11</td> <td>8</td> <td>17</td> <td>14</td> <td>13</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>強角膜片作成</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>28</td> <td>30</td> <td>33</td> <td>34</td> <td>26</td> <td>22</td> </tr> </tbody> </table> <p>(子ども) 腎臓移植は、平成27年度に3件、平成28年度に2件、平成29年度に2件、平成30年度に1件、令和元年度に1件、令和2年度は0件だった。令和3年度は0件だった。</p> <p>造血幹細胞移植実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>骨髄移植</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>8</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>臍帯血</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>自家末梢血</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>同種末梢血</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>14</td> <td>10</td> <td>12</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> <p>アレルギー疾患に関する研修会・講演会開催件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>子ども</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> <p>アレルギー教室開催実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> <p>新型コロナウイルス感染症受入体制 総合 令和2年4月から8月まで20床(6A病床) 令和2年9月から12月まで18床(3D病棟)(陰圧病棟2床、個室4床を含む) 令和3年1月から9月まで27床(6A病棟)(透析病棟3床を含む) 令和3年10月から47床(6A病棟 29床、3D病棟 18床) 令和3年11月から16床(3D病棟16床) 令和4年2月から24床(6A病棟24床) こころ 令和2年4月から4床(2床はスタッフ用) 子ども 令和2年4月から令和3年7月まで4床(PICU) 令和3年8月から10床(PICU、MFICU、NICU、北4病棟)</p>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	エイズ	非公開						結核	119	108	111	92	95	85	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	腎移植	14	18	14	17	12	10	造血幹細胞移植	11	8	17	14	13	12	強角膜片作成	3	4	2	3	1	0	計	28	30	33	34	26	22	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	骨髄移植	4	2	5	2	8	3	臍帯血	2	1	3	3	2	2	自家末梢血	5	7	4	4	1	1	同種末梢血	0	0	2	1	1	0	計	11	10	14	10	12	6	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	総合	-	-	1	1	0	1	子ども	3	4	4	3	2	2	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	件数	2	3	3	3	1	2	<p>(総合) 令和3年度も、新型コロナウイルス感染症に係る院内検査及び患者受入体制の充実に努めた。 特に、令和3年8月20日に発令された緊急事態宣言を受け、9月までに本館医局等を感染症専門病棟として再整備するなど、感染拡大に備え、令和3年10月以降は最大47床(本館6階 29床、本館3階 18床)を確保した。 結核病棟については、結核病床を有する病院の多くが新型コロナウイルス感染症病床へ切り替える状況において、当院は50床を維持し、県内における結核患者の8割以上を受入可能な体制を整えている。 移植については、生体移植を含めた腎移植、造血幹細胞移植、強角膜片作成を実施している。令和3年度の移植件数は、令和2年度実績と同数程度となった。 (こころ) 県の要請により新型コロナウイルス感染症に対応する病床を4床(うち2床をスタッフ用)を整備し、令和2年4月から運用している。令和3年度は新型コロナウイルス感染症感染患者を2名、延19日間受け入れた。 (子ども) 新型コロナウイルス感染症に対応するため、令和2年4月からPICUにおいて4床確保した。また、令和3年8月以降、MFICUで1床、NICUで2床、北4病棟で3床を確保した。 また、移植医療に関しては、適用患者の数に変動はあるため、実績値の増減はあるが先進的医療である造血幹細胞移植に継続して取り組んでいる。 また、アレルギー疾患に関する県民向け・医療者向けの講習会を実施し、地域のアレルギー疾患医療のレベルアップを図っているが、令和3年度も昨年と同様、新型コロナウイルス感染症の影響により開催回数が減少した。</p>	<p>・政策医療として、結核、エイズ等の感染症医療、難病医療、移植医療、アレルギー疾患医療等を提供し、県立病院としての役割を果たしている。</p> <p>・総合病院においては、無菌病棟の整備により、清潔な環境下で化学療法や移植後の管理を行う体制が整い、造血幹細胞移植を継続して実施している。</p> <p>・総合病院とこども病院は、平成30年10月、アレルギー疾患の診療経験が豊富な専門的知識・技能を有する医師が常勤する、県アレルギー疾患拠点病院(県内で7病院)として選定されており、アレルギー疾患にかかる専門治療の提供、普及啓発、人材育成を推進している。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症に関しては、令和3年度末時点で、総合病院で24床、こころの医療センターで4床(うち患者受入可能2床)、こども病院で10床を確保して、患者を受け入れており、3病院ともに、県立病院として、県内の医療提供体制確保に貢献している。</p> <p>・また、コロナ禍においても、感染症医療のうち、結核については、病床を確保する必要があり、総合病院においては、県内医療機関の役割分担のもと、結核病床を有する病院の多くが、結核病床をコロナ感染症病床へ切り替える一方で、県内最大規模の結核病床(50床)を維持しており、県全体の結核対策に貢献している。</p>	14	☆
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																									
エイズ	非公開																																																																																																																																														
結核	119	108	111	92	95	85																																																																																																																																									
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																									
腎移植	14	18	14	17	12	10																																																																																																																																									
造血幹細胞移植	11	8	17	14	13	12																																																																																																																																									
強角膜片作成	3	4	2	3	1	0																																																																																																																																									
計	28	30	33	34	26	22																																																																																																																																									
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																									
骨髄移植	4	2	5	2	8	3																																																																																																																																									
臍帯血	2	1	3	3	2	2																																																																																																																																									
自家末梢血	5	7	4	4	1	1																																																																																																																																									
同種末梢血	0	0	2	1	1	0																																																																																																																																									
計	11	10	14	10	12	6																																																																																																																																									
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																									
総合	-	-	1	1	0	1																																																																																																																																									
子ども	3	4	4	3	2	2																																																																																																																																									
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																									
件数	2	3	3	3	1	2																																																																																																																																									

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																							
						説明																																																												
<p>県立こども病院においては、小児重症心疾患患者やハイリスク胎児・妊婦、新生児に対する高度・先進医療を提供すること。また、小児がん拠点病院としての機能強化、高度な小児救急医療の充実及び児童精神分野の医療の充実を図るほか、患者の円滑な退院・在宅移行を支援する体制整備に努めること。</p> <p>なお、中期目標期間の各事業年度において、病床利用率75%以上、入院患者満足度90%以上、外来患者満足度90%以上の達成を目指すこと。</p> <p>さらに、県立3病院は、結核、エイズ等の感染症医療や難病医療、移植医療、アレルギー疾患医療等を提供すること。また、認知症をはじめとした精神科患者の身体合併症、周産期医療における産科合併症以外の合併症及び二次的障害を含む発達障害への対応など、一病院では対応が困難な分野においては、県立3病院のそれぞれの特性を活かし、相互に連携を取り、適切な対応を図ること。</p> <p>その他、移行期医療や医療的ケア児への対応など新たな課題に取り組み、今後の疾病構造や県民の医療ニーズの変化等に対応し、県が求める政策医療に協力すること。また、医療施設や機器の整備については計画的に実施するとともに、県民の医療ニーズの変化や医療技術の進展に応じ、機動的な対応を行うこと。</p>	<p>エ リハビリテーションや相談援助の体制を充実し、患者の社会復帰、生活支援、就学・就労につながる支援等に取り組む。</p>	<p>エ リハビリテーションや相談援助の体制を充実し、患者の社会復帰、生活支援、就学・就労につながる支援等に取り組む。</p>	16 ~ 18	<p>【総】・リハビリテーション、相談援助・支援を強化し、退院調整を積極的に行う。</p> <p>【心】・患者の社会復帰に向け、リハビリテーション活動を充実させる。</p> <p>【心】・患者の地域での生活を支援するため、訪問看護を充実させる。</p> <p>【子】・言語聴覚業務における学校現場との連携、理学療法における退院後のフォロー、作業療法における急性期作業療法他の充実を図る。</p>	<p>患者サポートセンター退院調整件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>2,204</td> <td>3,217</td> <td>6,810</td> <td>5,217</td> <td>6,007</td> <td>6,517</td> </tr> </tbody> </table> <p>退院支援関係診療報酬算定件数実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>退院調整加算(旧)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>退院調整加算1(新)</td> <td>1,054</td> <td>1,879</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>入院支援加算1※</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>4,816</td> <td>3,987</td> <td>5,403</td> <td>6,008</td> </tr> <tr> <td>退院時リハビリテーション指導料</td> <td>601</td> <td>705</td> <td>530</td> <td>1,113</td> <td>3,529</td> <td>2,957</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,655</td> <td>2,584</td> <td>5,346</td> <td>5,100</td> <td>8,932</td> <td>8,965</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	件数	2,204	3,217	6,810	5,217	6,007	6,517	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	退院調整加算(旧)	—	—	—	—	—	—	退院調整加算1(新)	1,054	1,879	—	—	—	—	入院支援加算1※	—	—	4,816	3,987	5,403	6,008	退院時リハビリテーション指導料	601	705	530	1,113	3,529	2,957	計	1,655	2,584	5,346	5,100	8,932	8,965	<p>A 患者サポートセンターの看護師、MSWや理学療法士等が中心となり、入院早期から退院調整を積極的に支援している。</p>	<p>・入院調整の窓口である地域医療ネットワークセンターにおいては、各種会議・勉強会への参加、地域連携バスの運用などを通じて地域の医療機関との顔の見える関係を構築している。</p> <p>・退院調整件数や診療報酬算定件数としての入院支援加算は令和2年度より増加した。</p> <p>・特に退院時リハビリテーション指導料の増加については、令和2年度の医事課とリハビリテーション科との連携に伴い、円滑に算定できるよう運用の見直しが行われたことにより、高い水準を維持している。</p>			
					区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																							
					件数	2,204	3,217	6,810	5,217	6,007	6,517																																																							
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																												
退院調整加算(旧)	—	—	—	—	—	—																																																												
退院調整加算1(新)	1,054	1,879	—	—	—	—																																																												
入院支援加算1※	—	—	4,816	3,987	5,403	6,008																																																												
退院時リハビリテーション指導料	601	705	530	1,113	3,529	2,957																																																												
計	1,655	2,584	5,346	5,100	8,932	8,965																																																												
				<p>リハビリテーション活動及び訪問看護を通じて、患者の社会復帰を支援している。また、在宅においてよりの確かな支援を行うため、訪問看護の充実を図り、看護師に加えて精神保健福祉士や作業療法士などを含めた複数訪問の積極的な実施に努めている。</p> <p>リハビリテーション活動実施件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>精神科作業療法</td> <td>7,649</td> <td>5,992</td> <td>5,494</td> <td>4,483</td> <td>5,427</td> <td>4,561</td> </tr> <tr> <td>デイケア</td> <td>4,448</td> <td>5,955</td> <td>6,023</td> <td>4,462</td> <td>2,653</td> <td>1,388</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>12,097</td> <td>11,947</td> <td>11,517</td> <td>8,945</td> <td>8,080</td> <td>5,949</td> </tr> </tbody> </table> <p>訪問看護実施件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問看護実施件数</td> <td>3,522</td> <td>4,068</td> <td>3,996</td> <td>3,704</td> <td>3,841</td> <td>3,643</td> </tr> <tr> <td>(うち複数訪問)</td> <td>147</td> <td>76</td> <td>31</td> <td>38</td> <td>46</td> <td>37</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	精神科作業療法	7,649	5,992	5,494	4,483	5,427	4,561	デイケア	4,448	5,955	6,023	4,462	2,653	1,388	計	12,097	11,947	11,517	8,945	8,080	5,949	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	訪問看護実施件数	3,522	4,068	3,996	3,704	3,841	3,643	(うち複数訪問)	147	76	31	38	46	37	<p>B 新型コロナウイルス感染症感染防止のため、入院患者に対する病棟外作業療法は参加人数を絞ったうえでリモートで行う等工夫しながら実施した。外来のデイケア活動は、昼食を跨がないショートケアのみを最大10人までに絞って開催したが、感染拡大の影響を受けて中止となる期間が長引いた。</p>	<p>・平均在院日数を短縮し、社会復帰に向けたリハビリや地域での生活を支援する訪問看護は重要である。</p> <p>・リハビリ実施件数は近年減少傾向である。特に精神科作業療法は主に入院患者を対象としたものであるが、入院患者数の減少や重症患者の比率増加により、年々件数が減少してきている。</p> <p>・リハビリ実施件数のうち、デイケアの件数については、緊急事態宣言発令期間(8月中旬から10月末)に受入れを一時制限したため、令和2年度より更に減少しているが、動画配信やリモート(Zoom)による集団プログラムなど、感染症拡大防止対策をとりつつ、患者の社会復帰を支援している。</p> <p>・リハビリ導入対象者に向けて、デイケアプログラムの必要性やメリットをわかりやすく記載したポスターの掲示やパンフレットのリニューアルなど、新規導入者増加に向けた取組について、更なる取組を期待する。</p>	15		△								
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																												
精神科作業療法	7,649	5,992	5,494	4,483	5,427	4,561																																																												
デイケア	4,448	5,955	6,023	4,462	2,653	1,388																																																												
計	12,097	11,947	11,517	8,945	8,080	5,949																																																												
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																												
訪問看護実施件数	3,522	4,068	3,996	3,704	3,841	3,643																																																												
(うち複数訪問)	147	76	31	38	46	37																																																												
				<p>リハ実施実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>3目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理学療法</td> <td>17,504</td> <td>18,944</td> <td>17,309</td> <td>22,829</td> <td>22,985</td> <td>24,683</td> <td>15,000</td> </tr> <tr> <td>作業療法</td> <td>6,010</td> <td>6,656</td> <td>6,039</td> <td>4,546</td> <td>3,813</td> <td>7,794</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>言語聴覚療法</td> <td>8,656</td> <td>7,306</td> <td>7,901</td> <td>9,744</td> <td>10,162</td> <td>10,045</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>32,170</td> <td>32,906</td> <td>31,249</td> <td>37,119</td> <td>36,960</td> <td>42,522</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	理学療法	17,504	18,944	17,309	22,829	22,985	24,683	15,000	作業療法	6,010	6,656	6,039	4,546	3,813	7,794	—	言語聴覚療法	8,656	7,306	7,901	9,744	10,162	10,045	—	計	32,170	32,906	31,249	37,119	36,960	42,522	—	<p>A リハビリ実施件数は令和3年度目標を超え、令和2年度実績を上回った。特に理学療法・作業療法は前年度実績を大きく上回り、今後もさらなる質の向上を図っていく。</p>	<p>・リハビリ実施件数は理学療法、作業療法、言語聴覚療法のいずれも高い水準を維持しており、理学療法については、令和2年度より増加傾向であり、目標値を大幅に上回った。</p> <p>・令和元年度からリハビリテーション科を新たに組織し、専任のリハビリテーション医のもと、患者の社会生活支援、就学等に取り組んでいる。</p>																				
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																											
理学療法	17,504	18,944	17,309	22,829	22,985	24,683	15,000																																																											
作業療法	6,010	6,656	6,039	4,546	3,813	7,794	—																																																											
言語聴覚療法	8,656	7,306	7,901	9,744	10,162	10,045	—																																																											
計	32,170	32,906	31,249	37,119	36,960	42,522	—																																																											
	<p>オ 遺伝子解析・診断を活用した疾患の予防、治療及び相談支援に取り組む。</p>	<p>オ 遺伝子解析・診断を活用した疾患の予防、治療及び相談支援に取り組む。</p>	19	<p>・遺伝子診療に関して、体制の整備・充実を図る。</p>	<p>遺伝診療科受診者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受診者数</td> <td>39</td> <td>86</td> <td>101</td> <td>146</td> <td>227</td> <td>233</td> </tr> </tbody> </table> <p>【参考】エキスパートパネル実施件数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受診者数</td> <td>38</td> <td>46</td> </tr> </tbody> </table> <p>【参考】遺伝カウンセリング件数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受診者数</td> <td>227</td> <td>233</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	受診者数	39	86	101	146	227	233	区分	2年度	3年度	受診者数	38	46	区分	2年度	3年度	受診者数	227	233	<p>S 臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラーを始めとする遺伝分野の専門スタッフを配置したゲノム医療センターでは、令和3年度には臨床遺伝専門医を1名増員するなど体制を強化し、がんゲノム関連検査、遺伝性腫瘍症候群、遺伝性疾患等の診療を行っている。</p> <p>遺伝診療に関する診療は増加傾向にあり、令和3年度の受診者数は、令和2年度実績を上回った。また、エキスパートパネルや遺伝カウンセリングの件数についても増加している。特に静岡がんセンターの連携病院(中部地区で唯一の施設)として令和2年度から実施しているエキスパートパネルの件数は、増加している。</p>	<p>・平成27年度の遺伝診療科開設以降、平成30年3月のがんゲノム医療連携拠点病院指定、令和元年9月のゲノム医療センター新設等の体制強化に加え、令和元年6月からのがん遺伝子パネル検査の保険適用開始も影響し、遺伝診療科受診者数は年々増加している。</p> <p>・がんゲノム医療連携病院として、令和2年度から静岡がんセンターと連携してエキスパートパネル(がん遺伝子パネル検査の結果を医学的に解釈するための多職種による検討会)を開始している。</p> <p>・ゲノム医療センターにおいて、令和3年度は臨床遺伝専門医を1名増員し更なる体制強化を図っている。遺伝診療科受診者数は、令和2年度227人に対して、令和3年度は233人と増加傾向であり、エキスパートパネルや遺伝カウンセリングの件数も増加するなど、遺伝子解析・診断を活用した相談支援の充実による効果が現れている。</p>	16		☆																														
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																												
受診者数	39	86	101	146	227	233																																																												
区分	2年度	3年度																																																																
受診者数	38	46																																																																
区分	2年度	3年度																																																																
受診者数	227	233																																																																

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																											
						説明																																																
	カ	認知症については、鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の実施に取り組む。発達障害については、早期療育につながる鑑別診断や治療を実施する。また、地域の保健福祉関係者への助言等の医学的支援や、医療従事者や教育関係者に対する研修の実施に取り組む。	カ	認知症については、鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の実施に取り組む。発達障害については、早期療育につながる鑑別診断や治療を実施する。また、地域の保健福祉関係者への助言等の医学的支援や、医療従事者や教育関係者に対する研修の実施に取り組む。	20 ～ 22	<p>【総】・こころの医療センター、こども病院と連携し、精神科病棟設置に向けた検討・準備を進める。</p> <p>・鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、認知症ケアチームの介入、専門医療相談等を推進する。</p> <p>・精神科リエゾンチームの運営を開始し、精神科外来の業務を確立する。</p> <p>【心】・症状が重篤な認知症患者を受け入れるための、精神科救急・急性期医療体制を確保する。</p> <p>【心】・老年期特有の専門外来(老年期こころ物忘れ外来)により専門的な医療相談を実施する。</p> <p>【子】・発達障害については、従来からの新生児退院診察や、新生児包括外来における低体重出生児の発達フォローを継続し、保護者向けのペアレントトレーニングについても継続して取り組む。</p>	<p>脳FDG-PET (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施件数</td> <td>135</td> <td>147</td> <td>161</td> <td>160</td> <td>128</td> <td>142</td> </tr> </tbody> </table> <p>認知症ケア及び精神科リエゾンチームに係る加算 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認知症ケア</td> <td>803</td> <td>10,494</td> <td>8,306</td> <td>7,163</td> <td>6,202</td> <td>5,246</td> </tr> <tr> <td>精神科リエゾンチーム</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1,743</td> <td>2,316</td> <td>1,671</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>8,906</td> <td>8,518</td> <td>6,917</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	実施件数	135	147	161	160	128	142	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	認知症ケア	803	10,494	8,306	7,163	6,202	5,246	精神科リエゾンチーム	-	-	-	1,743	2,316	1,671					8,906	8,518	6,917	A	令和3年度は、精神科病棟の整備に関する基本設計・実施設計に着手し、年度内に完了した。脳疾患(てんかん、認知症)及び脳腫瘍の診断等に用いる脳FDG-PETの実施件数は年間150件程度であるが、令和3年度は令和2年度の減少分が戻っており、増加に転じた。認知症ケア加算と精神科リエゾンチーム加算の算定件数は令和2年度より増加しており、総合病院では認知症ケアチームが週1回カンファレンスを実施し、早期介入を行うことで認知症状の悪化予防に取り組んでいる。高齢化を背景に今後も増加が見込まれる認知症患者に対して、各病院が連携して早期発見・早期対応に努めるとともに、地域の医療機関との連携や医療従事者の育成等も期待される。			
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																
実施件数	135	147	161	160	128	142																																																
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																
認知症ケア	803	10,494	8,306	7,163	6,202	5,246																																																
精神科リエゾンチーム	-	-	-	1,743	2,316	1,671																																																
				8,906	8,518	6,917																																																
				こころ		<p>認知症入院患者件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認知症入院患者</td> <td>12</td> <td>11</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table> <p>老年期こころ物忘れ外来実施件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>老年期こころ物忘れ外来実施件数</td> <td>573</td> <td>441</td> <td>483</td> <td>387</td> <td>330</td> <td>340</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	認知症入院患者	12	11	9	6	6	12	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	老年期こころ物忘れ外来実施件数	573	441	483	387	330	340	A	令和3年度のこころ物忘れ外来の件数は340件であった。また、認知症を主たる要因として入院となった患者数は12人であった。																		
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																
認知症入院患者	12	11	9	6	6	12																																																
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																
老年期こころ物忘れ外来実施件数	573	441	483	387	330	340																																																
				こども		<p>発達障害児を持つ保護者を対象に、医師や保育士を中心にペアレント・トレーニングを例年行っているが、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響で実施していない。中期計画期間中、新生児退院診察を実施している。また、新生児包括外来における低出生体重児の発達フォローを隔週1回実施している。</p> <p>発達小児科外来患者数等 (単位:人、件数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>発達小児科外来症患者数</td> <td>3,563</td> <td>3,871</td> <td>4,014</td> <td>4,233</td> <td>4,272</td> <td>4,439</td> </tr> <tr> <td>ペアレントトレーニング等件数</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>新生児包括外来実績 (単位:件数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>低出生体重児への発達フォロー件数</td> <td>210</td> <td>170</td> <td>207</td> <td>207</td> <td>175</td> <td>184</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	発達小児科外来症患者数	3,563	3,871	4,014	4,233	4,272	4,439	ペアレントトレーニング等件数	10	10	10	10	0	0	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	低出生体重児への発達フォロー件数	210	170	207	207	175	184	A	令和3年度の発達小児科外来患者数及び新生児包括外来実績は令和2年度と同水準で推移している。家族へのペアレントトレーニングは新型コロナウイルス感染症の影響により開催できなかった。また、地域医療の質の向上に向けて、東部地区に発達障害を扱う医師が少ないことから、令和元年度以降県と連携して東部地区の医師に対し研修を行っているが、令和3年度は主催である県が新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して伊豆地区の医療機関での小規模実施としたため、当院は依頼を受けていない。											
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																
発達小児科外来症患者数	3,563	3,871	4,014	4,233	4,272	4,439																																																
ペアレントトレーニング等件数	10	10	10	10	0	0																																																
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																
低出生体重児への発達フォロー件数	210	170	207	207	175	184																																																

16

○

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																
						説明																																																					
	キ 移行期医療や医療的ケア児への対応など新たな課題については、県と連携して取り組む。	キ 移行期医療支援センターの運用などによる移行期医療や医療的ケア児への対応など新たな課題については、県と連携して取り組む。	23	各病院	<p>・新型コロナウイルスなどの感染症について、県と連携、協力して拡大防止に対応できる体制を整備する。</p> <p>・機構内各病院や他医療機関、県などと連携して移行期医療及び成人期医療を提供する。</p> <p>・【こころ】思春期及び小児科から成人への移行期における精神科医療体制の強化を図る。</p> <p>・【子】県担当課と協議しつつ、受託した移行期医療支援センターの運営を行い、業務内容の充実を図る。</p> <p>・【子】医療的ケア児のレスパイト対応のための受入れ体制を構築する。</p>	<p>移行期医療件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こども一総合</td> <td>626</td> <td>650</td> <td>610</td> <td>666</td> <td>995</td> <td>1,367</td> </tr> <tr> <td>こども→こころ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>19</td> <td>18</td> <td>15</td> </tr> </tbody> </table> <p>関連するカンファレンス等の開催実績 (単位:回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こころ・こども精神科医師合同カンファレンスの開催実績</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>移行期医療センターに関する県との打合せ実施回数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>医療的ケア児のレスパイト対応に関する打合せ実施回数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	こども一総合	626	650	610	666	995	1,367	こども→こころ	-	-	-	19	18	15	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	こころ・こども精神科医師合同カンファレンスの開催実績	-	-	2	5	0	0	移行期医療センターに関する県との打合せ実施回数	-	-	1	6	4	3	医療的ケア児のレスパイト対応に関する打合せ実施回数	-	-	5	3	6	6	<p>新型コロナウイルス感染症への対応については、総合病院及びこども病院が県から重点医療機関に指定されるなど、各病院において患者受入体制を整備し、県と調整のうえ患者の受入を行ってきた。</p> <p>令和3年8月、緊急事態宣言の発令を受け、総合病院では一時、感染症対応病棟を47床に増床するなど、各病院において最大限の対応を行った。年度末時点では機構内で計38床を確保している。(総合24床)</p> <p>移行期医療への対応については、機構内における医療情報システム(電子カルテシステム)の統合を検討している。これにより、患者情報の病院間の相互参照が可能となり、医療サービスの向上が期待される。</p> <p>(総合)</p> <p>令和2年2月に開設した成人先天性心疾患科では、こども病院循環器科との連携により、先天性心疾患や遺伝性心疾患を持つ患者を対象に診察を行っている。</p> <p>令和3年度の受診者数は、令和2年度実績を大きく上回った。</p> <p>(こころ)</p> <p>こども病院との合同カンファレンスについては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、病院の感染対策を優先していることもあって実施を見送った。</p> <p>令和4年度中には機構における県立3病院の精神科医療のあり方を検討し、時代のニーズに応えた医療提供体制の整備に取り組んでいく。</p> <p>(こども)</p> <p>移行期医療に関する部署を組織化し、また、県からも移行期医療支援センター運営事業を受託している。県と連携して移行期医療支援体制の拡充に取り組んでいる。</p> <p>在宅移行の推進や在宅移行後の医療的ケア児への対応について、令和2年度に指定障害福祉サービスによる、短期入所事業者の指定を受けた。短期入所者の受入れ開始しており、今後も、受入れ体制の整備を図っていく。</p> <p>加えて、引続き関係福祉機関、教育機関等における講習や会議への医師や看護師の出席等を行っていく。</p>	<p>医療の発達により、小児期の慢性疾患による死亡率が減少する一方で、原疾患治療や合併症への対応が長期化し思春期・成人期を迎える患者が増えているが、小児期と成人期の診療科・医療機関の連携は十分ではない。</p> <p>このため、国は、移行期医療に対応可能な医療機関情報を把握・公表し、小児期と成人期の医療機関等の連絡調整・連携支援、患者の自律支援等を担う総合的なセンター機能を、各都道府県に1箇所以上設置することを求めている。</p> <p>移行期医療は、小児診療科から成人診療科に完全に移行する疾病、両方でケアが必要な疾病、小児診療科で継続してケアが必要な疾病と、疾病の種類や状況に応じて、求められる診療体制が異なる点の特徴である。</p> <p>また、成人期医療においては小児慢性特定疾病への対応や患者の就学・就労支援等に課題が、小児診療科においては生活習慣病等への対応等に課題がある。</p>	15	☆
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																					
こども一総合	626	650	610	666	995	1,367																																																					
こども→こころ	-	-	-	19	18	15																																																					
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																					
こころ・こども精神科医師合同カンファレンスの開催実績	-	-	2	5	0	0																																																					
移行期医療センターに関する県との打合せ実施回数	-	-	1	6	4	3																																																					
医療的ケア児のレスパイト対応に関する打合せ実施回数	-	-	5	3	6	6																																																					

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																																																
						説明																																																																																					
	ク 高度・専門・特殊医療を県民に提供する第一級の病院であり続けるために、ハイブリッド手術室の活用、ロボット支援手術・放射線治療等の拡充など、高度な治療への対応の強化や適切な治療の提供に取り組む。また、医療を取り巻く環境変化に応じて、先進的な施設や設備等の充実に努める。	ク 高度・専門・特殊医療を県民に提供する第一級の病院であり続けるために、ハイブリッド手術室の活用、ロボット支援手術・放射線治療等の拡充など、高度な治療への対応の強化や適切な治療に取り組む。また、医療を取り巻く環境変化に応じて、先進的な施設や設備等の充実に努める。	24	・中期計画に記載した施設及び機器等の整備を計画的に実施する。	<p>こころの医療センターにサーバ棟を建設した。3病院統合した医療情報システムを導入する予定。こども病院では、北5病棟改修(小児がん患者治療環境の向上)工事を行い、令和3年7月に工事が完了した。</p> <p>施設及び機器等の整備状況 (単位:百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="5">施設整備</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="5">器械備品等</th> </tr> <tr> <th>第2期累計(実績)</th> <th>元年度(実績)</th> <th>2年度(実績)</th> <th>3年度(実績)</th> <th>第3期累計(実績)</th> <th>第2期累計(実績)</th> <th>元年度(実績)</th> <th>2年度(実績)</th> <th>3年度(実績)</th> <th>第3期累計(実績)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>16,132</td> <td>1,091</td> <td>1,472</td> <td>1,866</td> <td>4,430</td> <td>総合</td> <td>6,788</td> <td>706</td> <td>894</td> <td>708</td> <td>2,308</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>992</td> <td>139</td> <td>246</td> <td>5</td> <td>390</td> <td>こころ</td> <td>169</td> <td>31</td> <td>31</td> <td>8</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>1,764</td> <td>148</td> <td>829</td> <td>190</td> <td>1,167</td> <td>こども</td> <td>1,834</td> <td>308</td> <td>747</td> <td>567</td> <td>1,622</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>78</td> <td>395</td> <td>473</td> <td>本部</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>44</td> <td>0</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>18,887</td> <td>1,379</td> <td>2,626</td> <td>2,456</td> <td>6,460</td> <td>合計</td> <td>8,791</td> <td>1,045</td> <td>1,716</td> <td>1,283</td> <td>4,044</td> </tr> </tbody> </table> <p>各病院・本部(経営)</p>	区分	施設整備					区分	器械備品等					第2期累計(実績)	元年度(実績)	2年度(実績)	3年度(実績)	第3期累計(実績)	第2期累計(実績)	元年度(実績)	2年度(実績)	3年度(実績)	第3期累計(実績)	総合	16,132	1,091	1,472	1,866	4,430	総合	6,788	706	894	708	2,308	こころ	992	139	246	5	390	こころ	169	31	31	8	70	こども	1,764	148	829	190	1,167	こども	1,834	308	747	567	1,622	本部	0	0	78	395	473	本部	0	0	44	0	44	合計	18,887	1,379	2,626	2,456	6,460	合計	8,791	1,045	1,716	1,283	4,044	<p>令和3年度の減価償却費は36億円となった(前年度比▲3億円)。令和4年度以降は再び増加傾向となる見込みであり、経営状況を見ながら適切に投資判断を行っていく。</p> <p>また、質の高い医療の提供と効率的な病院運営を目指すため、3病院の医療情報システムを統合し、医療情報の共有化を進めており、令和3年7月には、こころの医療センターにサーバ棟が完成した。</p> <p>なお、サーバ棟の建設及び医療情報システム構築の財源には目的積立金を充当している。</p> <p>総合病院では、北館1階へ移設した高度救命救急センターの跡地(循環器病センター1階)に中央処置室をリニューアル整備し、令和3年7月から運用を開始した。また、老朽化していた外来及び病棟トイレの男女及び汚物処理室の区分けや洋式化等への改修を行った。</p> <p>こころの医療センターでは、3病院の医療情報システム用のサーバを配置するサーバ棟の新築工事を令和2年度から令和3年度にかけて実施し、7月に完成した。器械備品の購入としては、北2病棟の監視カメラを更新し、病棟の運営の効率化を図った。</p> <p>こども病院では、北5病棟改修(小児がん患者治療環境の向上)工事を行い、令和3年7月に工事が完了した。</p> <p>なお、一部施設整備が中期計画より遅れているものの、診療の継続に影響は与えていない。今後も計画的な整備の実施に努める。</p>	<p>・中期計画策定時の施設整備計画について、状況変化に柔軟に対応しながら、施設・設備整備を実施している。</p> <p>・第3期においては、総合病院における既存棟の耐震化を含む改築工事やこどもの本館老朽化に伴う改築工事等の大型投資が実施されており、期間中合計で約260億円の事業計画がある。</p> <p>・令和3年度においては、約36億円の施設及び機器等の整備を実施し、高度な治療への対応強化や療養環境の向上に取り組んだ。</p> <p>・主な事業として、総合病院においては、中央処置室のリニューアルにより診療機能の強化を図っている。</p> <p>・また、医療情報の共有化による、質の高い医療の提供と効率的な病院運営のため、3病院共通のサーバ棟を建設した。</p> <p>・こども病院においては、北5病棟のクリーン度アップ及び学習スペースの整備などにより、小児がん患者の療養環境の向上を図っている。</p> <p>・医療機器の購入においては、機器購入委員会を開き、優先順位の高い機器から購入を行うなど、適切な管理がされている。</p> <p>・減価償却費の増加は、手術件数増加や重症系病棟の稼働率の向上、在院日数の短縮等による医業収益の増加でカバーしていく予定であるが、今後、多額の設備投資による減価償却費等の増加が経営状況に及ぼす影響を注視していくことが求められる。</p>	17	○
区分	施設整備						区分	器械備品等																																																																																			
	第2期累計(実績)	元年度(実績)	2年度(実績)	3年度(実績)	第3期累計(実績)	第2期累計(実績)		元年度(実績)	2年度(実績)	3年度(実績)	第3期累計(実績)																																																																																
総合	16,132	1,091	1,472	1,866	4,430	総合	6,788	706	894	708	2,308																																																																																
こころ	992	139	246	5	390	こころ	169	31	31	8	70																																																																																
こども	1,764	148	829	190	1,167	こども	1,834	308	747	567	1,622																																																																																
本部	0	0	78	395	473	本部	0	0	44	0	44																																																																																
合計	18,887	1,379	2,626	2,456	6,460	合計	8,791	1,045	1,716	1,283	4,044																																																																																

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																
						説明																																					
	ケ 各県立病院は、質の高い医療を継続的に提供するため、次のとおり重点的に取り組む。	ケ 各県立病院は医療の提供に当たり、次のとおり重点的に取り組む。	—	—	—		—																																				
	県立総合病院	(7) 県立総合病院診療事業 県内医療機関の中核的病院として、各疾患に対する総合的な医療をはじめ、3大疾患(心疾患、脳血管疾患、がん)に対する高度・専門医療や救急・急性期医療等を提供する。 各診療事業を推進するため、医師・看護師確保に取り組む。 県民に提供する医療<業務予定量> 病床数 712床 一般病床 662床 結核病床 50床 外来患者460,763人 入院患者226,231人	25	総合	入院・外来患者数 (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>3目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院患者数</td> <td>223,709</td> <td>232,585</td> <td>233,305</td> <td>225,595</td> <td>203,298</td> <td>207,398</td> <td>226,231</td> </tr> <tr> <td>(うち結核病床)</td> <td>6,358</td> <td>6,580</td> <td>6,406</td> <td>4,967</td> <td>5,223</td> <td>4,918</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>外来患者数</td> <td>432,762</td> <td>430,118</td> <td>436,699</td> <td>448,945</td> <td>425,092</td> <td>455,056</td> <td>460,763</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	入院患者数	223,709	232,585	233,305	225,595	203,298	207,398	226,231	(うち結核病床)	6,358	6,580	6,406	4,967	5,223	4,918	—	外来患者数	432,762	430,118	436,699	448,945	425,092	455,056	460,763	B	入院患者数については、新型コロナウイルス感染症の影響が2年目に入り小さくなったため令和2年度実績を上回ったものの、目標値を下回った。 一方、外来患者数については、令和3年度は目標値には達しなかったものの、新型コロナウイルス感染症の影響のない令和元年度実績を超えるまで回復した。		3	1	○
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																				
入院患者数	223,709	232,585	233,305	225,595	203,298	207,398	226,231																																				
(うち結核病床)	6,358	6,580	6,406	4,967	5,223	4,918	—																																				
外来患者数	432,762	430,118	436,699	448,945	425,092	455,056	460,763																																				
	・急性心筋梗塞、脳卒中等の循環器疾患において、常時高度な専門的治療を提供する。加えて、生活習慣病としての危険因子を管理するため、地域の医療機関との連携を強化する。	○循環器疾患患者に対して循環器病センター機能を生かした常時高度な専門的治療を提供する体制の充実 ①重症心不全疾患の患者に対して冠動脈疾患集中治療室(CCU/ICU)機能を最大限に生かした高度な専門的治療の提供 ②急性心筋梗塞、脳卒中発症患者に対応する常時救急受入体制の強化 ③循環器関連診療科の有機的な連携によるチーム医療の推進 ④ハイブリッド手術室の使用による経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)、ステントグラフト内挿術、経皮的僧帽弁接合不全修復術(Mitra Clip)等の低侵襲で高度な手術の実施	26	総合	①冠動脈疾患集中治療室(CCU/ICU)を中心に常時対応できる体制を構築し、高度専門診療を提供する。 CCU/ICU稼働率 (単位:%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>100</td> <td>113.1</td> <td>119.1</td> <td>100.3</td> <td>88.6</td> <td>95.7</td> </tr> <tr> <td>入室患者数(人)</td> <td>722</td> <td>780</td> <td>771</td> <td>866</td> <td>802</td> <td>925</td> </tr> <tr> <td>1日平均(人)</td> <td>11.5</td> <td>13.6</td> <td>14.3</td> <td>14.0</td> <td>12.4</td> <td>13.4</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	稼働率(%)	100	113.1	119.1	100.3	88.6	95.7	入室患者数(人)	722	780	771	866	802	925	1日平均(人)	11.5	13.6	14.3	14.0	12.4	13.4	A	ICU/CCUの稼働率及び1日平均入室患者数については、新型コロナウイルス感染症の状況を見極めつつ、稼働率の向上及び特定集中治療室管理料の算定率向上に努める。		3		○				
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																					
稼働率(%)	100	113.1	119.1	100.3	88.6	95.7																																					
入室患者数(人)	722	780	771	866	802	925																																					
1日平均(人)	11.5	13.6	14.3	14.0	12.4	13.4																																					
			27	総合	②脳卒中発症患者に対する急性期医療の提供体制を整備するとともに、在宅医療への情報提供等、在宅復帰に向けた取り組みを推進する。 脳卒中地域連携クリニカルパス適用患者数 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>算定件数</td> <td>52</td> <td>42</td> <td>62</td> <td>83</td> <td>102</td> <td>92</td> </tr> </tbody> </table> 超急性期脳卒中加算 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>算定件数</td> <td>15</td> <td>27</td> <td>16</td> <td>35</td> <td>28</td> <td>32</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	算定件数	52	42	62	83	102	92	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	算定件数	15	27	16	35	28	32	A	脳卒中地域連携クリニカルパス適用患者数については、令和3年度は令和2年度実績をやや下回る結果となった。引き続き、地域の医療機関等との連携により、パスの適用を推進し、円滑な運用に努める。また、今後も、MRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を最大限に活用し、脳卒中発症患者に対して高度な専門的治療を提供する。								
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																					
算定件数	52	42	62	83	102	92																																					
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																					
算定件数	15	27	16	35	28	32																																					
			28	総合	③生活習慣病を心血管疾患の発症危険因子としてとらえ、循環器内科、神経内科、腎臓内科、心臓血管外科等有機的に連携して、チーム医療の推進を図る。 糖尿病透析予防指導管理料 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>算定件数</td> <td>132</td> <td>75</td> <td>145</td> <td>285</td> <td>123</td> <td>67</td> </tr> </tbody> </table> 対象患者の重複する腎代替療法指導管理料の算定件数は211件であり、合算した算定件数は令和2年度を上回っている。	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	算定件数	132	75	145	285	123	67	A	糖尿病透析予防指導管理料は糖尿病・内分泌内科外来、そらまめ外来、透析室における指導により算定する。 令和3年度の算定件数は、新型コロナウイルス感染症の影響に加え、人員配置の変更、診療報酬改定で新設された腎代替療法指導管理料との対象患者の重複により、令和2年度実績を下回る。なお、腎代替療法指導管理料の算定件数は211件であり、合算した算定件数は令和2年度を上回った。																						
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																					
算定件数	132	75	145	285	123	67																																					

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																																																																																	
						説明																																																																																																																						
			29	④ハイブリッド手術室を運用する体制を整備し、高度専門医療を提供する。	<p>ハイブリッド手術室稼働状況 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>3目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハイブリッド手術室使用件数</td> <td>163</td> <td>479</td> <td>706</td> <td>486</td> <td>484</td> <td>512</td> <td>200以上</td> </tr> <tr> <td>TAVI実施件数 ※上記の内数</td> <td>28</td> <td>67</td> <td>74</td> <td>67</td> <td>65</td> <td>105</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>ステントグラフト挿入件 ※上記の内数</td> <td>107</td> <td>91</td> <td>91</td> <td>125</td> <td>76</td> <td>99</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>Mitra Clip件数 ※上記の内数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>12</td> <td>24</td> <td>14</td> <td>21</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>参考 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PCI</td> <td>517</td> <td>447</td> <td>450</td> <td>368</td> <td>363</td> <td>349</td> </tr> <tr> <td>アブレーション</td> <td>229</td> <td>256</td> <td>253</td> <td>284</td> <td>267</td> <td>305</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	ハイブリッド手術室使用件数	163	479	706	486	484	512	200以上	TAVI実施件数 ※上記の内数	28	67	74	67	65	105	-	ステントグラフト挿入件 ※上記の内数	107	91	91	125	76	99	-	Mitra Clip件数 ※上記の内数	-	-	12	24	14	21	-	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	PCI	517	447	450	368	363	349	アブレーション	229	256	253	284	267	305	<p>A MRIハイブリッド手術室は、手術室にMRI検査室を併設しており、主に脳神経外科の脳腫瘍切除術に使用される。CTハイブリッド手術室は、手術室にCT検査装置を併設しており、主に脳神経外科の脳血管障害や脳腫瘍の手術に使用される。血管造影ハイブリッド手術室は、手術室にX線血管撮影装置を併設しており、主に心臓血管外科、循環器内科のTAVI、ステントグラフト内挿術、MitraClip等の手術に使用される。</p> <p>ハイブリッド手術室稼働状況は、毎年下半期における循環器疾患及び脳疾患症例数の増加に比例して稼働率が上昇する傾向である。</p> <p>令和3年度の稼働状況については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、TAVI、ステントグラフト挿入術、MitraClipの実施件数は令和2年度実績を上回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先端医学棟内に、MRI・CT・血管造影の3種類のハイブリッド手術室が整備されており、特徴に応じた施術内容に活用されている。 ・TAVI(経カテーテル大動脈弁留置術)は大動脈弁狭窄症に対して、カテーテルにより人口弁を心臓に装着する治療、MitraClip(経皮的僧帽弁クリップ術)は僧帽弁閉鎖不全に対して、カテーテルにより僧帽弁逆流を制御する治療、PCI(経皮的冠動脈形成術)は、動脈硬化等による冠動脈の狭窄等に対して、カテーテル治療を行うものである。 ・ハイブリッド手術室使用件数については、令和元年度より、検査のみの使用を除いた件数に算定方法を変更しており、令和3年度は目標値を上回った。 ・いずれも開胸外科手術よりも低侵襲で、手術の危険性が高い患者に対しても治療が可能であり、高度な施設基準等が要求される中、心臓血管外科や循環器内科の連携のもと順調に実績を伸ばしており、高度・専門医療の提供による県の医療水準の向上に貢献し、県立病院としての使命を果たしている。 	3	1	○																																																					
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																																																																					
ハイブリッド手術室使用件数	163	479	706	486	484	512	200以上																																																																																																																					
TAVI実施件数 ※上記の内数	28	67	74	67	65	105	-																																																																																																																					
ステントグラフト挿入件 ※上記の内数	107	91	91	125	76	99	-																																																																																																																					
Mitra Clip件数 ※上記の内数	-	-	12	24	14	21	-																																																																																																																					
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																						
PCI	517	447	450	368	363	349																																																																																																																						
アブレーション	229	256	253	284	267	305																																																																																																																						
	<ul style="list-style-type: none"> ・がん患者に対し、地域がん診療連携拠点病院として、最新・最良の診断、ロボット支援手術などの先進的手術及び化学療法、放射線治療を組み合わせた高度な集学的治療や予防医療を提供する体制を整備し、地域の医療機関等と連携した緩和ケアや終末期医療を提供していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○がん疾患患者に対して地域がん診療連携拠点病院としての高度な集学的治療を提供する体制の充実及び地域の医療機関等と連携した緩和ケアや終末期医療の提供 ①先端医学棟の設備・機能を最大限に活用し、手術、放射線治療、化学療法に係るがん診療体制の充実 ②地域の医療機関等との連携による緩和ケアや終末期ケアの推進 ③がん相談及び情報提供機能の強化 ④ロボット支援手術の活用 	30	①がん患者が速やかに検査や治療を受けられる体制を構築し、手術件数の増加に努める。	<p>がん手術件数 (単位:件、%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>胃がん</td> <td>136</td> <td>163</td> <td>340</td> <td>366</td> <td>351</td> <td>351</td> </tr> <tr> <td>大腸がん</td> <td>264</td> <td>287</td> <td>687</td> <td>696</td> <td>759</td> <td>776</td> </tr> <tr> <td>肝がん</td> <td>135</td> <td>115</td> <td>366</td> <td>260</td> <td>328</td> <td>255</td> </tr> <tr> <td>肺がん</td> <td>156</td> <td>149</td> <td>134</td> <td>194</td> <td>213</td> <td>180</td> </tr> <tr> <td>乳がん</td> <td>343</td> <td>352</td> <td>449</td> <td>511</td> <td>440</td> <td>454</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>1,131</td> <td>1,210</td> <td>1,241</td> <td>1,549</td> <td>1,355</td> <td>1,630</td> </tr> <tr> <td>がん手術合計</td> <td>2,165</td> <td>2,276</td> <td>3,217</td> <td>3,576</td> <td>3,446</td> <td>3,646</td> </tr> <tr> <td>手術全体</td> <td>7,764</td> <td>8,406</td> <td>8,651</td> <td>9,225</td> <td>8,513</td> <td>8,798</td> </tr> <tr> <td>がん手術割合</td> <td>27.9</td> <td>27.1</td> <td>37.2</td> <td>38.8</td> <td>40.5</td> <td>41.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>※年度別各種がん手術は1患者が複数手術をした場合は、それぞれ計上 ※がん手術合計、手術全体は複数手術をした場合は、主たる手術に計上</p> <p>内視鏡検査・処置 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>上部消化管検査</th> <th>下部消化管検査</th> <th>ERCP検査</th> <th>気管支鏡検査</th> <th>その他</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>元年度</td> <td>10,489</td> <td>2,813</td> <td>445</td> <td>389</td> <td>56</td> <td>14,192</td> </tr> <tr> <td>2年度</td> <td>9,817</td> <td>2,771</td> <td>404</td> <td>291</td> <td>38</td> <td>13,321</td> </tr> <tr> <td>3年度</td> <td>10,540</td> <td>2,749</td> <td>420</td> <td>350</td> <td>54</td> <td>14,113</td> </tr> </tbody> </table> <p>放射線治療 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>3目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>16,330</td> <td>15,795</td> <td>15,772</td> <td>1,100</td> <td>1,104</td> <td>1,257</td> <td>800</td> </tr> </tbody> </table> <p>※令和元年度より放射線治療管理料算定件数とする。</p>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	胃がん	136	163	340	366	351	351	大腸がん	264	287	687	696	759	776	肝がん	135	115	366	260	328	255	肺がん	156	149	134	194	213	180	乳がん	343	352	449	511	440	454	その他	1,131	1,210	1,241	1,549	1,355	1,630	がん手術合計	2,165	2,276	3,217	3,576	3,446	3,646	手術全体	7,764	8,406	8,651	9,225	8,513	8,798	がん手術割合	27.9	27.1	37.2	38.8	40.5	41.4	年度	上部消化管検査	下部消化管検査	ERCP検査	気管支鏡検査	その他	合計	元年度	10,489	2,813	445	389	56	14,192	2年度	9,817	2,771	404	291	38	13,321	3年度	10,540	2,749	420	350	54	14,113	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	件数	16,330	15,795	15,772	1,100	1,104	1,257	800	<p>A がん手術件数については、他施設での対応が困難な難治症例の受入も行っており、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、令和2年度実績を上回った。</p> <p>放射線治療件数については、リニアックを3台体制による高度変調放射線治療(IMRT)を始めとする高精度な治療を実施しており、令和3年度は目標値及び令和2年度実績を上回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手術室を拡充しダ・ヴィンチを追加整備した先端医学棟の開棟後、がん手術件数は大幅に増加しており、県内のがん手術症例が、総合病院に集約化している状況にある。 ・先端医学棟におけるリニアック3台体制による高精度な治療の提供により、地域の医療機関からの放射線治療を目的とする紹介患者が増加している。 ・放射線治療件数は、令和2年度の算定件数1,104件に対して、令和3年度は1,257件と目標値及び令和2年度実績を上回った。 ・引き続き、先端医学棟の設備・機能を最大限に活用した、高度・専門医療の提供が期待される。 	4	1	○
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																						
胃がん	136	163	340	366	351	351																																																																																																																						
大腸がん	264	287	687	696	759	776																																																																																																																						
肝がん	135	115	366	260	328	255																																																																																																																						
肺がん	156	149	134	194	213	180																																																																																																																						
乳がん	343	352	449	511	440	454																																																																																																																						
その他	1,131	1,210	1,241	1,549	1,355	1,630																																																																																																																						
がん手術合計	2,165	2,276	3,217	3,576	3,446	3,646																																																																																																																						
手術全体	7,764	8,406	8,651	9,225	8,513	8,798																																																																																																																						
がん手術割合	27.9	27.1	37.2	38.8	40.5	41.4																																																																																																																						
年度	上部消化管検査	下部消化管検査	ERCP検査	気管支鏡検査	その他	合計																																																																																																																						
元年度	10,489	2,813	445	389	56	14,192																																																																																																																						
2年度	9,817	2,771	404	291	38	13,321																																																																																																																						
3年度	10,540	2,749	420	350	54	14,113																																																																																																																						
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																																																																					
件数	16,330	15,795	15,772	1,100	1,104	1,257	800																																																																																																																					
			31	①外来化学療法センターの環境整備を行い、化学療法の充実を図る。	<p>外来化学療法加算 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>3目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>11,171</td> <td>11,680</td> <td>12,159</td> <td>12,707</td> <td>12,660</td> <td>12,812</td> <td>12,000以上</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	件数	11,171	11,680	12,159	12,707	12,660	12,812	12,000以上	<p>A 外来化学療法については、外来化学療法センターの移転リニューアルや前日採血の運用を導入するなど、患者の療養環境や利便性が大幅に向上し、令和3年度の外来化学療法加算算定件数は、令和2年度実績を上回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・抗がん剤療法を主とする化学療法は、外科的療法である手術、内科的療法である放射線治療と並ぶ、がん治療の3本柱の1つである。 ・外来化学療法センターにおいて、複数診療科のがん治療認定医・がん化学療法認定看護師1名・がん薬物療法認定薬剤師6名の人的配置のもと、診療報酬上の外来化学療法加算件数は増加傾向にある。 ・令和2年度に取り組んだ、センターの移転リニューアルによる療養環境の向上や前日採血による効率的な運用の開始などの影響が続いており、令和3年度の外来化学療法加算件数は12,812件と目標値及び前年度を上回る高い水準を維持している。 ・日常生活を送りながら治療を行うことができる、外来化学療法センターの充実、患者の生活の質の向上に大きく寄与している。 ・外来化学療法加算算定件数の増加は増収にも寄与しており、がん疾患患者に対する質の高い医療の提供と経営面との両立を図っている。 	4	1	○																																																																																																		
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																																																																					
件数	11,171	11,680	12,159	12,707	12,660	12,812	12,000以上																																																																																																																					

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																														
						説明																																																																			
			32	②地域の医療機関等と連携し、緩和ケアや終末期ケアを推進する。	<p>緩和ケアチーム介入症例数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>症例数</td> <td>372</td> <td>389</td> <td>418</td> <td>527</td> <td>482</td> <td>548</td> </tr> </tbody> </table> <p>緩和ケア診療加算算定件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>812</td> <td>5249</td> <td>4,417</td> <td>5,308</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	症例数	372	389	418	527	482	548	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	件数	—	—	812	5249	4,417	5,308	A	<p>緩和ケアチームは、緩和医療科医師2名、精神科医師2名、がんに関連する専門・認定看護師等で構成され、院内のがん患者に対して適切な緩和医療を提供する他、地域の医療機関等との定期的なカンファレンスを通じて連携強化に取り組んでいる。緩和ケアチーム介入症例数及び緩和ケア診療加算算定件数は、いずれも令和2年度実績を大幅に上回った。</p> <p>また、がん患者等の社会復帰を支援するため、院内にハローワーク、産業保健総合支援センターとの連携による就労支援出張相談窓口を設置し、通院中又は入院中の患者に対して専門スタッフによる無料の就労相談を行っている。</p>	<p>・「緩和ケア」は終末期医療のみならず、近年は、がん治療におけるできるだけ早い段階での開始の必要性が認識されている。</p> <p>・がんに伴う身体や精神の苦痛があっても患者が自分らしく生活できるよう、緩和医療科医と精神科医、専門知識を有する看護師・薬剤師等が連携する緩和ケアチームが、身体面・精神面の症状を軽減するための医療を提供している。</p> <p>・令和3年度は精神科医2人体制により、診療加算算定件数は令和2年度実績4,417件に対して5,308件と上回った。</p> <p>・地域がん診療連携拠点病院(高度型)として、今後も、高度な集学的治療や適切な緩和医療の提供が期待される。</p>																																					
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																			
症例数	372	389	418	527	482	548																																																																			
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																			
件数	—	—	812	5249	4,417	5,308																																																																			
			33	③がん相談支援センターの機能を増強し、がんに関する相談支援、情報の提供に努める。	<p>がん相談件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>がん相談</td> <td>4,587</td> <td>5,896</td> <td>4,374</td> <td>4,742</td> <td>4,458</td> <td>3,493</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	がん相談	4,587	5,896	4,374	4,742	4,458	3,493	A	<p>がん相談支援センターにおいて、がんに関連する専門・認定看護師を中心に対面及び電話による相談を実施している。</p> <p>がん相談件数については、令和3年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での相談件数が減少傾向であるため、令和2年度実績を下回った。</p>	<p>・がん相談支援センターには国立がん研究センター主催の相談員研修を修了した相談員2人(専従1人・専任1人)を配置している。その他、がん看護専門看護師1人(専任)、緩和ケア認定看護師1人(専任)、がん化学療法認定看護師1人(専任)、乳がん認定看護師2人(専任)が外来、病棟において相談業務を行っており、がん疾患患者が相談しやすい体制が確保されている。</p>																																																			
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																			
がん相談	4,587	5,896	4,374	4,742	4,458	3,493																																																																			
			34	④ロボット支援手術の件数増加に努める	<p>ダ・ヴィンチ使用手術件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>診療科</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>3目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>泌尿器科</td> <td>102</td> <td>122</td> <td>112</td> <td>104</td> <td>135</td> <td>132</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>婦人科</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>18</td> <td>25</td> <td>23</td> <td>25</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>消化器外科</td> <td>9</td> <td>30</td> <td>83</td> <td>70</td> <td>82</td> <td>92</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>心臓血管外科</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>3</td> <td>12</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>112</td> <td>156</td> <td>213</td> <td>199</td> <td>243</td> <td>261</td> <td>200以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>ダ・ヴィンチ使用術者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>16</td> <td>23</td> </tr> </tbody> </table>	診療科	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	泌尿器科	102	122	112	104	135	132	—	婦人科	1	4	18	25	23	25	—	消化器外科	9	30	83	70	82	92	—	心臓血管外科	—	—	—	—	3	12	—	計	112	156	213	199	243	261	200以上	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	人数	6	7	11	12	16	23	S	<p>ダ・ヴィンチ使用手術は、患者にとっては低侵襲というメリットがあるが、経営面においては消耗品や機器の保守費用等を現在の診療報酬では賄うことができないという問題点があるため、手術部において適用症例を見極めたうえで実施している。</p> <p>令和4年3月にダ・ヴィンチを使用して県内で初めて保険診療で腹腔鏡下腓膵体尾部切除術を開始し、低侵襲な手術の提供が可能になった。</p> <p>ダ・ヴィンチ使用手術件数については、令和3年度は消化器外科及び心臓血管外科の手術件数が増加しており、目標値及び令和2年度実績を上回った。</p>	<p>・ダ・ヴィンチ2台体制により、泌尿器科、婦人科、消化器外科、心臓血管外科における手術に対応している。</p> <p>・ダ・ヴィンチ使用手術件数は増加傾向であり、令和3年度は261件と前年度件数及び目標値を大幅に上回った。令和4年3月には県内初となるダ・ヴィンチを使用した保険診療による腹腔鏡下腓膵体尾部切除術を実施した。</p> <p>・ダ・ヴィンチ手術は低侵襲というメリットがある一方、必要となる消耗品や機器の保守費用等が現在の診療報酬では賄いきれないという課題もあり、適用症例を手術部において慎重に見極めた上で実施している。</p> <p>・令和3年度病床機能報告によると、県内のダ・ヴィンチ配備は16病院であり、依然として、総合病院の担うべき役割は大きい。</p> <p>・県内の医療水準の維持向上の観点から、経営面とのバランスを図りつつも、高度医療提供の使命を果たしていくことが重要である。</p>	4	1	☆
診療科	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																		
泌尿器科	102	122	112	104	135	132	—																																																																		
婦人科	1	4	18	25	23	25	—																																																																		
消化器外科	9	30	83	70	82	92	—																																																																		
心臓血管外科	—	—	—	—	3	12	—																																																																		
計	112	156	213	199	243	261	200以上																																																																		
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																			
人数	6	7	11	12	16	23																																																																			
			35	・認知症や精神科患者の身体合併症などに対応できる体制を整備する。	<p>No.20</p> <p>こころの医療センターとの連携による常勤の精神科医師2名の着任により、精神科患者の身体合併症に対応する精神科リエゾンチームと認知症ケアチームが協働しながら治療を行っている。</p> <p>また、精神疾患と身体疾患を併せ持つ精神・身体合併症に対する医療ニーズを踏まえ、精神科病棟(精神科身体合併症病棟)の整備に関する基本設計・実施設計を実施している。</p>	A	<p>令和3年度は、精神科病棟の整備に関する基本設計・実施設計に着手し、年度内に完了した。</p>	<p>・精神科リエゾンチームは、身体の病気で入院中の患者の不安、不眠、抑うつ、せん妄等の精神症状や心理的な問題に対し適切なサポートが行えるよう、精神科医、認知症看護認定看護師、薬剤師が主治医と連携しながら活動している。</p> <p>・認知症や精神疾患を患った身体合併症の増加に対応するため、精神科病棟の整備を計画している。</p> <p>・精神科外来・精神科病棟の整備に際しては、機構3病院の連携体制の強化も踏まえ、検討していくことが重要である。</p>																																																																	
			36	・先端医学棟に整備した各種ハイブリッド手術室や放射線治療室の運用により、適切な治療を提供していく。	<p>先端医学棟の設備・機器を最大限に活用する</p> <p>①No.29</p> <p>②No.30</p> <p>手術件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>3目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>手術件数</td> <td>8,536</td> <td>9,115</td> <td>9,327</td> <td>9,814</td> <td>9,126</td> <td>9,395</td> <td>9,400以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>HCU延患者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>3,872</td> <td>5,875</td> <td>6,872</td> <td>6,426</td> <td>5,569</td> <td>5,759</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	手術件数	8,536	9,115	9,327	9,814	9,126	9,395	9,400以上	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	人数	3,872	5,875	6,872	6,426	5,569	5,759	B	<p>令和3年度の手術件数は目標値は下回るが、令和2年度実績を上回った。それに伴い、HCU延患者数についても令和2年度実績を上回った。</p>	<p>・MRI・CT・血管造影の3種類のハイブリッド手術室を含む22室の手術室、20床のHCU病床を備えた先端医学棟の稼働以降、手術待ちの状況はほぼ解消されている。平成29年度以降、手術件数は年々増加していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度は目標値を下回っていた。令和3年度は9,395件と前年度件数を上回り、目標値をわずかに下回る程度となり、改善傾向にある。</p> <p>・同様に新型コロナウイルス感染症の影響により、HCU延患者数は令和2年度に引き続き落ち込んでいたものの、令和2年度実績を190人上回った。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響によって入院患者数が減少していることから、手術件数の減少傾向はやむを得ないものであり、必要な治療については、適切に対応している。</p>	5	1	○																																
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																		
手術件数	8,536	9,115	9,327	9,814	9,126	9,395	9,400以上																																																																		
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																			
人数	3,872	5,875	6,872	6,426	5,569	5,759																																																																			

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																																							
						説明																																																																												
	<p>・高度救命救急センターとして一層の充実を図り、広範囲熱傷等の特殊疾病患者に対応していく。</p>	<p>○重篤な救急患者に対応する高度救命救急センターの運営 ①高度救命救急センター運営に必要な専門スタッフの確保・育成 ②集中治療専門医の確保 ③救急搬送患者の受入体制の充実</p>	37	総合	<p>①②医師の増員を図るとともに、働きやすさに配慮した変則勤務が可能な体制を維持する。</p> <table border="1"> <caption>医師の変則勤務試行状況 (単位：%)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>該当者(人)</td> <td>1,634</td> <td>1,722</td> <td>1,717</td> <td>1,784</td> <td>1,893</td> <td>1,838</td> </tr> <tr> <td>利用者(人)</td> <td>961</td> <td>889</td> <td>966</td> <td>1,047</td> <td>1,224</td> <td>1,139</td> </tr> <tr> <td>利用率(%)</td> <td>58.8</td> <td>51.6</td> <td>56.3</td> <td>58.7</td> <td>64.7</td> <td>61.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>※該当者：変則勤務を行うことが可能な延べ医師数 ※利用者：変則勤務を行った延べ医師数</p>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	該当者(人)	1,634	1,722	1,717	1,784	1,893	1,838	利用者(人)	961	889	966	1,047	1,224	1,139	利用率(%)	58.8	51.6	56.3	58.7	64.7	61.9	A	<p>救急患者の円滑な受入体制を維持するため、各診療科の協力のもと、医師の変則勤務を進めている。令和3年度の利用率は61.9%となり、令和2年度実績からはやや減少した。</p>	6		○																																												
区分					28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																								
該当者(人)					1,634	1,722	1,717	1,784	1,893	1,838																																																																								
利用者(人)	961	889	966	1,047	1,224	1,139																																																																												
利用率(%)	58.8	51.6	56.3	58.7	64.7	61.9																																																																												
<p>③救急車の受入を確実にできる診療体制を維持する。 ・ドクターカーの運用に関して、出勤可能な市町の拡大に努める。</p> <table border="1"> <caption>救急科医師9名体制で稼働 救急車受入率 (単位：%)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当番日</td> <td>96.5</td> <td>94.6</td> <td>97.1</td> <td>90.9</td> <td>87.7</td> <td>94.4</td> </tr> <tr> <td>全日</td> <td>93.1</td> <td>94.9</td> <td>97.4</td> <td>92.3</td> <td>92.5</td> <td>94.4</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>特殊疾病患者受入数 (単位：件)</caption> <thead> <tr> <th>疾病名</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>重症熱傷</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>14</td> <td>11</td> <td>9</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>重症外傷</td> <td>446</td> <td>539</td> <td>378</td> <td>380</td> <td>431</td> <td>335</td> </tr> <tr> <td>急性中毒</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>30</td> <td>46</td> <td>26</td> <td>39</td> </tr> <tr> <td>病院外心停止</td> <td>207</td> <td>207</td> <td>186</td> <td>174</td> <td>201</td> <td>182</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>683</td> <td>776</td> <td>608</td> <td>611</td> <td>667</td> <td>560</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>ドクターカー出勤状況 (単位：件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>7</td> <td>10</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>8</td> <td>11</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	当番日	96.5	94.6	97.1	90.9	87.7	94.4	全日	93.1	94.9	97.4	92.3	92.5	94.4	疾病名	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	重症熱傷	12	12	14	11	9	4	重症外傷	446	539	378	380	431	335	急性中毒	18	18	30	46	26	39	病院外心停止	207	207	186	174	201	182	計	683	776	608	611	667	560	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	件数	7	10	12	12	8	11	A	<p>救急科医師数に変化はない。救急当直体制の見直しを行っているが、現在も医師数が充足しているとは言えない状況である。 令和3年度の救急患者数及び救急車受入件数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、令和2年度実績を上回る結果となった。特殊疾患患者も積極的に受け入れ、高度救命救急センターとしての機能を果たしている。 ・救急患者数 令和3年度 10,997人 前年度比+428人 ・救急車受入件数 令和3年度 5,524件 前年度比+416件 ドクターカーは事故による重症外傷や胸痛等の循環器疾患が疑われる病態に対して出勤している。令和3年度の出動件数は、令和2年度実績を上回った。</p>	6		○
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																												
当番日	96.5	94.6	97.1	90.9	87.7	94.4																																																																												
全日	93.1	94.9	97.4	92.3	92.5	94.4																																																																												
疾病名	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																												
重症熱傷	12	12	14	11	9	4																																																																												
重症外傷	446	539	378	380	431	335																																																																												
急性中毒	18	18	30	46	26	39																																																																												
病院外心停止	207	207	186	174	201	182																																																																												
計	683	776	608	611	667	560																																																																												
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																												
件数	7	10	12	12	8	11																																																																												
<p>①No.36 ②効率的な病院運営を行い、高い病床稼働率を維持する ③No.8</p> <table border="1"> <caption>病床稼働率 (単位：%)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>3目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般病棟</td> <td>90.4</td> <td>93.5</td> <td>93.9</td> <td>91.1</td> <td>84.8</td> <td>88.2</td> <td>90以上</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>86.1</td> <td>89.5</td> <td>89.8</td> <td>86.6</td> <td>80.7</td> <td>83.7</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	一般病棟	90.4	93.5	93.9	91.1	84.8	88.2	90以上	全体	86.1	89.5	89.8	86.6	80.7	83.7	-	B	<p>令和3年度も、一般病棟の一部を新型コロナウイルス感染症専門病棟として運用しており、一般病床稼働率は目標値90%を下回った。 しかしながら、病棟再編を実施しながら平均在院日数の減少に努めた結果、一般病棟の稼働率と結核病棟を併せた全体の稼働率は、令和2年度実績と比較して上昇した。</p>	3	1	△																																																					
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																											
一般病棟	90.4	93.5	93.9	91.1	84.8	88.2	90以上																																																																											
全体	86.1	89.5	89.8	86.6	80.7	83.7	-																																																																											
<p>【目標値】 ・手術件数(総合) ・病床稼働率(総合) ・患者満足度[入院・外来](総合)</p>	<p>【目標値】県立総合病院 ・手術件数(総合) ・病床稼働率(総合) ・患者満足度[入院・外来](総合) ・ハイブリッド手術件数(総合) ・放射線治療症例件数(総合) ・外来化学療法件数(総合) ・ダヴィンチ使用手術件数(総合)</p>	-	-	-	-	-	-																																																																											

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																		
						説明																																																							
	県立こころの医療センター	(イ) 県立こころの医療センター診療事業 県内精神医療の中核病院として、総合的・専門的な精神科医療を提供するとともに、精神科救急・急性期医療や、他の医療機関では対応困難な治療の実施及び司法精神医療の充実を図る。 県民に提供する医療<業務予定量> 病床数 280床 精神病床 280床 外来患者40,208人 入院患者52,904人	40	—	入院・外来患者数 (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>3目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院患者数</td> <td>56,906</td> <td>55,144</td> <td>57,217</td> <td>54,037</td> <td>53,246</td> <td>49,296</td> <td>52,904</td> </tr> <tr> <td>外来患者数</td> <td>40,756</td> <td>41,140</td> <td>42,454</td> <td>39,647</td> <td>37,285</td> <td>36,692</td> <td>40,208</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	入院患者数	56,906	55,144	57,217	54,037	53,246	49,296	52,904	外来患者数	40,756	41,140	42,454	39,647	37,285	36,692	40,208	B	新型コロナウイルス感染症陽性患者の受入れ病床として個室の一部を転用したため、運用可能な個室病床が減少し、4床室の利用が難しい対応困難な患者の受入調整が難しいこともあって、入院患者数は前年度より減少した。 外来患者数は、1年を通じ院内での拡大防止に努めるため、デイケア活動が制限されたこともあって、昨年度に比べ患者数が減少した。 引き続き、感染症対策を講じながら、他の医療機関では対応困難な重症患者などを積極的に受け入れ、県内精神医療の中核病院としての役割を果たしていく。				7	1	○																								
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																						
入院患者数	56,906	55,144	57,217	54,037	53,246	49,296	52,904																																																						
外来患者数	40,756	41,140	42,454	39,647	37,285	36,692	40,208																																																						
	・常時精神科救急医療相談に応じ、患者の支援体制の充実を図る。 ・救急患者を受け入れ、新たな入院患者が早期に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の充実を図る。	○精神科救急・急性期医療の提供体制の充実 ①常時精神科救急医療相談に対応可能な体制の整備 ②救急患者が常時受入可能な体制の整備及び新たな入院患者の早期退院を支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備	41	①②24時間体制で精神科救急医療相談に応じ患者を受入れるとともに、新たな入院患者が90日以内に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備を図る。	平成15年4月より、県の委託事業として県内全域を対象とする「精神科救急ダイヤル」を敷設し、24時間体制で救急医療相談に対応している。 年4回発行し、関係機関、公的機関及び就労支援施設等に配布する当センター広報誌「ぬくもり」や、当センターホームページへ「精神科救急ダイヤル」に関する情報を掲載し、周知を図っている。 精神科救急ダイヤル件数 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全相談件数</td> <td>3,956</td> <td>3,020</td> <td>2,718</td> <td>3,957</td> <td>3,649</td> <td>1,857</td> </tr> <tr> <td>うち時間外</td> <td>2,082</td> <td>2,365</td> <td>1,482</td> <td>2,153</td> <td>2,678</td> <td>1,288</td> </tr> </tbody> </table> 時間外における救急診療件数 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>3目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>—</td> <td>270</td> <td>331</td> <td>390</td> <td>335</td> <td>313</td> <td>300以上</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	全相談件数	3,956	3,020	2,718	3,957	3,649	1,857	うち時間外	2,082	2,365	1,482	2,153	2,678	1,288	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	件数	—	270	331	390	335	313	300以上	A	24時間365日対応可能な相談・診療体制を整え、県との委託契約により全県域の精神科救急の窓口となる「精神科救急ダイヤル」を運営している。 幅広く相談に対応しているが、令和3年度の救急ダイヤルの相談件数は緊急性を要さない相談件数が減少したこともあり、全体としての件数は減少した。 引き続きダイヤルの周知・普及に努め、必要時に必要な相談を受け、必要な診療を実施することが出来る体制の維持とダイヤルの周知に努めていく。				7	1	○											
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																							
全相談件数	3,956	3,020	2,718	3,957	3,649	1,857																																																							
うち時間外	2,082	2,365	1,482	2,153	2,678	1,288																																																							
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																						
件数	—	270	331	390	335	313	300以上																																																						
			42	①新たな入院患者が90日以内に退院できるよう促進し、精神科救急入院料の施設基準を維持する。	早期治療、早期退院の実践により、救急病棟(南2・北2)における「新規患者率」、「新規患者3ヶ月以内在宅移行率」はそれぞれの施設基準を満たしている。 新規患者率 (単位:%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>施設基準</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急 南2</td> <td>40%以上</td> <td>79.2</td> <td>72.6</td> <td>71.3</td> <td>73.4</td> <td>61.7</td> <td>68.7</td> </tr> <tr> <td>救急 北2</td> <td>40%以上</td> <td>76.4</td> <td>74.7</td> <td>72.4</td> <td>64.8</td> <td>60.8</td> <td>67.4</td> </tr> </tbody> </table> 新規患者3ヶ月以内在宅移行率 (単位:%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>施設基準</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急 南2</td> <td>60%以上</td> <td>81.2</td> <td>72.9</td> <td>73.0</td> <td>78.7</td> <td>89.4</td> <td>82.9</td> </tr> <tr> <td>救急 北2</td> <td>60%以上</td> <td>82.3</td> <td>87.4</td> <td>85.4</td> <td>79.7</td> <td>86.7</td> <td>86.3</td> </tr> </tbody> </table>	区分	施設基準	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	救急 南2	40%以上	79.2	72.6	71.3	73.4	61.7	68.7	救急 北2	40%以上	76.4	74.7	72.4	64.8	60.8	67.4	区分	施設基準	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	救急 南2	60%以上	81.2	72.9	73.0	78.7	89.4	82.9	救急 北2	60%以上	82.3	87.4	85.4	79.7	86.7	86.3	A	令和3年度の新規患者率は前年度より増加しており、新規患者3か月以内在宅移行率はほぼ前年度並みとなっている。 救急病棟や急性期治療病棟の役割を適切に果たすとともに、精神科救急入院料の施設基準を維持することができている。						
区分	施設基準	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																						
救急 南2	40%以上	79.2	72.6	71.3	73.4	61.7	68.7																																																						
救急 北2	40%以上	76.4	74.7	72.4	64.8	60.8	67.4																																																						
区分	施設基準	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																						
救急 南2	60%以上	81.2	72.9	73.0	78.7	89.4	82.9																																																						
救急 北2	60%以上	82.3	87.4	85.4	79.7	86.7	86.3																																																						

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																																							
						説明																																																																												
	<p>・他の医療機関では対応困難な精神疾患患者への先進的治療に積極的に取り組む。</p>	<p>○他の医療機関では対応困難な精神疾患患者に対する高度医療への積極的な取組 ①高度専門医療(クロザピン、m-ECT(修正型電気けいれん療法)、心理・社会的治療(心理教育、家族教室等))への取組</p>	43	<p>①薬物療法による治療効果が低い重症患者に対する治療法として、m-ECT(修正型電気けいれん療法)を積極的に実施する。高度・専門医療の積極的な実施</p>	<p>m-ECTの治療を令和3年度も継続して積極的に実施している。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="8">m-ECT実施件数 (単位:人)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>3目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延件数(件)</td> <td>605</td> <td>693</td> <td>832</td> <td>870</td> <td>737</td> <td>827</td> <td>700以上</td> </tr> <tr> <td>実患者数</td> <td>54</td> <td>60</td> <td>66</td> <td>70</td> <td>59</td> <td>56</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>中部地区</td> <td>51</td> <td>54</td> <td>58</td> <td>62</td> <td>55</td> <td>53</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>(静岡市)</td> <td>43</td> <td>40</td> <td>43</td> <td>50</td> <td>45</td> <td>43</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>東部地区</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>西部地区</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	m-ECT実施件数 (単位:人)								区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	延件数(件)	605	693	832	870	737	827	700以上	実患者数	54	60	66	70	59	56	—	中部地区	51	54	58	62	55	53	—	(静岡市)	43	40	43	50	45	43	—	東部地区	2	3	3	5	3	1	—	西部地区	1	3	4	2	1	2	—	その他	0	0	1	1	0	0	—	<p>A</p> <p>令和3年度の新規患者率は前年度より増加しており、新規患者3か月以内在宅移行率も前年度を上回った。 また、救急病棟や急性期治療病棟の役割を適切に果たすとともに、精神科救急入院料の施設基準を維持した。</p>	<p>7</p> <p>1</p> <p>○</p>			
m-ECT実施件数 (単位:人)																																																																																		
区分					28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																							
延件数(件)	605	693	832	870	737	827	700以上																																																																											
実患者数	54	60	66	70	59	56	—																																																																											
中部地区	51	54	58	62	55	53	—																																																																											
(静岡市)	43	40	43	50	45	43	—																																																																											
東部地区	2	3	3	5	3	1	—																																																																											
西部地区	1	3	4	2	1	2	—																																																																											
その他	0	0	1	1	0	0	—																																																																											
			44	<p>①先端薬物療法(クロザピンなど)を積極的に実施する。</p>	<p>平成23年度に作成したクリニカルパスに基づき治療を開始し、令和3年度現在65名に対して継続投与中である。 クロザピンによる治療体制が整い、平成22年4月27日、クロザリン適正使用委員会において、C P M S (クロザリン患者モニタリングサービス)登録機関として承認された。 静岡県内では、浜松医科大学医学部付属病院、聖隷三方原病院に次いで3番目の登録である。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="8">クロザピン投与患者数 (単位:人)</th> </tr> <tr> <th>項目</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>3目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者数</td> <td>39</td> <td>44</td> <td>55</td> <td>60</td> <td>65</td> <td>73</td> <td>60以上</td> </tr> </tbody> </table>	クロザピン投与患者数 (単位:人)								項目	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	患者数	39	44	55	60	65	73	60以上	<p>A</p> <p>令和3年度の投与患者数は73人となり、年度目標を大きく上回った。 また、実施にあたっては、院内で患者の副作用のモニタリングを行い薬品の適正使用に取組み、治療効果と安全性の向上に努めている。 診療に当たることの出来る医療機関は、精神科病棟を有する病院の血液内科の医師という条件を満たす必要があり、現在は静岡市立病院との提携のみとなっているが今後県立総合病院において精神科病棟が設置された後には、血液内科との連携も検討していく。</p>	<p>7</p> <p>1</p> <p>○</p>																																																			
クロザピン投与患者数 (単位:人)																																																																																		
項目	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																											
患者数	39	44	55	60	65	73	60以上																																																																											
			45	<p>①心理・社会的治療についての取組を積極的に実施する。</p>	<p>平成22年度から取組を始めた認知行動療法プロジェクトを、心理・社会的治療プロジェクトに発展し、認知行動療法に加え、新たに心理教育・家族教室への取り組みを実施している。また、心理教育に関する院内外研修会を開催し、スタッフのレベルアップに努めている。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="8">心理教育参加者数 (単位:人)</th> </tr> <tr> <th>項目</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>206</td> <td>230</td> <td>210</td> <td>154</td> <td>86</td> <td>93</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="8">心理教育研修会参加者数 (単位:人)</th> </tr> <tr> <th>項目</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>142</td> <td>155</td> <td>136</td> <td>66</td> <td>35</td> <td>29</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	心理教育参加者数 (単位:人)								項目	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度		参加者数	206	230	210	154	86	93		心理教育研修会参加者数 (単位:人)								項目	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度		参加者数	142	155	136	66	35	29		<p>A</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止対策に伴って外部活動が縮小となり、研修参加者数はほぼ前年並となった。 効率的な研修の実施に努め、高度医療への積極的な取組の実施に対する意識の高揚に努めていく。</p>	<p>心理教育とは、病気に関する知識を提供し、地域で暮らしていく力を身に付けさせ、医療機関での治療から精神障害者を日常的に支える地域リハビリテーションへの連続的な移行を目指して行われる支援法である。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で活動を縮小した令和2年度と比較して、心理教育参加者数はやや回復傾向にある。 ・院内研修会の継続的開催や院内推進委員会の毎月開催により従事者の理解促進・スキルアップを図っている。</p>																											
心理教育参加者数 (単位:人)																																																																																		
項目	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																												
参加者数	206	230	210	154	86	93																																																																												
心理教育研修会参加者数 (単位:人)																																																																																		
項目	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																												
参加者数	142	155	136	66	35	29																																																																												
	<p>・入院患者が早期に退院し、地域で安心して生活できるように、多職種チームによる包括的在宅医療支援体制を構築する。</p>	<p>○多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築 ①入院患者が早期に退院し、地域で安心して生活できるようにするための、多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築</p>	46	<p>①在宅医療支援部を中心とした包括的在宅ケア(ACT)チームによる退院支援と手厚い24時間365日サポート体制による退院後の地域生活を支援する。</p>	<p>平成21年度に作成したガイドラインに沿って、ACTによる支援を実施している。平成22年2月の支援開始以来延べ26名の支援活動を実施している。令和3年度末現在で、入院患者1名及び外来患者4名の支援を継続している。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="8">ACT実施状況</th> </tr> <tr> <th></th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">対象者</td> <td>外来</td> <td>7人</td> <td>9人</td> <td>11人</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>入院</td> <td>0人</td> <td>0人</td> <td>0人</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">活動状況</td> <td>外来</td> <td colspan="6">多職種による定期訪問、ケースカンファレンス</td> <td></td> </tr> <tr> <td>入院</td> <td colspan="6">多職種による退院前訪問、ケースカンファレンス</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	ACT実施状況									28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度		対象者	外来	7人	9人	11人	4	4	4	入院	0人	0人	0人	2	1	1	活動状況	外来	多職種による定期訪問、ケースカンファレンス							入院	多職種による退院前訪問、ケースカンファレンス							<p>A</p> <p>令和3年度末現在で、入院患者1人及び外来患者4人の外来患者に対して実施している。 今後の感染状況を踏まえつつ、患者の地域への移行を進めていく必要がある。</p>	<p>患者の地域移行が促進されるように、医師、看護師、精神保健福祉士、作業療法士等からなる包括型地域生活支援プログラム(ACT)チームが地域生活での支援体制の整備と長期入院患者の退院促進に取り組み、社会復帰を後押ししている。 ・診療報酬や職員充足の課題はあるが、対象となる新規ケースの減少に対して、毎月、退院促進委員会で支援対象者の抽出を行うなど、患者のニーズに合わせた支援が行われている。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、入院患者の地域移行が進まなかったことから、令和3年度の入院の対象患者は1人となっているが、やむを得ないものであり、引き続き患者のニーズに合わせた支援体制を維持していくことが期待される。</p>	8		○																								
ACT実施状況																																																																																		
	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																												
対象者	外来	7人	9人	11人	4	4	4																																																																											
	入院	0人	0人	0人	2	1	1																																																																											
活動状況	外来	多職種による定期訪問、ケースカンファレンス																																																																																
	入院	多職種による退院前訪問、ケースカンファレンス																																																																																

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																				
						説明																									
	<p>・「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」の司法精神医療について、指定医療機関としての役割を積極的に果たす。</p>	<p>○医療観察法等の司法精神医療への積極的な関与 ①「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」の司法精神医療への、指定医療機関としての積極的な関与</p>	47	<p>①医療観察法による入院処遇対象者を受け入れ、指定医療機関としての機能を最大限に発揮する。</p>	<p>令和3年度は4名の退院、5名の新規入院があり、1年を通じてほぼ満床となり、一時は特定病床により患者の受入れを行った結果、100%を超える稼働率となった。</p> <table border="1"> <caption>医療観察法病棟の稼働状況 (単位:床・%)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床数(床)</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>病床利用率(%)</td> <td>99.1</td> <td>96.9</td> <td>96.0</td> <td>84.1</td> <td>88.2</td> <td>102.4</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	病床数(床)	12	12	12	12	12	12	病床利用率(%)	99.1	96.9	96.0	84.1	88.2	102.4	A	<p>令和3年度は、12床がほぼ満床で推移しており、一時期は特定病床での受入を行った結果、稼働率が102.4%となった。</p>	9		○
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																									
病床数(床)	12	12	12	12	12	12																									
病床利用率(%)	99.1	96.9	96.0	84.1	88.2	102.4																									
	<p>・認知症・依存症・摂食障害など多様な精神疾患に対応できる体制を構築し、発達障害や思春期及び小児から成人への移行期における精神疾患への対応を図る。</p>	<p>○認知症・依存症・摂食障害など多様な精神疾患に対応できる体制を構築し、発達障害や思春期及び小児から成人への移行期における精神疾患への対応 ①多様な精神疾患及び、小児から成人への移行期における精神疾患等に対応するための体制の構築に向けた取組</p>	48	<p>①総合病院における身体合併症患者への精神科医療の提供体制を整備する。 ・小児から成人への移行期における精神科医療の提供体制の整備を図る。 ・総合病院、こども病院などと連携し、児童精神分野における精神科医療の提供体制の整備を図る。</p>	<p>令和2年4月より総合病院へ精神科医師1名を追加配置し、医師2名の体制とし、身体合併症の精神科リゾン機能を強化するとともに、病棟整備に向けた検討会に参画している。思春期病棟を含めた病棟全体の整備については、3病院の精神科医療提供体制のあり方を踏まえて協議していく。</p>	A	<p>令和2年4月以降、総合病院の精神科医師が2名体制となり、身体合併症の精神科リゾン機能がより強化された。 令和3年度は、県の主催する「児童福祉と児童思春期精神医療との連携に関する懇話会」において、喫緊の課題となっている「小児から成人への移行期における医療提供体制のあり方」について検討を行っている。 今後は懇話会での検討結果を踏まえ、機構内(県立3病院)の精神科医療のあり方を検討していく。</p>	16		○																					
	<p>・効率的な病院運営を図り、また、県民に安全で質の高い医療の提供を行うため、病床稼働率及び外来患者満足度について各事業年度で高い水準を達成する。</p>	<p>○効率的な病院運営による県民に安全で質の高い医療を提供 ①思春期病棟の整備に向けた検討 ②クロザピン投与患者数の増加 ③病床稼働率85%以上の維持 ④患者満足度の向上</p>	49	<p>①No.48 ②No.44 ③常時、救急患者を受け入れる体制の維持と、多職種連携による早期退院促進による効率的な病院運営に努める。 ④No.8</p>	<p>病床稼働率 (単位:%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>3目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>稼働率</td> <td>90.6</td> <td>87.9</td> <td>91.1</td> <td>85.8</td> <td>84.8</td> <td>78.5</td> <td>85以上</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	稼働率	90.6	87.9	91.1	85.8	84.8	78.5	85以上	B	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の対策として、個室病床4床を新型コロナウイルス感染症対策用の病床としており、一般稼働が出ていない。 加えて、患者の入院に際してはHCU(ハイケアの個室)を前提としたため、初期入院の受入れが狭隘化していた。 また、4床室入院が難しい重症患者も多く、4床室の稼働率が低かった。</p>	7	1	△					
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																								
稼働率	90.6	87.9	91.1	85.8	84.8	78.5	85以上																								
	<p>【目標値】 ・クロザピン投与患者数(こころ) ・病床稼働率(こころ) ・患者満足度[外来](こころ)</p>	<p>【目標値】県立こころの医療センター ・クロザピン投与患者数(こころ) ・病床稼働率(こころ) ・患者満足度[外来](こころ) ・時間外診療件数(こころ) ・m-ECT実施件数(こころ)</p>	-	-	-	-	-	-	-	-	-																				

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																																																																																																																											
						説明																																																																																																																																																																
	・本県における小児がんの拠点機能を有する病院として、高度な集学的治療に積極的に取り組む。	○小児がん拠点病院(厚生労働省指定)として、高度な集学的治療への積極的な取組 ①小児がんの集学的治療推進、セカンドオピニオンの受入れなど、がん診療の機能強化 ②院内がん登録の推進 ③県立静岡がんセンターとの連携強化 ④AYA世代がん診療の連携等を推進 ⑤がん公開講座や研修会(脳腫瘍関連)等の開催 ⑥病室のクリーン度アップや、AYA対応室の設置等北5病棟の改修	53	①②静岡県小児がん拠点病院(厚生労働省指定)として血液腫瘍に対しては、骨髄・末梢血幹細胞・臍帯血移植などの治療法を利用して対応する。 ①②小児がん連携拠点病院の指定を念頭に置き、小児がん診療の更なる充実を図る。 ③県立静岡がんセンターとの共同カンファレンスを実施する。 ④AYA世代がんに携わる医療従事者向け研修会を開催する。 ⑤がん公開講座や研修会(脳腫瘍関連)等を開催する。 ⑥北5病棟改修工事の実施。	血液腫瘍科延患者数実績 (単位:人) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr> <tr><td>入院</td><td>8,301</td><td>7,977</td><td>8,656</td><td>7,849</td><td>7,335</td><td>4,810</td></tr> <tr><td>外来</td><td>3,691</td><td>3,711</td><td>3,601</td><td>3,713</td><td>3,298</td><td>3,665</td></tr> </table> 造血幹細胞移植実績 (単位:件) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr> <tr><td>骨髄移植</td><td>4</td><td>2</td><td>5</td><td>2</td><td>8</td><td>3</td></tr> <tr><td>臍帯血</td><td>2</td><td>1</td><td>3</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td></tr> <tr><td>自家末梢血</td><td>5</td><td>7</td><td>4</td><td>4</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>同種末梢血</td><td>0</td><td>0</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td></tr> <tr><td>計</td><td>11</td><td>10</td><td>14</td><td>10</td><td>12</td><td>6</td></tr> </table> 小児がん登録件数 (単位:件) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>3目標</th></tr> <tr><td>登録件数</td><td>61</td><td>58</td><td>47</td><td>56</td><td>55</td><td>53</td><td>45</td></tr> </table> がんセンターとの共同カンファレンス回数 (単位:回) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr> <tr><td>回数</td><td>3</td><td>2</td><td>3</td><td>3</td><td>7</td><td>3</td></tr> </table> AYA世代がん研修会実施回数 (単位:回) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr> <tr><td>回数</td><td>-</td><td>1</td><td>1</td><td>4</td><td>2</td><td>2</td></tr> </table> がん公開講座件数 (単位:回) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr> <tr><td>件数</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td></tr> </table> 北5病棟改修にかかる打ち合わせ回数 (単位:回) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr> <tr><td>回数</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>17</td><td>25</td></tr> </table> 研修会(脳腫瘍関係) (単位:回) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr> <tr><td>開催回数</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>1</td></tr> <tr><td>参加人数</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>64</td></tr> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	入院	8,301	7,977	8,656	7,849	7,335	4,810	外来	3,691	3,711	3,601	3,713	3,298	3,665	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	骨髄移植	4	2	5	2	8	3	臍帯血	2	1	3	3	2	2	自家末梢血	5	7	4	4	1	1	同種末梢血	0	0	2	1	1	0	計	11	10	14	10	12	6	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	登録件数	61	58	47	56	55	53	45	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	回数	3	2	3	3	7	3	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	回数	-	1	1	4	2	2	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	件数	-	-	-	1	0	1	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	回数	-	-	-	-	17	25	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	開催回数	-	-	-	-	-	1	参加人数	-	-	-	-	-	64	こども	小児がんは成人と比較して発症数の少なさから発見、診療が専門機関でない困難であり、こども病院は、小児がん相談室の設置、院内がん登録中級認定者の専任化等により体制整備に努めている。令和3年度は、更なる体制整備の一環として、設備面で、個室4室、廊下も含めた範囲のクリーン度アップなど機能強化及び入院患者の学習継続や交流のための施設整備を行い、7月に工事が完了している。また、がん公開講座については、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施出来ていなかったが、令和3年度は再開した。また、AYA世代のがんに携わる医療従事者に向けた研修会についても継続的に開催した。がんゲノム医療連携病院(令和元年12月指定)として、がんゲノム医療についても取組を実施しており、加えて、がんセンターとの共同カンファレンスの開催など他の小児がん連携病院等とも連携し、地域全体の小児・AYA世代のがん医療及び支援の質の向上に努めている。なお、小児がん登録件数も、目標数値を超えた。	12	1	☆
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																
入院	8,301	7,977	8,656	7,849	7,335	4,810																																																																																																																																																																
外来	3,691	3,711	3,601	3,713	3,298	3,665																																																																																																																																																																
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																
骨髄移植	4	2	5	2	8	3																																																																																																																																																																
臍帯血	2	1	3	3	2	2																																																																																																																																																																
自家末梢血	5	7	4	4	1	1																																																																																																																																																																
同種末梢血	0	0	2	1	1	0																																																																																																																																																																
計	11	10	14	10	12	6																																																																																																																																																																
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																																																																																																															
登録件数	61	58	47	56	55	53	45																																																																																																																																																															
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																
回数	3	2	3	3	7	3																																																																																																																																																																
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																
回数	-	1	1	4	2	2																																																																																																																																																																
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																
件数	-	-	-	1	0	1																																																																																																																																																																
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																
回数	-	-	-	-	17	25																																																																																																																																																																
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																
開催回数	-	-	-	-	-	1																																																																																																																																																																
参加人数	-	-	-	-	-	64																																																																																																																																																																
	・重篤な小児救命救急患者を常時受入れ可能な体制を維持・強化し、救急医療全般にわたって地域の医療機関と連携して受け入れる体制を整備する。	○重篤な小児救急患者を常時受入れ可能な体制を維持・強化及び地域で不足する小児救急医療体制の補完等、小児救急医療のモデルとなる体制整備 ①院内各専門領域のバックアップによる、小児救急センター・小児集中治療センターを中心とした小児救急医療全般にわたる受入体制の強化、拡充 ②小児救命救急センターとしてメディカルコントロール体制整備への協力 ③小児救急専門スタッフの教育の充実	54	①PICU(小児集中治療センター)・救急総合診療科を中心として小児救急医療体制の強化を図る。 ①小児救急センター・小児集中治療センターを中心とした、365日24時間小児救急患者の受入可能な体制を維持、充実させる。 ③院内の小児救急専門スタッフ(医師、看護師)育成に努める。	小児救命救急センターの患者数 (単位:人、%) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr> <tr><td>入院延患者数</td><td>5,508</td><td>5,409</td><td>5,661</td><td>5,916</td><td>3,619</td><td>4,612</td></tr> </table> PICU診療実績 (単位:人、%) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr> <tr><td>入院延患者数</td><td>2,462</td><td>2,390</td><td>2,539</td><td>2,416</td><td>2,083</td><td>2,949</td></tr> <tr><td>病床稼働率</td><td>84.3</td><td>81.8</td><td>87.0</td><td>82.5</td><td>71.3</td><td>73.4</td></tr> </table> ER診療実績 (単位:人) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr> <tr><td>入院患者数</td><td>1,338</td><td>1,299</td><td>1,386</td><td>1,695</td><td>1,254</td><td>1,504</td></tr> <tr><td>外来患者数</td><td>4,170</td><td>4,110</td><td>4,275</td><td>4,221</td><td>2,365</td><td>3,108</td></tr> </table> ドクターヘリ搬送実績 (単位:回) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr> <tr><td>回数</td><td>35</td><td>34</td><td>41</td><td>33</td><td>22</td><td>19</td></tr> </table> ドクターカー出動実績 (単位:回) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr> <tr><td>回数</td><td>298</td><td>268</td><td>274</td><td>291</td><td>193</td><td>212</td></tr> </table> PICU配属医師・看護師 (年平均:人) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr> <tr><td>医師(有資格者)</td><td>9</td><td>11</td><td>8</td><td>9</td><td>8</td><td>10</td></tr> <tr><td>看護師</td><td>30</td><td>32</td><td>30</td><td>29</td><td>33</td><td>43</td></tr> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	入院延患者数	5,508	5,409	5,661	5,916	3,619	4,612	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	入院延患者数	2,462	2,390	2,539	2,416	2,083	2,949	病床稼働率	84.3	81.8	87.0	82.5	71.3	73.4	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	入院患者数	1,338	1,299	1,386	1,695	1,254	1,504	外来患者数	4,170	4,110	4,275	4,221	2,365	3,108	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	回数	35	34	41	33	22	19	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	回数	298	268	274	291	193	212	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	医師(有資格者)	9	11	8	9	8	10	看護師	30	32	30	29	33	43	こども	小児救命救急センターの指定を受けているPICUと小児救命救急センターを中心に、24時間365日を通して、軽症から重症まで小児救急患者を多く受け入れた。令和2年度は救急患者が減少したが、令和3年度はICUの統合(PICUとCCUの統合)により患者数が増加した。ER開設以降、富士富士宮、志太榛原等の救急患者が増加しており、地域で不足する小児救急体制を補完している。PICU病棟の医師確保に努め、専門スタッフを配置し、小児救急体制の充実を図っている。	13		○																																																			
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																
入院延患者数	5,508	5,409	5,661	5,916	3,619	4,612																																																																																																																																																																
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																
入院延患者数	2,462	2,390	2,539	2,416	2,083	2,949																																																																																																																																																																
病床稼働率	84.3	81.8	87.0	82.5	71.3	73.4																																																																																																																																																																
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																
入院患者数	1,338	1,299	1,386	1,695	1,254	1,504																																																																																																																																																																
外来患者数	4,170	4,110	4,275	4,221	2,365	3,108																																																																																																																																																																
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																
回数	35	34	41	33	22	19																																																																																																																																																																
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																
回数	298	268	274	291	193	212																																																																																																																																																																
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																
医師(有資格者)	9	11	8	9	8	10																																																																																																																																																																
看護師	30	32	30	29	33	43																																																																																																																																																																
	・精神疾患を持つ小児患者やその家族に対して、児童精神科分野における中核的機能の発揮に努める。	○子どものこころの診療分野の県内における中核的機能の発揮 ①子どもの精神科専門病棟を有するこども病院として、成人移行を見据え、総合病院、こころの医療センターとの連携体制強化	56	①児童精神科医療について、総合病院、こころの医療センターなどと連携し、体制の充実を図る。	各地域の医療機関、消防機関が参加するメディカルコントロール協議会に参加しているが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により開催要請等がなく、実施できなかった。 救急関係研修会等開催実績 (単位:人) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>対象</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr> <tr><td>小児救命救急研究会</td><td>小児医療、救急医療関係者</td><td>150</td><td>135</td><td>161</td><td>86</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>救急救命士再教育病院実習</td><td>救急救命士</td><td>6</td><td>10</td><td>6</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> </table> こころの診療科診療実績 (単位:人) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr> <tr><td>入院延患者数</td><td>10,086</td><td>10,864</td><td>10,011</td><td>9,445</td><td>7,890</td><td>10,353</td></tr> <tr><td>入院新患者数</td><td>54</td><td>58</td><td>57</td><td>50</td><td>63</td><td>71</td></tr> <tr><td>外来延患者数</td><td>12,311</td><td>12,607</td><td>12,376</td><td>11,604</td><td>11,416</td><td>13,211</td></tr> <tr><td>外来初診患者数</td><td>477</td><td>502</td><td>466</td><td>514</td><td>579</td><td>617</td></tr> </table> こころの診療科地域別実患者数実績 (単位:人) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr> <tr><td>東部</td><td>755</td><td>766</td><td>779</td><td>759</td><td>744</td><td>829</td></tr> <tr><td>中部</td><td>1,077</td><td>1,157</td><td>1,190</td><td>1,227</td><td>1,329</td><td>1,423</td></tr> <tr><td>西部</td><td>54</td><td>59</td><td>56</td><td>59</td><td>56</td><td>53</td></tr> <tr><td>県外</td><td>10</td><td>15</td><td>10</td><td>14</td><td>13</td><td>13</td></tr> <tr><td>合計</td><td>1,896</td><td>1,997</td><td>2,035</td><td>2,059</td><td>2,142</td><td>2,318</td></tr> </table>	区分	対象	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	小児救命救急研究会	小児医療、救急医療関係者	150	135	161	86	0	0	救急救命士再教育病院実習	救急救命士	6	10	6	0	0	0	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	入院延患者数	10,086	10,864	10,011	9,445	7,890	10,353	入院新患者数	54	58	57	50	63	71	外来延患者数	12,311	12,607	12,376	11,604	11,416	13,211	外来初診患者数	477	502	466	514	579	617	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	東部	755	766	779	759	744	829	中部	1,077	1,157	1,190	1,227	1,329	1,423	西部	54	59	56	59	56	53	県外	10	15	10	14	13	13	合計	1,896	1,997	2,035	2,059	2,142	2,318	こども	例年、救急隊員を対象とした研修会等を定期的に開催し、県下の小児救急医療の質の向上を図っているものの、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響により開催要請等がなく、実施できなかった。重篤な小児患者の受入れ等救急体制については、継続的に体制の整備を図っていく。																																																										
区分	対象	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																															
小児救命救急研究会	小児医療、救急医療関係者	150	135	161	86	0	0																																																																																																																																																															
救急救命士再教育病院実習	救急救命士	6	10	6	0	0	0																																																																																																																																																															
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																
入院延患者数	10,086	10,864	10,011	9,445	7,890	10,353																																																																																																																																																																
入院新患者数	54	58	57	50	63	71																																																																																																																																																																
外来延患者数	12,311	12,607	12,376	11,604	11,416	13,211																																																																																																																																																																
外来初診患者数	477	502	466	514	579	617																																																																																																																																																																
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																
東部	755	766	779	759	744	829																																																																																																																																																																
中部	1,077	1,157	1,190	1,227	1,329	1,423																																																																																																																																																																
西部	54	59	56	59	56	53																																																																																																																																																																
県外	10	15	10	14	13	13																																																																																																																																																																
合計	1,896	1,997	2,035	2,059	2,142	2,318																																																																																																																																																																
					こころの診療科地域別実患者数実績 (単位:人) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr> <tr><td>東部</td><td>755</td><td>766</td><td>779</td><td>759</td><td>744</td><td>829</td></tr> <tr><td>中部</td><td>1,077</td><td>1,157</td><td>1,190</td><td>1,227</td><td>1,329</td><td>1,423</td></tr> <tr><td>西部</td><td>54</td><td>59</td><td>56</td><td>59</td><td>56</td><td>53</td></tr> <tr><td>県外</td><td>10</td><td>15</td><td>10</td><td>14</td><td>13</td><td>13</td></tr> <tr><td>合計</td><td>1,896</td><td>1,997</td><td>2,035</td><td>2,059</td><td>2,142</td><td>2,318</td></tr> </table> A 県内の児童精神科医療の中核機関として、中部地域だけでなく、児童精神科の医療機関が少ない東部地域からも多くの患者を受け入れている。	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	東部	755	766	779	759	744	829	中部	1,077	1,157	1,190	1,227	1,329	1,423	西部	54	59	56	59	56	53	県外	10	15	10	14	13	13	合計	1,896	1,997	2,035	2,059	2,142	2,318																																																																																																																							
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																
東部	755	766	779	759	744	829																																																																																																																																																																
中部	1,077	1,157	1,190	1,227	1,329	1,423																																																																																																																																																																
西部	54	59	56	59	56	53																																																																																																																																																																
県外	10	15	10	14	13	13																																																																																																																																																																
合計	1,896	1,997	2,035	2,059	2,142	2,318																																																																																																																																																																

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																																			
						説明																																																																								
		②「子どもの心の診療ネットワーク事業」の拠点病院として、教育・福祉・医療機関の連携ネットワークの更なる拡大、充実 ③臨床研修の充実による児童精神科医の継続的育成	57	②厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に静岡県を拠点病院として参加する。	<p>事業を行っている全国19都府県1政令指定都市にある29の拠点病院の一つとして参加し、学校・地域との連携強化を図った。 (拠点病院を配置している都府県等) 岩手県、千葉県、東京都、石川県、山梨県、長野県、静岡県、三重県、大阪府、兵庫県、鳥取県、島根県、岡山県、香川県、高知県、福岡県、佐賀県、熊本県、沖縄県、札幌市</p> <table border="1"> <caption>精神保健講座等開催実績</caption> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">28年度</th> <th colspan="2">29年度</th> <th colspan="2">30年度</th> <th colspan="2">元年度</th> <th colspan="2">2年度</th> <th colspan="2">3年度</th> </tr> <tr> <th>精神保健</th> <th>児童養護</th> <th>精神保健</th> <th>児童養護</th> <th>精神保健</th> <th>児童養護</th> <th>精神保健</th> <th>児童養護</th> <th>講座</th> <th>施設巡回</th> <th>講座</th> <th>施設巡回</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>対象</td> <td>県内小中</td> <td>こども</td> <td>県内小中</td> <td>こども</td> <td>県内小中</td> <td>こども</td> <td>県内小中</td> <td>こども</td> <td>県内小中</td> <td>こども</td> <td>県内小中</td> <td>こども</td> </tr> <tr> <td>参加者数等</td> <td>5回</td> <td>10回</td> <td>5回</td> <td>11回</td> <td>5回</td> <td>10回</td> <td>5回</td> <td>11回</td> <td>2回</td> <td>11回</td> <td>4回</td> <td>10回</td> </tr> <tr> <td></td> <td>135人</td> <td>10施設</td> <td>136人</td> <td>11施設</td> <td>159人</td> <td>10施設</td> <td>96人</td> <td>11施設</td> <td>49人</td> <td>11施設</td> <td>140人</td> <td>10施設</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度		29年度		30年度		元年度		2年度		3年度		精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	講座	施設巡回	講座	施設巡回	対象	県内小中	こども	県内小中	こども	県内小中	こども	県内小中	こども	県内小中	こども	県内小中	こども	参加者数等	5回	10回	5回	11回	5回	10回	5回	11回	2回	11回	4回	10回		135人	10施設	136人	11施設	159人	10施設	96人	11施設	49人	11施設	140人	10施設	A	急増する子どもの心の問題に関するネットワーク構築のため、学校・地域との連携強化を図り、県内の小児精神保健ネットワークの中核的な役割を果たしている。 令和元年度末及び令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により精神保健講座の参加者数は減少したが、令和3年度は平成30年度並に実施した。							
区分	28年度		29年度		30年度		元年度		2年度		3年度																																																																			
	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	講座	施設巡回	講座	施設巡回																																																																		
対象	県内小中	こども	県内小中	こども	県内小中	こども	県内小中	こども	県内小中	こども	県内小中	こども																																																																		
参加者数等	5回	10回	5回	11回	5回	10回	5回	11回	2回	11回	4回	10回																																																																		
	135人	10施設	136人	11施設	159人	10施設	96人	11施設	49人	11施設	140人	10施設																																																																		
		③児童精神科医の育成に努める。	58	③児童精神科医の育成に努める。	<p>有期職員医師を1名採用し(平成25年度から延べ9名)、専門的な児童精神科医を育成している。</p> <table border="1"> <caption>有期職員医師採用実績 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>採用人数</td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	採用人数		1	1	1	1	1	A	児童精神科臨床研修として有期職員医師を採用し、児童精神科医の育成を行った。																																																									
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																								
採用人数		1	1	1	1	1																																																																								
	・重症心身障害児等の医療的ケア児の退院、在宅移行を支援する体制について、県と連携して整備を図る。	○重症心身障害児等の医療的ケア児の退院、在宅移行を支援する体制、県と連携して具体化 ①医療的ケア児のレスパイト対応のため、障害者総合支援法に基づく「短期入所サービス」の実施	59	①言語聴覚業務における学校現場との連携、理学療法における退院後のフォロー、作業療法における急性期作業療法他の充実を図る。 ①医療的ケア児の在宅移行支援病棟の設置を検討する。 ①「短期入所サービス」事業の実施準備	<table border="1"> <caption>医療的ケア児に関する検討会開催実績 (単位:回)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>リハ実施実績 (単位:件)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理学療法</td> <td>17,504</td> <td>18,944</td> <td>17,309</td> <td>22,829</td> <td>22,985</td> <td>24,683</td> </tr> <tr> <td>作業療法</td> <td>6,010</td> <td>6,656</td> <td>6,039</td> <td>4,546</td> <td>3,813</td> <td>7,794</td> </tr> <tr> <td>言語聴覚療法</td> <td>8,656</td> <td>7,306</td> <td>7,901</td> <td>9,744</td> <td>10,162</td> <td>10,045</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>32,170</td> <td>32,906</td> <td>31,249</td> <td>37,119</td> <td>36,960</td> <td>42,522</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>短期入所利用者数 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用者数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	回数	-	-	5	3	6	6	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3目標	理学療法	17,504	18,944	17,309	22,829	22,985	24,683	作業療法	6,010	6,656	6,039	4,546	3,813	7,794	言語聴覚療法	8,656	7,306	7,901	9,744	10,162	10,045	計	32,170	32,906	31,249	37,119	36,960	42,522	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	利用者数	-	-	-	-	-	0	A	こども病院では、言語聴覚業務における学校現場との連携、理学療法における退院後のフォローなどを行っており、令和3年度の理学療法件数は、前年度実績及び目標を上回った。 在宅移行の推進や在宅移行後の医療的ケア児への対応については、令和2年度に指定障害福祉サービスによる、短期入所者の指定を受け、保護者支援が必要となる場合に児を預かる事ができるよう、受入れ体制の整備を図っている。 県内唯一の小児専門病院として小児の高度専門医療を担っているが、慢性期医療・福祉の分野となる医療的ケア児については、在宅移行、在宅移行後の患児・家族へのフォローに関して、各分野との関係の整理や、方向性の検討を行った。								
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																								
回数	-	-	5	3	6	6																																																																								
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3目標																																																																								
理学療法	17,504	18,944	17,309	22,829	22,985	24,683																																																																								
作業療法	6,010	6,656	6,039	4,546	3,813	7,794																																																																								
言語聴覚療法	8,656	7,306	7,901	9,744	10,162	10,045																																																																								
計	32,170	32,906	31,249	37,119	36,960	42,522																																																																								
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																								
利用者数	-	-	-	-	-	0																																																																								
	・効率的な病院運営を図り、また、県民に安全で質の高い医療の提供を行うため、病床稼働率及び入院・外来患者満足度について各事業年度で高い水準を達成する。	○効率的な病院運営による県民に安全で質の高い医療を提供 ①病棟再編の検討 ②入退院支援センターの稼働 ③心臓カテーテル治療数の増加 ④病床稼働率75%以上の維持 ⑤患者満足度の向上 ⑥遠隔医療の適切な推進	60	①ICUの統合等、病棟再編案を策定する。 ②入退院支援センターの業務の推進 ③No.51 ④効率的な病院運営を行い、高い病床稼働率を維持する。 ⑤No.8 ⑥遠隔による外来診療、セカンドオピニオンを実施する	<table border="1"> <caption>入退院支援センター設置ワーキング開催実績 (単位:回)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>13</td> <td>12</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>病床稼働率 (単位:%)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>稼働率</td> <td>78.7</td> <td>76.4</td> <td>76.2</td> <td>76.4</td> <td>66.4</td> <td>75以上</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>入退院支援センター利用者数 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用者数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>5,382</td> <td>4,573</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>遠隔外来患者数 (単位:人)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>117</td> <td>217</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	回数	-	-	-	13	12	4	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3目標	稼働率	78.7	76.4	76.2	76.4	66.4	75以上	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	利用者数	-	-	-	-	5,382	4,573	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	患者数	-	-	-	-	117	217	A	令和3年度6月から、質の高い診療や診療報酬の増収を目指し、PICUとCCUを統合した。 病床稼働率については、新型コロナウイルス感染症の拡大が下火となり、患者数が増加に転じていること、前年度に本格稼働した「入退院支援センター」を活用して、効率的な病床稼働を目指していることから令和3年度は目標を上回った。 また、こども病院は極めて広域性があり、遠方から来院する患者の負担を軽減しながら安全で質の高い医療を提供するため、令和2年9月からオンラインによる外来診療体制を全国に先駆けて構築しており、令和3年度は令和2年度実績を大きく上回った。															
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																								
回数	-	-	-	13	12	4																																																																								
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3目標																																																																								
稼働率	78.7	76.4	76.2	76.4	66.4	75以上																																																																								
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																								
利用者数	-	-	-	-	5,382	4,573																																																																								
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																								
患者数	-	-	-	-	117	217																																																																								
	【目標値】 ・心臓カテーテル治療実績(こども) ・病床稼働率(こども) ・患者満足度[入院・外来](こども)	【目標値】県立こども病院 ・心臓カテーテル治療実績(こども) ・病床稼働率(こども) ・患者満足度[入院・外来](こども) ・小児がん登録件数(こども) ・リハ実施件数(こども)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-																																																														

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																																																																																																																																																																																																																																							
						説明																																																																																																																																																																																																																																																																												
			63	<p>・即時的で効果的な人材を確保するため、採用試験を適宜実施する。</p>	<p>看護師については、定時募集に加えて随時募集を実施し、切れ目のない採用試験を実施している。さらに優秀な人材確保のためコマディカル及び事務においてアンシエイトの公募試験を実施した。</p> <p>正規職員の確保状況(各年度4月1日現在) (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医 師</td> <td>245</td> <td>260</td> <td>269</td> <td>283</td> <td>289</td> <td>293</td> <td>307</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>看護 師</td> <td>1,317</td> <td>1,370</td> <td>1,370</td> <td>1,366</td> <td>1,398</td> <td>1,403</td> <td>1,398</td> </tr> <tr> <td>医療技師</td> <td>320</td> <td>315</td> <td>319</td> <td>333</td> <td>347</td> <td>362</td> <td>369</td> </tr> <tr> <td>研 究 員</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>専 務</td> <td>119</td> <td>118</td> <td>126</td> <td>123</td> <td>131</td> <td>136</td> <td>140</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>2,006</td> <td>2,067</td> <td>2,088</td> <td>2,112</td> <td>2,174</td> <td>2,201</td> <td>2,223</td> </tr> </tbody> </table> <p>本部(総務)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医 師</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>医療技師</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>専 務</td> <td>27</td> <td>25</td> <td>32</td> <td>32</td> <td>32</td> <td>32</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>29</td> <td>27</td> <td>34</td> <td>35</td> <td>34</td> <td>36</td> <td>38</td> </tr> </tbody> </table> <p>総合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医 師</td> <td>144</td> <td>157</td> <td>165</td> <td>179</td> <td>184</td> <td>188</td> <td>195</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>看護 師</td> <td>748</td> <td>804</td> <td>806</td> <td>807</td> <td>829</td> <td>826</td> <td>837</td> </tr> <tr> <td>医療技師</td> <td>211</td> <td>208</td> <td>214</td> <td>226</td> <td>237</td> <td>249</td> <td>255</td> </tr> <tr> <td>研 究 員</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>専 務</td> <td>51</td> <td>52</td> <td>54</td> <td>53</td> <td>59</td> <td>63</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,158</td> <td>1,224</td> <td>1,242</td> <td>1,271</td> <td>1,317</td> <td>1,331</td> <td>1,359</td> </tr> </tbody> </table> <p>こころ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医 師</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>看護 師</td> <td>114</td> <td>115</td> <td>118</td> <td>120</td> <td>124</td> <td>122</td> <td>122</td> </tr> <tr> <td>医療技師</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>専 務</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>165</td> <td>166</td> <td>170</td> <td>170</td> <td>175</td> <td>174</td> <td>176</td> </tr> </tbody> </table> <p>こども</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医 師</td> <td>89</td> <td>91</td> <td>90</td> <td>90</td> <td>91</td> <td>92</td> <td>99</td> </tr> <tr> <td>看護 師</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>医療技師</td> <td>453</td> <td>449</td> <td>444</td> <td>436</td> <td>444</td> <td>452</td> <td>436</td> </tr> <tr> <td>専 務</td> <td>28</td> <td>28</td> <td>27</td> <td>27</td> <td>28</td> <td>28</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>654</td> <td>650</td> <td>642</td> <td>636</td> <td>648</td> <td>660</td> <td>650</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	医 師	245	260	269	283	289	293	307	歯科医師	5	4	4	5	7	7	8	看護 師	1,317	1,370	1,370	1,366	1,398	1,403	1,398	医療技師	320	315	319	333	347	362	369	研 究 員				2	2		1	専 務	119	118	126	123	131	136	140	計	2,006	2,067	2,088	2,112	2,174	2,201	2,223	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	医 師	2	2	2	3	1	3	3	医療技師						1	1	専 務	27	25	32	32	32	32	34	計	29	27	34	35	34	36	38	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	医 師	144	157	165	179	184	188	195	歯科医師	4	3	3	4	6	5	6	看護 師	748	804	806	807	829	826	837	医療技師	211	208	214	226	237	249	255	研 究 員				2	2		1	専 務	51	52	54	53	59	63	65	計	1,158	1,224	1,242	1,271	1,317	1,331	1,359	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	医 師	12	12	14	14	13	13	13	看護 師	114	115	118	120	124	122	122	医療技師	26	26	25	25	26	26	27	専 務	13	13	13	11	12	13	14	計	165	166	170	170	175	174	176	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	医 師	89	91	90	90	91	92	99	看護 師	1	1	1	1	1	2	2	医療技師	453	449	444	436	444	452	436	専 務	28	28	27	27	28	28	27	計	654	650	642	636	648	660	650	<p>令和3年度実績 自己評価</p> <p>説明</p> <p>医師については、専門医確保に向けてホームページにプログラム説明動画を公開し、プログラムの魅力を伝え、募集に努めている。 今後、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、医学生向け説明会への参加や病院見学の受入などを行い確保に努める。</p> <p>令和3年度は、看護師募集について、定時募集を第1回から3病院対象に実施し、計3回実施した。新型コロナウイルス感染症拡大の影響の中、第1期看護師採用試験は、Web面談と小論文に代わる書類審査に切替え実施した。 また、経験者を対象とした月次募集により切れ目のない募集を実施した。なお、看護師確保のため、就職説明会への参加や各種広報、養成校訪問に代わるWeb会議など様々な確保対策を進め、採用数の増加に繋げている。</p> <p>コマディカルは、必要な職種について適時、募集を実施しており、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、視能訓練士、言語聴覚士(アンシエイト)、精神保健福祉士について公募試験を実施し優秀な人材の確保に努めている。</p> <p>事務についても、正規職員の公募試験を実施し、優秀な人材の確保に努めている。</p>	<p>医師については、3病院とも前年度以上の医師数を確保している。 ・全国的に看護師不足が問題となる中、積極的な看護師確保対策、柔軟な採用試験の実施、勤務環境の改善、多様な勤務条件の設定等の努力により、各病院が高度・専門・特殊医療の提供に必要な水準の職員数確保に成功している。 ・看護師定時募集方法については、第1期募集から勤務先を3病院として実施し、看護学生の就職活動の早期化と勤務先の希望に柔軟に対応している。</p>	18		○
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度																																																																																																																																																																																																																																																																											
医 師	245	260	269	283	289	293	307																																																																																																																																																																																																																																																																											
歯科医師	5	4	4	5	7	7	8																																																																																																																																																																																																																																																																											
看護 師	1,317	1,370	1,370	1,366	1,398	1,403	1,398																																																																																																																																																																																																																																																																											
医療技師	320	315	319	333	347	362	369																																																																																																																																																																																																																																																																											
研 究 員				2	2		1																																																																																																																																																																																																																																																																											
専 務	119	118	126	123	131	136	140																																																																																																																																																																																																																																																																											
計	2,006	2,067	2,088	2,112	2,174	2,201	2,223																																																																																																																																																																																																																																																																											
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度																																																																																																																																																																																																																																																																											
医 師	2	2	2	3	1	3	3																																																																																																																																																																																																																																																																											
医療技師						1	1																																																																																																																																																																																																																																																																											
専 務	27	25	32	32	32	32	34																																																																																																																																																																																																																																																																											
計	29	27	34	35	34	36	38																																																																																																																																																																																																																																																																											
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度																																																																																																																																																																																																																																																																											
医 師	144	157	165	179	184	188	195																																																																																																																																																																																																																																																																											
歯科医師	4	3	3	4	6	5	6																																																																																																																																																																																																																																																																											
看護 師	748	804	806	807	829	826	837																																																																																																																																																																																																																																																																											
医療技師	211	208	214	226	237	249	255																																																																																																																																																																																																																																																																											
研 究 員				2	2		1																																																																																																																																																																																																																																																																											
専 務	51	52	54	53	59	63	65																																																																																																																																																																																																																																																																											
計	1,158	1,224	1,242	1,271	1,317	1,331	1,359																																																																																																																																																																																																																																																																											
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度																																																																																																																																																																																																																																																																											
医 師	12	12	14	14	13	13	13																																																																																																																																																																																																																																																																											
看護 師	114	115	118	120	124	122	122																																																																																																																																																																																																																																																																											
医療技師	26	26	25	25	26	26	27																																																																																																																																																																																																																																																																											
専 務	13	13	13	11	12	13	14																																																																																																																																																																																																																																																																											
計	165	166	170	170	175	174	176																																																																																																																																																																																																																																																																											
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度																																																																																																																																																																																																																																																																											
医 師	89	91	90	90	91	92	99																																																																																																																																																																																																																																																																											
看護 師	1	1	1	1	1	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																											
医療技師	453	449	444	436	444	452	436																																																																																																																																																																																																																																																																											
専 務	28	28	27	27	28	28	27																																																																																																																																																																																																																																																																											
計	654	650	642	636	648	660	650																																																																																																																																																																																																																																																																											
			64	<p>・就職説明会への参加、多角的な広報の実施や養成校の訪問などにより、必要な職員の確保を目指す。</p>	<p>看護学生向け就職説明会 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>来場者数</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>業 者</td> <td>1,378</td> <td>887</td> <td>226</td> <td>709</td> <td>709</td> <td>582</td> </tr> <tr> <td>養成校</td> <td>842</td> <td>997</td> <td>602</td> <td>35</td> <td>35</td> <td>137</td> </tr> <tr> <td>訪問者数</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>業 者</td> <td>360</td> <td>608</td> <td>64</td> <td>645</td> <td>645</td> <td>438</td> </tr> <tr> <td>養成校</td> <td>366</td> <td>357</td> <td>345</td> <td>316</td> <td>316</td> <td>120</td> </tr> <tr> <td>受験者数</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>業 者</td> <td>58</td> <td>53</td> <td>3</td> <td>112</td> <td>112</td> <td>82</td> </tr> <tr> <td>養成校</td> <td>86</td> <td>64</td> <td>73</td> <td>92</td> <td>92</td> <td>72</td> </tr> </tbody> </table> <p>看護学生向け就職説明会 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>来場者数</th> <th>訪問者数</th> <th>受験者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ナース専科(静岡)</td> <td>123</td> <td>123</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>ナースナビ(浜松)</td> <td>153</td> <td>42</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>マイナビ(静岡)</td> <td>220</td> <td>215</td> <td>53</td> </tr> <tr> <td>(沼津)</td> <td>86</td> <td>58</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>業者計</td> <td></td> <td></td> <td>82</td> </tr> <tr> <td>静岡県立大学</td> <td>PR動画の提供</td> <td></td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>常葉大学</td> <td>56</td> <td>56</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>聖隷クリストファー大学</td> <td>令和4年3月開催</td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>順天堂大学</td> <td>実施無し</td> <td></td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>静岡市立看護専門学校</td> <td>81</td> <td>64</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>静岡県立看護専門学校</td> <td>PR動画の提供</td> <td></td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>養成校計</td> <td></td> <td></td> <td>72</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td></td> <td>154</td> </tr> </tbody> </table> <p>※訪問者数は病院間の重複あり</p>		28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	来場者数							業 者	1,378	887	226	709	709	582	養成校	842	997	602	35	35	137	訪問者数							業 者	360	608	64	645	645	438	養成校	366	357	345	316	316	120	受験者数							業 者	58	53	3	112	112	82	養成校	86	64	73	92	92	72	区 分	来場者数	訪問者数	受験者数	ナース専科(静岡)	123	123	16	ナースナビ(浜松)	153	42	3	マイナビ(静岡)	220	215	53	(沼津)	86	58	10	業者計			82	静岡県立大学	PR動画の提供		28	常葉大学	56	56	20	聖隷クリストファー大学	令和4年3月開催		3	順天堂大学	実施無し		7	静岡市立看護専門学校	81	64	7	静岡県立看護専門学校	PR動画の提供		7	養成校計			72	計			154	<p>令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で今までのような病院見学会やインターンシップの開催ができない中、少しでも学生の知りたい情報を提供するため、積極的に説明会に参加している。 看護師確保対策の中でも企業・養成校主催の就職説明会は、看護学生が看護部長や先輩看護師等と直接話ができることから、病院の宣伝だけでなく、看護学生個人が知りたい情報を直接伝えることができる利点があるため、今後も昨年に引き続き養成校主催の説明会へ参加し、現在の学生の動向等をつかむことで、看護師確保に努める。</p>	<p>・就職説明会は、機構の看護師が直にコミュニケーションを図ることで看護学生が知りたい情報を把握できるという利点に併せて、採用後のミスマッチの予防にも効果があるものと考えられる。 ・今後も引き続き新型コロナウイルス感染症の影響が懸念されるが、オンライン等も活用した臨機応変な対応が期待される。</p>	19		○																																																																																																																																										
	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																																																																																																																												
来場者数																																																																																																																																																																																																																																																																																		
業 者	1,378	887	226	709	709	582																																																																																																																																																																																																																																																																												
養成校	842	997	602	35	35	137																																																																																																																																																																																																																																																																												
訪問者数																																																																																																																																																																																																																																																																																		
業 者	360	608	64	645	645	438																																																																																																																																																																																																																																																																												
養成校	366	357	345	316	316	120																																																																																																																																																																																																																																																																												
受験者数																																																																																																																																																																																																																																																																																		
業 者	58	53	3	112	112	82																																																																																																																																																																																																																																																																												
養成校	86	64	73	92	92	72																																																																																																																																																																																																																																																																												
区 分	来場者数	訪問者数	受験者数																																																																																																																																																																																																																																																																															
ナース専科(静岡)	123	123	16																																																																																																																																																																																																																																																																															
ナースナビ(浜松)	153	42	3																																																																																																																																																																																																																																																																															
マイナビ(静岡)	220	215	53																																																																																																																																																																																																																																																																															
(沼津)	86	58	10																																																																																																																																																																																																																																																																															
業者計			82																																																																																																																																																																																																																																																																															
静岡県立大学	PR動画の提供		28																																																																																																																																																																																																																																																																															
常葉大学	56	56	20																																																																																																																																																																																																																																																																															
聖隷クリストファー大学	令和4年3月開催		3																																																																																																																																																																																																																																																																															
順天堂大学	実施無し		7																																																																																																																																																																																																																																																																															
静岡市立看護専門学校	81	64	7																																																																																																																																																																																																																																																																															
静岡県立看護専門学校	PR動画の提供		7																																																																																																																																																																																																																																																																															
養成校計			72																																																																																																																																																																																																																																																																															
計			154																																																																																																																																																																																																																																																																															

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																																													
						説明																																																																																		
		【目標値】 ・医師数(総合、こころ、こども) ・看護師数(総合、こころ、こども)	68	⑥海外との視察者等の受け入れや派遣など、国際交流の推進を図る。	<p>海外視察・講演等の派遣・受入 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>視察・講演等派遣</td> <td>53</td> <td>54</td> <td>60</td> <td>73</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>視察・研修等受入</td> <td>44</td> <td>58</td> <td>51</td> <td>35</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>総合病院では、平成23年度より中国浙江省からの研修受入を行っており、中国浙江省7医院と友好協力協定及び覚書を締結し、これまでに延べ85人(うち医師61人)の研修生を受け入れている。令和3年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により派遣研修及び相互訪問は中止となっているが、消化器内科がオンラインで浙江省の学会への動画の送付を実施した。</p>		28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	視察・講演等派遣	53	54	60	73	0	0	視察・研修等受入	44	58	51	35	0	0	B	令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、派遣研修及び相互訪問は中止となったが、オンラインによる学会参加や書簡の往来など、可能な交流を継続的に行なった。	・新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年度は、令和2年度に引き続き、海外からの研修生の派遣・受入れを実施していないが、浙江省の学会へのオンライン参加など、良好な友好関係を築いている。																																																											
	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																		
視察・講演等派遣	53	54	60	73	0	0																																																																																		
視察・研修等受入	44	58	51	35	0	0																																																																																		
		⑦看護師及びその他の医療従事者のスキルアップを図るため、認定看護師の育成のほか医療従事者等の研修等を推進する。 ⑦認定看護師等病院運営に寄与する資格について、取得支援制度を拡充することで、資格取得者の増員を図る。	69	⑦認定看護師等病院運営に寄与する資格について、取得支援制度を拡充することで、資格取得者の増員を図る。	<p>主な医療職種の資格取得者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>人数</th> <th>専門・認定領域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>専門看護師</td> <td>4</td> <td>がん看護、急性・重症患者看護、慢性疾患看護</td> </tr> <tr> <td>認定看護師</td> <td>17</td> <td>救急看護、皮膚・排泄ケア、手術看護、乳がん看護、緩和ケア、集中ケア、がん化学療法、感染管理、脳卒中リハビリテーション、慢性期呼吸器疾患、認知症看護、がん放射線療法</td> </tr> <tr> <td>薬剤師</td> <td>36</td> <td>がん薬物療法認定、感染制御認定、がん専門、病院薬学会認定、認定実務実習指導、認定CRC、薬物療法専門、周術期管理、抗菌化学療法認定、緩和薬物療法認定、小児薬物療法認定、がん指導、糖尿病療養指導、薬物療法指導、漢方薬・生薬認定</td> </tr> <tr> <td>検査技師</td> <td>33</td> <td>緊急臨床検査士、認定病理検査技師、細胞検査士、超音波検査士(循環器、消化器)、日本心エコー学会認定専門技師、NST専門療法士、日本糖尿病療養指導士</td> </tr> <tr> <td>放射線技師</td> <td>29</td> <td>放射線治療専門、放射線治療品質管理、医学物理士、PET認定、救急撮影</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>25</td> <td>糖尿病療養指導、がん病態栄養専門管理栄養士、認定超音波検査師、栄養サポートチーム専門専門理学療法士(運動器、呼吸器、内部障害、循環器)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>144</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>認定看護師取得者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>人数</th> <th>専門・認定領域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>専門看護師</td> <td>0</td> <td>精神看護(リエンズ領域)</td> </tr> <tr> <td>認定看護師</td> <td>6</td> <td>精神科</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0</td> <td>感染管理</td> </tr> </tbody> </table> <p>認定看護師取得者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>人数</th> <th>専門・認定領域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>専門看護師</td> <td>2</td> <td>小児看護</td> </tr> <tr> <td>認定看護師</td> <td>8</td> <td>皮膚・排泄ケア1名、集中ケア1名、新生児集中ケア1名、がん化学療法1名、感染管理1名、小児救急看護2名、手術室看護1名</td> </tr> </tbody> </table>	職種	人数	専門・認定領域	専門看護師	4	がん看護、急性・重症患者看護、慢性疾患看護	認定看護師	17	救急看護、皮膚・排泄ケア、手術看護、乳がん看護、緩和ケア、集中ケア、がん化学療法、感染管理、脳卒中リハビリテーション、慢性期呼吸器疾患、認知症看護、がん放射線療法	薬剤師	36	がん薬物療法認定、感染制御認定、がん専門、病院薬学会認定、認定実務実習指導、認定CRC、薬物療法専門、周術期管理、抗菌化学療法認定、緩和薬物療法認定、小児薬物療法認定、がん指導、糖尿病療養指導、薬物療法指導、漢方薬・生薬認定	検査技師	33	緊急臨床検査士、認定病理検査技師、細胞検査士、超音波検査士(循環器、消化器)、日本心エコー学会認定専門技師、NST専門療法士、日本糖尿病療養指導士	放射線技師	29	放射線治療専門、放射線治療品質管理、医学物理士、PET認定、救急撮影	その他	25	糖尿病療養指導、がん病態栄養専門管理栄養士、認定超音波検査師、栄養サポートチーム専門専門理学療法士(運動器、呼吸器、内部障害、循環器)	計	144		区分	人数	専門・認定領域	専門看護師	0	精神看護(リエンズ領域)	認定看護師	6	精神科		0	感染管理	区分	人数	専門・認定領域	専門看護師	2	小児看護	認定看護師	8	皮膚・排泄ケア1名、集中ケア1名、新生児集中ケア1名、がん化学療法1名、感染管理1名、小児救急看護2名、手術室看護1名	A	感染管理、集中ケア等、病院全体の質の向上に資する分野の資格者を各病院に配置し、組織横断的に活動することができている。 また、認定看護師等の病院運営に寄与する資格については、資格等取得資金貸付要綱を改定し、取得支援制度を拡充するなど、資格取得者の増員を図った。	・優れた看護技術と知識を備え高水準の看護を実践する専門看護師や認定看護師を育成することは、高度・専門医療を提供する県立病院の医療の質の向上において重要である。 ・令和3年度の看護師の資格者数は、総合21人(専門4人、認定17人)、こころ6人(専門0人、認定6人)、こども10人(専門2人、認定8人)と、育成が図られている。																																			
職種	人数	専門・認定領域																																																																																						
専門看護師	4	がん看護、急性・重症患者看護、慢性疾患看護																																																																																						
認定看護師	17	救急看護、皮膚・排泄ケア、手術看護、乳がん看護、緩和ケア、集中ケア、がん化学療法、感染管理、脳卒中リハビリテーション、慢性期呼吸器疾患、認知症看護、がん放射線療法																																																																																						
薬剤師	36	がん薬物療法認定、感染制御認定、がん専門、病院薬学会認定、認定実務実習指導、認定CRC、薬物療法専門、周術期管理、抗菌化学療法認定、緩和薬物療法認定、小児薬物療法認定、がん指導、糖尿病療養指導、薬物療法指導、漢方薬・生薬認定																																																																																						
検査技師	33	緊急臨床検査士、認定病理検査技師、細胞検査士、超音波検査士(循環器、消化器)、日本心エコー学会認定専門技師、NST専門療法士、日本糖尿病療養指導士																																																																																						
放射線技師	29	放射線治療専門、放射線治療品質管理、医学物理士、PET認定、救急撮影																																																																																						
その他	25	糖尿病療養指導、がん病態栄養専門管理栄養士、認定超音波検査師、栄養サポートチーム専門専門理学療法士(運動器、呼吸器、内部障害、循環器)																																																																																						
計	144																																																																																							
区分	人数	専門・認定領域																																																																																						
専門看護師	0	精神看護(リエンズ領域)																																																																																						
認定看護師	6	精神科																																																																																						
	0	感染管理																																																																																						
区分	人数	専門・認定領域																																																																																						
専門看護師	2	小児看護																																																																																						
認定看護師	8	皮膚・排泄ケア1名、集中ケア1名、新生児集中ケア1名、がん化学療法1名、感染管理1名、小児救急看護2名、手術室看護1名																																																																																						
		⑧臨床現場に即した、より実践的な研修を提供する。	70	⑧臨床現場に即した、より実践的な研修を提供する。	<p>実習・アルバイト研修等の受入れ (3年度) (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="5">3年度</th> <th rowspan="2">計</th> </tr> <tr> <th>医師</th> <th>医学生</th> <th>看護師</th> <th>看護学生</th> <th>コメディカル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>59</td> <td>330</td> <td>0</td> <td>607</td> <td>105</td> <td>1,101</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>42</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>688</td> <td>8</td> <td>742</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>36</td> <td>14</td> <td>0</td> <td>237</td> <td>14</td> <td>301</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>137</td> <td>348</td> <td>0</td> <td>1,532</td> <td>127</td> <td>2,144</td> </tr> </tbody> </table>	区分	3年度					計	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	総合	59	330	0	607	105	1,101	こころ	42	4	0	688	8	742	こども	36	14	0	237	14	301	計	137	348	0	1,532	127	2,144	B	各病院では、例年医師、医学生、看護師、看護学生等を積極的に受け入れ、メディカルスキルアップセンター等を活用した臨床現場に即した実践的な研修を提供している。 令和3年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により受け入れが困難な状況が続いており、看護師については受け入れが実施できていないが、他の職種については徐々に受け入れが増加し、令和2年度実績を上回った。	・医師、医学生、看護師、看護学生、コメディカルの実習やアルバイトを積極的に受け入れ、臨床現場に即した実践的な研修を提供している。 ・令和3年度は新型コロナウイルスの感染リスク抑制のため、実習・アルバイトの受け入れが難しい状況が続いているが、3病院とも看護師をのぞく全職種で令和2年度を上回る実績をあげており、効果的な実践研修の場の提供に努めている。																																								
区分	3年度						計																																																																																	
	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル																																																																																			
総合	59	330	0	607	105	1,101																																																																																		
こころ	42	4	0	688	8	742																																																																																		
こども	36	14	0	237	14	301																																																																																		
計	137	348	0	1,532	127	2,144																																																																																		
		⑨研修体系プログラムの整備と研修内容の充実を図る。	71	⑨研修体系プログラムの整備と研修内容の充実を図る。	<p>職員研修参加者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規採用職員研修</td> <td>136</td> <td>126</td> <td>125</td> <td>139</td> <td>160</td> <td>130</td> </tr> <tr> <td>新規役付職員研修</td> <td>10</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>10</td> <td>271</td> </tr> <tr> <td>新規監督者研修</td> <td>25</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>11</td> <td>16</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>労務管理者研修</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>120</td> <td>96</td> </tr> <tr> <td>新任管理者・新任監督者研修</td> <td>34</td> <td>28</td> <td>35</td> <td>21</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーション講座</td> <td>20</td> <td>24</td> <td>30</td> <td>19</td> <td>31</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>プレゼンテーション講座</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>ファシリテーション講座</td> <td>23</td> <td>20</td> <td>20</td> <td>25</td> <td>29</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>コーチング講座</td> <td>32</td> <td>18</td> <td>22</td> <td>20</td> <td>29</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>メンタルサポート講座</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>14</td> <td>29</td> <td>24</td> <td>21</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 令和3年度は職務級制度の改正により新規約付き職員研修の対象者が増化した。</p>		28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	新規採用職員研修	136	126	125	139	160	130	新規役付職員研修	10	4	6	7	10	271	新規監督者研修	25	18	18	11	16	10	労務管理者研修	-	-	-	-	120	96	新任管理者・新任監督者研修	34	28	35	21	-	-	コミュニケーション講座	20	24	30	19	31	27	プレゼンテーション講座	-	-	-	-	-	-	ファシリテーション講座	23	20	20	25	29	30	コーチング講座	32	18	22	20	29	19	メンタルサポート講座	25	25	14	29	24	21	A	令和3年度についても、階層別に、業務に必要なスキルを身につける専門研修を実施した。 令和3年度は、令和2年度に引続き、働き方改革関連法に対応するための労務管理者研修を実施した。	・全ての職種に共通して必要となるコミュニケーション能力や組織マネジメント能力など、県内医療の中核を担う県立病院の職員として求められる社会的スキルの習得につながる研修や、働き方改革関連法に対応するための研修など、階層や目的に応じた研修が実施されている。			
	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																		
新規採用職員研修	136	126	125	139	160	130																																																																																		
新規役付職員研修	10	4	6	7	10	271																																																																																		
新規監督者研修	25	18	18	11	16	10																																																																																		
労務管理者研修	-	-	-	-	120	96																																																																																		
新任管理者・新任監督者研修	34	28	35	21	-	-																																																																																		
コミュニケーション講座	20	24	30	19	31	27																																																																																		
プレゼンテーション講座	-	-	-	-	-	-																																																																																		
ファシリテーション講座	23	20	20	25	29	30																																																																																		
コーチング講座	32	18	22	20	29	19																																																																																		
メンタルサポート講座	25	25	14	29	24	21																																																																																		

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																																																																									
						説明																																																																																																														
(2) 勤務環境の向上 優秀な医療従事者を確保するため、働きやすく、また、働きがいのある病院となるよう、ワーク・ライフ・バランスの向上の推進や職員の精神面を含めた健康保持に配慮するほか、医師をはじめとした医療従事者の業務分担を行うなど、勤務環境の向上を図ること。	(2) 勤務環境の向上 医師をはじめとした医療従事者の業務分担をはじめ、仕事と生活の調和に配慮した雇用形態や勤務時間の設定、時間外勤務の縮減、職員の健康保持への配慮や院内保育所の活用など、職員が働きやすく、働きがいを実感できる勤務環境づくりを進める。	(2) 勤務環境の向上 ①ワーク・ライフ・バランスに配慮した多様な雇用形態や勤務時間など柔軟な勤務条件の設定 ②医療従事者が本来業務に専念できる環境の整備 ③職員の意欲を高め、勤務実績が的確に反映される人事・給与制度の検討 ④職員が働きやすい施設等の環境整備 ⑤県立病院院内保育所の活用	-	-	- 看護師の2交代制勤務については、総合病院18部署、こころの医療センター3部署、こども病院10部署となっている。看護師の夜勤専従について、3病院で試行を行っている。 アンソニエイト採用実績(各年度4月1日現在) (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>-</td> <td>3</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>2</td> <td>10</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>2</td> <td>13</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	看護師	-	3	-	1	2	事務	2	10	3	2	2	計	2	13	3	3	4	A	- 看護師の2交代制や夜勤専従の取組など、雇用形態の多様化を図っている。 看護師や事務職員に続き、コメディカルでもアンソニエイト職員を採用し、優秀な人材確保を進めている。 平成29年4月以降、診療賞与の導入により、医師の診療実績を的確に反映する給与体系となっている。	-	-	-	21	○																																																																																
						区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度																																																																																																									
						看護師	-	3	-	1	2																																																																																																									
事務	2	10	3	2	2																																																																																																															
計	2	13	3	3	4																																																																																																															
②医療従事者の事務的業務の軽減を図り、本来業務に専念できる環境の整備や業務多忙を解消するために、医療秘書・助手等を効果的に配置する。	- 補助職員の配置状況(各年度4月1日現在) (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">総合</td> <td>医師事務補助</td> <td>65</td> <td>73</td> <td>73</td> <td>71</td> <td>70</td> <td>76</td> <td>72</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>80</td> <td>74</td> <td>73</td> <td>66</td> <td>61</td> <td>58</td> <td>56</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>145</td> <td>147</td> <td>146</td> <td>137</td> <td>131</td> <td>128</td> <td>128</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">こころ</td> <td>医師事務補助</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">こども</td> <td>医師事務補助</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>12</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>19</td> <td>19</td> <td>20</td> <td>19</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>30</td> <td>31</td> <td>31</td> <td>31</td> <td>33</td> <td>31</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">計</td> <td>医師事務補助</td> <td>85</td> <td>88</td> <td>88</td> <td>86</td> <td>86</td> <td>89</td> <td>86</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>110</td> <td>104</td> <td>102</td> <td>99</td> <td>92</td> <td>88</td> <td>86</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>195</td> <td>192</td> <td>190</td> <td>185</td> <td>178</td> <td>177</td> <td>172</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	総合	医師事務補助	65	73	73	71	70	76	72	看護助手	80	74	73	66	61	58	56	計	145	147	146	137	131	128	128	こころ	医師事務補助	2	2	2	2	2	1	2	看護助手	8	9	8	8	9	9	9	計	10	11	10	10	11	11	11	こども	医師事務補助	12	13	12	12	13	12	13	看護助手	18	18	19	19	20	19	20	計	30	31	31	31	33	31	33	計	医師事務補助	85	88	88	86	86	89	86	看護助手	110	104	102	99	92	88	86	計	195	192	190	185	178	177	172	A	- 医師の事務補助を行う職員の配置については、電子カルテの入力業務等により、医師が診療に専念できる等、事務負担軽減の効果が確認されている。 総合病院では、医師の増加、外来診療枠の拡大に応じて、医療従事者が診療に専念できるように医師事務作業補助者を配置しており、令和3年度においても、診療報酬の施設基準上、最上位基準を維持している。 また、看護助手等の補助職員の配置により、医療従事者が国家資格所有者でなければならない業務に専念できている。	-	-	-	21	○
		区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度																																																																																																											
		総合	医師事務補助	65	73	73	71	70	76		72																																																																																																									
看護助手	80		74	73	66	61	58	56																																																																																																												
計	145		147	146	137	131	128	128																																																																																																												
こころ	医師事務補助	2	2	2	2	2	1	2																																																																																																												
	看護助手	8	9	8	8	9	9	9																																																																																																												
	計	10	11	10	10	11	11	11																																																																																																												
こども	医師事務補助	12	13	12	12	13	12	13																																																																																																												
	看護助手	18	18	19	19	20	19	20																																																																																																												
	計	30	31	31	31	33	31	33																																																																																																												
計	医師事務補助	85	88	88	86	86	89	86																																																																																																												
	看護助手	110	104	102	99	92	88	86																																																																																																												
	計	195	192	190	185	178	177	172																																																																																																												
③全職員を対象とした人事評価制度を円滑に実施する。	- 県準拠として職員組合と合意し、平成30年4月から試行を開始した人事評価制度については、令和2年度から給与(勤勉手当)への活用を開始しており、全職員(有期雇用職員、再雇用職員、休職中の職員等を除く)を対象に実施している。	A	- 平成30年4月から試行を開始した人事評価制度については、令和2年度から給与(勤勉手当)への活用を開始しており、令和3年度についても、全職員(有期雇用職員、再雇用職員、休職中の職員等を除く)を対象に実施した。	-	-	-	21	○																																																																																																												

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																				
						説明																																									
			75	④就労環境の改善に向けた院内施設、子育て支援や相談など福利厚生の実施を進める。	<p>総合病院では、敷地内保険調剤薬局等整備事業において、令和3年9月にカフェ棟が開業し、令和4年3月に薬局・レストラン棟が完成した。</p> <p>院内保育所については、保育所運営協議会において、事務局、委託先、利用者間の意見交換を行い、院内保育所入所者を対象にインフルエンザ予防接種を実施した。</p> <p>こころの医療センターでは、研修医の受入のための医局の整備を実施し、就労環境を改善した。</p> <p>こども病院院内保育所の建替工事については、平成31年3月に竣工し平成31年4月より運用開始した。</p> <p>また、ランドリーを移転し、令和2年3月にコンビニエンスストアを導入した。</p>	A	<p>総合病院では、敷地内保険調剤薬局等整備事業において、令和3年9月にカフェ棟が開業し、令和4年3月に薬局・レストラン棟が完成した。</p> <p>こころの医療センターでは、研究室(令和4年度より稼働)をはじめ研修医の受入のための医局の整備を実施し、就労環境を改善した。</p> <p>こども病院では、ペーパーレス化と業務効率の向上を目的に、タブレット端末(iPad)を導入した。</p> <p>各病院では、医師、看護師等の新型コロナウイルス感染症及び医療事故への対応、その他こころの悩みに対し精神科医師によるケアを充実させ、安心して働くことのできる職場環境改善に努めている。</p> <p>看護師等が離職することを防止するため、こころのケアだけでなく体力低下で看護業務へ支障を来さないよう日常の生活相談を含め、心身に対するきめ細かい対応を行い、長期に渡り勤務できる環境を整える取組を行っている。</p> <p>引き続き、院内施設の実施を図り、就労環境の向上に取り組んでいく。</p>	21	○																																						
			76	⑤院内保育の活用を図る。	<p>保育所利用者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">定員</th> <th colspan="6">平均利用者数</th> </tr> <tr> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合「おひさま」</td> <td>100</td> <td>96</td> <td>90</td> <td>82</td> <td>75</td> <td>65</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>こども「ことり」</td> <td>80</td> <td>18</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>16</td> <td>17</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>180</td> <td>114</td> <td>103</td> <td>95</td> <td>91</td> <td>82</td> <td>84</td> </tr> </tbody> </table>	区分	定員	平均利用者数						28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	総合「おひさま」	100	96	90	82	75	65	65	こども「ことり」	80	18	13	13	16	17	19	計	180	114	103	95	91	82	84	A	<p>各病院の院内保育所では、育児をしながら勤務する医師や看護師の就労環境の向上のため、保育メニュー等の更なる充実に取り組んでいる。</p> <p>総合病院では、二重保育や夜間保育、土日預かり等の多様なメニューを揃え、子育てしながら働きやすい環境を引き続き提供できている。幼保無償化の影響により入所者数が減少しているため、有期コメディカル・正規事務の入所を開始した。また、令和3年11月、12月には院内保育所利用者を対象としたインフルエンザ予防接種を実施。</p> <p>こども病院では、令和元年度から新保育所の運用を開始しており、二重保育や病後児保育など新たな保育サービスに対応している。令和3年度は45人を上限に稼働し、令和4年度以降、段階的に増員する予定である。</p> <p>現状、定員に対し利用者数に開きがあるが、産育休復帰職員の利用の増加による稼働率の上昇を目指し、広報誌の発行や、看護部を通じた産育休取得者への働きかけ等を行った。</p>		
区分	定員	平均利用者数																																													
		28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																								
総合「おひさま」	100	96	90	82	75	65	65																																								
こども「ことり」	80	18	13	13	16	17	19																																								
計	180	114	103	95	91	82	84																																								

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																																																																																																																																										
						説明																																																																																																																																																																															
3	医療に関する調査及び研究	3	医療に関する調査及び研究	3	医療に関する調査及び研究	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																										
(1)	研究機能の強化	(1)	研究機能の強化	(1)	研究機能の強化	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																										
	各病院が臨床研究に取り組み、その研究成果の発信等により、県内医療水準の向上及び医療人材の確保に努めること。また、県立総合病院のリサーチサポートセンターにおいて、医療ビッグデータを活用した疫学、ゲノム研究など県が推進する社会健康医学研究に協力すること。さらに、産学官との連携による共同研究や治験に取り組むこと。	県立総合病院のリサーチサポートセンターを活用し、各病院が臨床研究に取り組み、その成果を発信することなどにより、県内医療水準の向上と医療人材の確保に努める。また、県が定めた社会健康医学研究推進計画に基づき、社会健康医学の研究推進に協力する。治験や調査研究事業の推進に参画できるよう引き続き体制の整備を行い、県立大学等の研究機関との共同研究にも取り組む。	①県立総合病院リサーチサポートセンターの臨床研究を行う環境整備及び研究支援体制の充実 ②静岡社会健康医学大学院大学と連携した社会健康医学研究の充実・推進 ③聴覚障害児における言語獲得の研究支援の実施と早期治療体制の構築 ④県立総合病院リサーチサポートセンターにおいて、静岡県からの受託研究として、「県民の健康寿命の更なる延伸」に向けた社会健康医学研究の実施 ⑤治験や調査研究事業に積極的に参画できる体制の整備・充実による受託件数の増加 ⑥県立大学等の研究機関との共同研究	①臨床研究や疫学研究の充実 ・研究員を確保し、円滑な運用を行う。 ②③④研究体制を充実させ、受託研究を円滑に行い、研究成果を体形的に蓄積するとともに、県民へ成果の還元を行う。 ⑤聴覚障害児における言語獲得の研究支援について、外部機関との連携を推進する。 ⑥研究体制を充実させ、受託研究を円滑に行い、研究成果を体形的に蓄積するとともに、県民へ成果の還元を行う。	臨床研究数 (単位：件、%) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>3目標</th></tr> <tr><td>研究数</td><td>266</td><td>279</td><td>332</td><td>376</td><td>399</td><td>329</td><td>280以上</td></tr> <tr><td>支援研究数</td><td>46</td><td>43</td><td>38</td><td>50</td><td>57</td><td>68</td><td>-</td></tr> <tr><td>支援率</td><td>17.3</td><td>15.4</td><td>11.4</td><td>13.3</td><td>14.3</td><td>20.7</td><td>-</td></tr> </table> 客員研究員受入状況 (単位：人) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr> <tr><td>静岡県立大学</td><td>14</td><td>14</td><td>14</td><td>15</td><td>15</td><td>15</td></tr> <tr><td>外部</td><td>7</td><td>9</td><td>11</td><td>22</td><td>25</td><td>16</td></tr> </table> 社会健康医学受託研究の実施状況 (単位：件) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr> <tr><td>件数</td><td>-</td><td>-</td><td>11</td><td>11</td><td>35</td><td>3</td></tr> </table> 奨学寄附金受入件数・金額 <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>寄附者</th><th>目的</th><th>金額(千円)</th></tr> <tr><td rowspan="5">28年度</td><td>興和創業株式会社</td><td>糖尿病疾患の治療に関する研究</td><td>500</td></tr> <tr><td>小野薬品工業株式会社</td><td>糖尿病・内分泌代謝疾患の治療に関する研究</td><td>500</td></tr> <tr><td>小野薬品工業株式会社</td><td>麻酔の及ぼす影響に関する研究</td><td>500</td></tr> <tr><td>千正鐘</td><td>糖尿病・内分泌内科の研究費</td><td>1,000</td></tr> <tr><td>合計</td><td></td><td>2,500</td></tr> <tr><td rowspan="2">29年度</td><td>日本ヘーシカ・インダ株式会社</td><td>SGLT2阻害薬の食行動に及ぼす影響</td><td>300</td></tr> <tr><td>日本ヘーシカ・インダ株式会社</td><td>気管支喘息等の呼吸器・強制オレーション法の有用性</td><td>500</td></tr> <tr><td>合計</td><td></td><td>800</td></tr> <tr><td rowspan="2">30年度</td><td>日本ヘーシカ・インダ株式会社</td><td>糖尿病治療に関する研究</td><td>150</td></tr> <tr><td>合計</td><td></td><td>150</td></tr> <tr><td rowspan="2">元年度</td><td>日本ヘーシカ・インダ株式会社</td><td>糖尿病治療に関する研究</td><td>200</td></tr> <tr><td>日本ヘーシカ・インダ株式会社</td><td>呼吸器疾患における研究</td><td>200</td></tr> <tr><td>合計</td><td></td><td>400</td></tr> <tr><td rowspan="4">2年度</td><td>日本ヘーシカ・インダ株式会社</td><td>糖尿病治療に関する研究</td><td>400</td></tr> <tr><td>日本ヘーシカ・インダ株式会社</td><td>呼吸器疾患における研究</td><td>200</td></tr> <tr><td>アリス・セラピューティクス株式会社</td><td>遺伝性疾患に関する研究支援</td><td>500</td></tr> <tr><td>株式会社アリス・セラピューティクス</td><td>整形外科疾患における研究</td><td>1,000</td></tr> <tr><td>合計</td><td></td><td>1,900</td></tr> <tr><td rowspan="3">3年度</td><td>日本ヘーシカ・インダ株式会社</td><td>糖尿病治療に関する研究</td><td>200</td></tr> <tr><td>日本ヘーシカ・インダ株式会社</td><td>呼吸器疾患における研究</td><td>200</td></tr> <tr><td>大正製薬株式会社</td><td>糖尿病疾患の治療に関する研究</td><td>300</td></tr> <tr><td>合計</td><td></td><td>700</td></tr> </table> 新生児聴覚スクリーニング件数 <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr> <tr><td>スクリーニング件数</td><td>454</td><td>456</td><td>470</td><td>541</td><td>567</td><td>549</td></tr> </table> 人工内耳埋込術件数 <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr> <tr><td>件数</td><td>18</td><td>12</td><td>15</td><td>13</td><td>9</td><td>13</td></tr> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	研究数	266	279	332	376	399	329	280以上	支援研究数	46	43	38	50	57	68	-	支援率	17.3	15.4	11.4	13.3	14.3	20.7	-	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	静岡県立大学	14	14	14	15	15	15	外部	7	9	11	22	25	16	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	件数	-	-	11	11	35	3	区分	寄附者	目的	金額(千円)	28年度	興和創業株式会社	糖尿病疾患の治療に関する研究	500	小野薬品工業株式会社	糖尿病・内分泌代謝疾患の治療に関する研究	500	小野薬品工業株式会社	麻酔の及ぼす影響に関する研究	500	千正鐘	糖尿病・内分泌内科の研究費	1,000	合計		2,500	29年度	日本ヘーシカ・インダ株式会社	SGLT2阻害薬の食行動に及ぼす影響	300	日本ヘーシカ・インダ株式会社	気管支喘息等の呼吸器・強制オレーション法の有用性	500	合計		800	30年度	日本ヘーシカ・インダ株式会社	糖尿病治療に関する研究	150	合計		150	元年度	日本ヘーシカ・インダ株式会社	糖尿病治療に関する研究	200	日本ヘーシカ・インダ株式会社	呼吸器疾患における研究	200	合計		400	2年度	日本ヘーシカ・インダ株式会社	糖尿病治療に関する研究	400	日本ヘーシカ・インダ株式会社	呼吸器疾患における研究	200	アリス・セラピューティクス株式会社	遺伝性疾患に関する研究支援	500	株式会社アリス・セラピューティクス	整形外科疾患における研究	1,000	合計		1,900	3年度	日本ヘーシカ・インダ株式会社	糖尿病治療に関する研究	200	日本ヘーシカ・インダ株式会社	呼吸器疾患における研究	200	大正製薬株式会社	糖尿病疾患の治療に関する研究	300	合計		700	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	スクリーニング件数	454	456	470	541	567	549	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	件数	18	12	15	13	9	13	平成30年度より、県と協力しながら取り組んだ研究体制の強化や研究環境の整備の結果、令和3年4月に静岡社会健康医学大学院大学が開学した。社会健康医学研究については、大学院大学開学後も、引き続き当院のリサーチサポートセンターを利用して研究を実施している。 リサーチサポートセンターのきこえとことばのセンター(静岡県乳幼児聴覚支援センター)では、言語聴覚士を増員し療育、教育の面から聴覚障害児の生活支援をしたほか、これまで乳幼児期の難聴や人工内耳の装用による脳の発達に関するメカニズムに関する研究を行ってきた。この聴覚障害に関する継続した社会的取組が評価され、令和3年10月にNTTコミュニケーション科学基礎研究所と音声知覚・言語発達のメカニズムを解明することを目的に共同研究に関する協定を締結した。 また、大学院と連携協定等を締結し、医療従事者が働きながら修学できる体制を整えており、昨年度に引き続き、令和4年度の修学に向け機構内の修学候補者を慶應義塾大学大学院で1名、静岡社会健康医学大学院大学で2名、選定した。 なお、令和3年度における文部科学省科学研究費の応募・採択状況は、応募件数12件、採択件数2件(8,320千円)であり、院内における臨床研究に関して積極的に取り組んでいる。	・リサーチサポートセンターにおいては、令和3年4月に静岡社会健康医学大学院大学が開学した後も、引き続き研究が行われており、社会健康医学研究の推進に貢献している。 ・客員研究員の受入れや機器整備などの研究体制強化の成果が現れており、臨床研究数は、令和3年度実績は329件であり、目標の280件を上回っている。 ・文部科学省科学研究費補助金の受入れが可能な研究機関としてリサーチサポートセンターを含む14部門が指定を受けており、令和3年度は12件応募、うち2件が採択されている。 ・令和2年1月に締結した慶應義塾大学大学院医学研究科との連携・協力協定に基づき、令和3年度には1名が修学しており、さらに令和4年度の修学に向け、1名を選定した。 ・意欲ある医師に対して研究や学術交流の機会を提供することで今後の医療水準の向上と、魅力的な臨床研究環境をPRすることによる医師確保への貢献が期待される。 ・きこえとことばのセンター(静岡県乳幼児聴覚支援センター)は、平成22年に県の委託により総合病院に設置し、聴覚異常の早期発見と早期治療に係る専門的支援を実施してきた。 ・これまでの取組が評価され、令和3年10月にNTTコミュニケーション科学基礎研究所と共同研究に関する協定を締結しており、聴覚メカニズム解明への貢献が期待される。	22	1	☆
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																																																																																																																														
研究数	266	279	332	376	399	329	280以上																																																																																																																																																																														
支援研究数	46	43	38	50	57	68	-																																																																																																																																																																														
支援率	17.3	15.4	11.4	13.3	14.3	20.7	-																																																																																																																																																																														
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																															
静岡県立大学	14	14	14	15	15	15																																																																																																																																																																															
外部	7	9	11	22	25	16																																																																																																																																																																															
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																															
件数	-	-	11	11	35	3																																																																																																																																																																															
区分	寄附者	目的	金額(千円)																																																																																																																																																																																		
28年度	興和創業株式会社	糖尿病疾患の治療に関する研究	500																																																																																																																																																																																		
	小野薬品工業株式会社	糖尿病・内分泌代謝疾患の治療に関する研究	500																																																																																																																																																																																		
	小野薬品工業株式会社	麻酔の及ぼす影響に関する研究	500																																																																																																																																																																																		
	千正鐘	糖尿病・内分泌内科の研究費	1,000																																																																																																																																																																																		
	合計		2,500																																																																																																																																																																																		
29年度	日本ヘーシカ・インダ株式会社	SGLT2阻害薬の食行動に及ぼす影響	300																																																																																																																																																																																		
	日本ヘーシカ・インダ株式会社	気管支喘息等の呼吸器・強制オレーション法の有用性	500																																																																																																																																																																																		
合計		800																																																																																																																																																																																			
30年度	日本ヘーシカ・インダ株式会社	糖尿病治療に関する研究	150																																																																																																																																																																																		
	合計		150																																																																																																																																																																																		
元年度	日本ヘーシカ・インダ株式会社	糖尿病治療に関する研究	200																																																																																																																																																																																		
	日本ヘーシカ・インダ株式会社	呼吸器疾患における研究	200																																																																																																																																																																																		
合計		400																																																																																																																																																																																			
2年度	日本ヘーシカ・インダ株式会社	糖尿病治療に関する研究	400																																																																																																																																																																																		
	日本ヘーシカ・インダ株式会社	呼吸器疾患における研究	200																																																																																																																																																																																		
	アリス・セラピューティクス株式会社	遺伝性疾患に関する研究支援	500																																																																																																																																																																																		
	株式会社アリス・セラピューティクス	整形外科疾患における研究	1,000																																																																																																																																																																																		
合計		1,900																																																																																																																																																																																			
3年度	日本ヘーシカ・インダ株式会社	糖尿病治療に関する研究	200																																																																																																																																																																																		
	日本ヘーシカ・インダ株式会社	呼吸器疾患における研究	200																																																																																																																																																																																		
	大正製薬株式会社	糖尿病疾患の治療に関する研究	300																																																																																																																																																																																		
合計		700																																																																																																																																																																																			
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																															
スクリーニング件数	454	456	470	541	567	549																																																																																																																																																																															
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																															
件数	18	12	15	13	9	13																																																																																																																																																																															
			⑤医療水準の向上と院内における医療の質の高度化に資するため、新薬開発や臨床研究などへ参画する。	⑤医療水準の向上と院内における医療の質の高度化に資するため、新薬開発や臨床研究などへ参画する。	医薬品受託研究事業費・契約件数 (単位：千円、件) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr> <tr><td>件数</td><td>30</td><td>29</td><td>24</td><td>17</td><td>17</td><td>23</td></tr> <tr><td>契約額</td><td>78,259</td><td>64,062</td><td>101,428</td><td>42,504</td><td>27,994</td><td>58,794</td></tr> <tr><td>こころ</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>契約額</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr> <tr><td>こども</td><td>26</td><td>15</td><td>26</td><td>35</td><td>23</td><td>37</td></tr> <tr><td>契約額</td><td>19,656</td><td>5,087</td><td>14,018</td><td>29,479</td><td>12,041</td><td>20,531</td></tr> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	件数	30	29	24	17	17	23	契約額	78,259	64,062	101,428	42,504	27,994	58,794	こころ	0	0	0	0	0	0	契約額	0	0	0	0	0	0	こども	26	15	26	35	23	37	契約額	19,656	5,087	14,018	29,479	12,041	20,531	令和3年度も、製薬会社等からの依頼を受け、新薬開発に係る治験を行った。 治験が終了し市販に至った薬品があり、新薬提供の一助となっている。市販薬の市販後調査を適正に実施し、安心安全な医療に寄与している。	・医薬品受託研究については、総合病院・こども病院ともに、件数及び契約額は令和2年度実績を上回っている。 ・総合病院の研究支援室は、新しい治療法や新薬の開発に向けた臨床試験や治験を安全かつ科学的に実施できるよう支援している。																																																																																																																													
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																															
件数	30	29	24	17	17	23																																																																																																																																																																															
契約額	78,259	64,062	101,428	42,504	27,994	58,794																																																																																																																																																																															
こころ	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																															
契約額	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																															
こども	26	15	26	35	23	37																																																																																																																																																																															
契約額	19,656	5,087	14,018	29,479	12,041	20,531																																																																																																																																																																															

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																					
						説明																										
(2) 診療等の情報の活用 診療等を通じて得られる情報を県立病院で提供する医療の質の向上のために活用するとともに、他の医療機関へ情報提供すること。	(2) 診療等の情報の活用 診療録等医療情報の電子化や管理機能の充実を図り、科学的根拠を集積・分析し、カンファレンス、臨床研修、臨床研究等において活用し、医療の質の向上を図る。また、学会、講習会、研究会等へ情報発信しやすい体制を整備する。	(2) 診療等の情報の活用 ①診療情報等の分析の活用できるシステムの活用	-	-	-	-	-																									
			79	①DPCの診療情報に基づく症例分析を行う。	<p>総合</p> <p>D P C コーディング部会開催実績 (単位：回、人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催回数</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>出席者数</td> <td>32</td> <td>55</td> <td>37</td> <td>25</td> <td>33</td> <td>27</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	開催回数	4	6	4	4	4	4	出席者数	32	55	37	25	33	27	A	<p>DPCデータの分析結果を元に、医局会においてDPC入院期間Ⅱ以内の退院状況や副傷病名の付与率等を報告するとともに、DPCコーディング部会における議論等により平均在院日数の短縮やDPCコーディングの適正化に努めている。</p>			23	○
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																										
開催回数	4	6	4	4	4	4																										
出席者数	32	55	37	25	33	27																										
			80	①DPCの診療情報を分析し、診療へフィードバックを行う。また、職員の分析にかかるスキルアップに努める。	<p>こども</p> <p>D P C データの分析結果を診療へ活かすとともに適切なコーディングを周知するため、D P C 部会兼コード検討委員会を開催した。</p> <p>D P C 部会兼コード検討委員会開催実績 (単位：回、人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催回数</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>出席者数</td> <td>54</td> <td>53</td> <td>49</td> <td>49</td> <td>58</td> <td>40</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	開催回数	4	4	4	4	4	4	出席者数	54	53	49	49	58	40	A	<p>早期のデータ入力を継続して促し適切なコーディングを行うことで診療報酬を漏れなく請求することができている。</p> <p>原価計算システムの運用については、医事システムに入っている経営分析に与するシステムとともに経営分析に効率的に反映できるよう、院内経営戦略会議にて活用方法を調整している。</p>			23	○
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																										
開催回数	4	4	4	4	4	4																										
出席者数	54	53	49	49	58	40																										

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																									
						説明																																														
			84	⑤専攻医を受け入れる体制を整備し、専攻医の募集を行う。	<p>(総合)</p> <p>令和3年4月、21名が専門研修プログラムに所属し、研修を開始した。新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、当院ホームページにプログラム説明動画を公開のうえ専門研修プログラムの魅力を発信した。また、オンライン会議システムを利用し、面談を行うなど専攻医確保に努めている。</p> <p>(こども)</p> <p>令和3年度は、4人の専攻医を受け入れ、病院見学では22人を受け入れるなど、専攻医の確保に努めている。平成29年度から新制度に準じて実施された小児科専門医制度の基幹研修施設として、新制度に則った研修を実施している。</p>	A	<p>(総合)</p> <p>19領域中10領域の専攻医確保に向けてホームページにプログラム説明動画を公開し、プログラムの魅力が伝わるような募集を行っている。また、オンライン会議システムを利用し、面談を行うなど専攻医確保に努めている。</p> <p>(こども)</p> <p>令和3年度は、4人の専攻医を受け入れ、病院見学では22人を受け入れるなど、専攻医の確保に努めた。</p> <p>(こども)</p> <p>小児科専攻医研修の基幹研修施設として、県中東部の連携施設10病院と作成した日本小児科学会の承認を受けたプログラムをもとに指導を行っている。今後も継続してプログラムの周知等を行い、専攻医の確保に努めていく。</p>	<p>・新専門医制度の開始以降、各病院で研修プログラムを作成し受入体制を整備するとともに、院内外研修医・学生に向けたプログラム説明会の開催や、首都圏等のレジナビへの参加、PR動画の作成など、積極的なPR活動を通じて、専攻医の確保に努めている。</p> <p>・令和3年度は、総合病院は9プログラムの定員51人に対し21人の採用、こどもの医療センターは1プログラムの定員6人に対し4人の採用、こども病院は1プログラムの定員8人に対し3人の採用となっており、いずれも定員には満たないが、制度開始初年度以降、増加傾向である。</p> <p>・各病院の研修プログラムにおいては、充実した医療施設・設備のもと、専門医・指導医による指導体制を構築するとともに、他診療科とのチーム医療も研修できるよう配慮するなど、充実を図っている。</p> <p>・大都市圏への専攻医の集中は制度的な要因も大きく、今後、シーリング(募集定員の上限)による地方への専攻医の分散等の影響も見据え、地域の連携病院との協力のもと、専攻医にとって魅力的な指導体制と研修プログラムを確保し、積極的な採用活動のもと、地域医療にも貢献する専攻医を安定的に確保できるよう努めることが期待される。</p>	25	○																																										
			85	⑥地域の医療機関向けにCT・MRIの地域支援検査枠を増設し、共同利用件数の向上を図る。	<p>地域における医療機器の効率的な活用のため、CT・MRIの共同利用に取り組んでおり、地域医療の支援に貢献している。市内他施設における機器整備が進んだ影響により、共同利用件数は減少していたが、令和2年度を底に持ち直している。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="7">C T、M R I 共同利用 (単位：件)</th> </tr> <tr> <th>区 分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>C T</td> <td>919</td> <td>847</td> <td>896</td> <td>881</td> <td>659</td> <td>722</td> </tr> <tr> <td>M R I</td> <td>621</td> <td>543</td> <td>586</td> <td>595</td> <td>472</td> <td>517</td> </tr> <tr> <td>CT(撮影のみ)</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>MRI(撮影のみ)</td> <td>129</td> <td>131</td> <td>24</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	C T、M R I 共同利用 (単位：件)							区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	C T	919	847	896	881	659	722	M R I	621	543	586	595	472	517	CT(撮影のみ)	6	2	1	0	0	0	MRI(撮影のみ)	129	131	24	1	0	0	A	<p>令和3年度のCT・MRI共同利用件数は、桜ヶ丘病院と今年度改めて協定を締結し、結果として、令和2年度を上回る利用実績となった。</p>	<p>・CT・MRIの共同利用件数は市内他病院の機器整備が進んだ影響により減少していたが、令和3年度は桜ヶ丘病院との協定締結等の影響により令和2年度を上回る実績であり、地域医療を支援する役割を果たしている。</p>		
C T、M R I 共同利用 (単位：件)																																																				
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																														
C T	919	847	896	881	659	722																																														
M R I	621	543	586	595	472	517																																														
CT(撮影のみ)	6	2	1	0	0	0																																														
MRI(撮影のみ)	129	131	24	1	0	0																																														
			86	⑦ふじのくにねっとを活用し、地域の病院・診療所・調剤薬局・訪問看護ステーションとの連携を強化する。 ・ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル協議会の運営を維持する。	<p>地域医療連携推進事業費補助金を活用し、ふじのくにねっと参加施設の新規システム構築及び機器更新を実施している。</p> <p>また、令和2年3月からは、地域医療情報連携ネットワークにおける同意取得方法に関する厚生労働省通知を受け、患者への参加同意取得手続等の運用の見直しを進め、令和3年度についても、ふじのくにねっと参加施設の利便性に貢献した。</p>	A	<p>令和3年度は、補助金を活用し、2病院の新規システム構築及び更新を進めた。</p> <p>また、ネットワーク全体で病病・病診連携における積極開示をルール化することを理事会で方針として採択し、先進事例の共有等の取組を推進している。</p>	<p>・「ふじのくにねっと」とは、ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル協議会(事務局：県立総合病院)において、県内各医療施設間で患者・診療情報を共有するためのICTネットワーク基盤を構築し、病診連携・病病連携を始め、薬局や訪問看護等の関連施設との情報共有の利便性向上と効率化・迅速化を図り医療提供体制を強化するものである。県は平成28年度からシステム整備費用を補助金として助成している。</p> <p>・協議会事務局である総合病院においては、県内各医療圏の地域性や医療機関の特性に幅広く対応する地域医療情報連携ネットワークの効果的な運用体制を引き続き確保するとともに、参画医療機関に対する適切な運用支援等が期待される。</p>																																												
			87	⑦国内外の医療機関との映像情報システムを用い、カンファレンス等を実施する。	<p>小児医療ネットワークを通じて、浜松医科大学等との合同カンファレンスやマレーシア国立循環器病センター (IJN)との接続試験を兼ねた症例検討会を定期的実施している。他医療機関(4施設)と連携し、例年心エコー画像遠隔診断を実施しているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により症例数が減少し、実施できていなかったが、令和3年度は再開した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="7">心エコー画像遠隔診断実績 (単位：件)</th> </tr> <tr> <th>区 分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>症例数</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>	心エコー画像遠隔診断実績 (単位：件)							区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	症例数	5	7	5	3	0	2	A	<p>小児循環器科専門医研修施設として、浜松医科大学等との映像情報を通じたカンファレンスを定期的実施した。また、令和3年度、患者の受入はなかったが、マレーシア国立循環器病センターともカンファレンスは定期的実施している。</p> <p>また、例年実施している沼津市立病院など4医療機関との心エコー画像遠隔診断について、令和3年度、実施を再開しており、医療機関からの相談については、引き続き映像情報を活用して応じている。</p>	<p>・心エコー遠隔診断については、順天堂静岡病院、富士宮市立病院、沼津市立病院、藤枝市立総合病院を連携機関として実施しており、令和2年度は対象症例がなかったが令和3年度は令和元年度並に実施した。また、各医療機関からの相談に応じるなど、ICT技術を通じて、こども病院における高度専門医療技術・知見の地域等への還元にも努めている。</p>																							
心エコー画像遠隔診断実績 (単位：件)																																																				
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																														
症例数	5	7	5	3	0	2																																														

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																												
						説明																																																																	
(2) 社会的な要請への協力及び知識や技術の普及 鑑定、調査、講師派遣など社会的な要請に対し、県立病院が有する人材や知見を積極的に提供し、県内の医療従事者の養成に貢献すること。	(2) 社会的な要請への協力及び知識や技術の普及 公的機関からの医療に係る鑑定や調査、講師派遣等の社会的な要請に対し、引き続き柔軟に対応していくほか、医療従事者が他の機関・団体における研修や研究等の活動に参加しやすい体制づくりに取り組む。また、院内研修等の教育研修を県内の医療従事者へ積極的に開放していく。	(2) 社会的な要請への協力及び知識や技術の普及 ①公的機関からの医療に係る鑑定や調査、講師派遣等の社会的な要請への対応 ②学会や研究会等へ積極的に参加できる仕組みづくり ③認定看護師等の資格保有者の活用 ④県内の医療従事者への教育研修機能の開放	—	—	—	—	—																																																																
			88	総合	①院内外の研修会等を定期的に開催し、地域の医療機関へ情報提供する。 拡大がんセンターボード実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>6回</td> <td>6回</td> <td>6回</td> <td>5回</td> <td>3回</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">参加人数</td> <td>院内</td> <td>160</td> <td>153</td> <td>194</td> <td>178</td> <td>78</td> </tr> <tr> <td>院外</td> <td>172</td> <td>128</td> <td>162</td> <td>108</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>332</td> <td>281</td> <td>356</td> <td>286</td> <td>114</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	回数	6回	6回	6回	5回	3回	2回	参加人数	院内	160	153	194	178	78	院外	172	128	162	108	36	合計	332	281	356	286	114	B	がん診療部主催の拡大がんセンターボード(多職種カンファレンス)では、がん症例の診断や治療方法等について、院内外の多職種による包括的な議論が行われている。 令和3年度も、新型コロナウイルス感染症を考慮し、開催回数及び参加人数を制限して開催した。																															
			区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																														
			回数	6回	6回	6回	5回	3回	2回																																																														
			参加人数	院内	160	153	194	178	78																																																														
院外	172	128		162	108	36																																																																	
合計	332	281		356	286	114																																																																	
89	総合	①他団体の講師派遣依頼に協力する。 講師派遣実績 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師</td> <td>62</td> <td>51</td> <td>43</td> <td>56</td> <td>58</td> <td>43</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>4</td> <td>31</td> <td>40</td> <td>38</td> <td>34</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>66</td> <td>82</td> <td>83</td> <td>94</td> <td>92</td> <td>64</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	医師	62	51	43	56	58	43	その他	4	31	40	38	34	21	計	66	82	83	94	92	64	A	他団体等が主催する講演会の講師として、医師や認定看護師を派遣しており、令和3年度は、令和2年度実績をやや下回ったが、積極的に実施した。																																							
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																	
医師	62	51	43	56	58	43																																																																	
その他	4	31	40	38	34	21																																																																	
計	66	82	83	94	92	64																																																																	
90	こころ	①②他団体等が主催する講習会、研究会、学会への講師派遣を推進する。 院外講演会講師派遣状況(医師) (単位:回) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>派遣回数</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>21</td> <td>22</td> <td>4</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table> 院外講演会講師派遣状況(看護師) (単位:回) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>派遣回数</td> <td>32</td> <td>28</td> <td>26</td> <td>33</td> <td>17</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	派遣回数	18	18	21	22	4	9	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	派遣回数	32	28	26	33	17	30	A	新型コロナウイルス感染症の影響もある中で、WEBを活用しつつ、他団体等が主催する講演会の講師やアドバイザーとして医師や看護師を派遣する等、積極的に地域支援を行い、前年度より派遣回数が増加した。																																							
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																	
派遣回数	18	18	21	22	4	9																																																																	
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																	
派遣回数	32	28	26	33	17	30																																																																	
91	こころ	①医療にかかる鑑定等の要請への協力など積極的に対応する。 医療観察法による鑑定入院受入実績 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こころ</td> <td>9</td> <td>12</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>10</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	こころ	9	12	4	5	10	8	A	令和3年度は医療観察法に係る鑑定について8件の受入を行った。	26		○																																																		
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																	
こころ	9	12	4	5	10	8																																																																	
92	こども	①特別支援学校や児童相談所など教育機関や福祉機関との連携を強化するため、講座や相談会などを継続的に開催する。 精神保健講座等開催実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">28年度</th> <th colspan="2">29年度</th> <th colspan="2">30年度</th> <th colspan="2">元年度</th> <th colspan="2">2年度</th> <th colspan="2">3年度</th> </tr> <tr> <th>精神保健</th> <th>児童養護</th> <th>精神保健</th> <th>児童養護</th> <th>精神保健</th> <th>児童養護</th> <th>精神保健</th> <th>児童養護</th> <th>精神保健</th> <th>児童養護</th> <th>精神保健</th> <th>児童養護</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>対象</td> <td>県内小中</td> <td>こども</td> <td>県内小中</td> <td>こども</td> <td>県内小中</td> <td>こども</td> <td>県内小中</td> <td>こども</td> <td>県内小中</td> <td>こども</td> <td>県内小中</td> <td>こども</td> </tr> <tr> <td>参加者数等</td> <td>5回</td> <td>10回</td> <td>5回</td> <td>11回</td> <td>5回</td> <td>10回</td> <td>5回</td> <td>11回</td> <td>2回</td> <td>11回</td> <td>4回</td> <td>10回</td> </tr> <tr> <td></td> <td>135人</td> <td>10施設</td> <td>156人</td> <td>11施設</td> <td>159人</td> <td>10施設</td> <td>96人</td> <td>11施設</td> <td>49人</td> <td>11施設</td> <td>140人</td> <td>10施設</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度		29年度		30年度		元年度		2年度		3年度		精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	対象	県内小中	こども	県内小中	こども	県内小中	こども	県内小中	こども	県内小中	こども	県内小中	こども	参加者数等	5回	10回	5回	11回	5回	10回	5回	11回	2回	11回	4回	10回		135人	10施設	156人	11施設	159人	10施設	96人	11施設	49人	11施設	140人	10施設	A	教師を対象とした精神保健講座や児童養護施設の巡回相談を継続的にを行い、学校・地域との連携強化を図っている。			
区分	28年度			29年度		30年度		元年度		2年度		3年度																																																											
	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護																																																											
対象	県内小中	こども	県内小中	こども	県内小中	こども	県内小中	こども	県内小中	こども	県内小中	こども																																																											
参加者数等	5回	10回	5回	11回	5回	10回	5回	11回	2回	11回	4回	10回																																																											
	135人	10施設	156人	11施設	159人	10施設	96人	11施設	49人	11施設	140人	10施設																																																											

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																																																																																																																																	
						説明																																																																																																																																																																						
			93	①小児慢性特定疾患治療研究事業や障害者総合支援法、児童福祉法、精神保健福祉法等の公費負担医療を実施する。	<p>公費負担患者状況 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小児慢性</td> <td>1,891</td> <td>1,842</td> <td>1,837</td> <td>1,771</td> <td>1,691</td> <td>1,674</td> </tr> <tr> <td>育成医療</td> <td>722</td> <td>471</td> <td>114</td> <td>55</td> <td>36</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>養育医療</td> <td>240</td> <td>164</td> <td>189</td> <td>182</td> <td>190</td> <td>195</td> </tr> <tr> <td>特定疾患</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>生活保護</td> <td>138</td> <td>115</td> <td>88</td> <td>100</td> <td>92</td> <td>115</td> </tr> <tr> <td>生活保護</td> <td>181</td> <td>176</td> <td>182</td> <td>182</td> <td>181</td> <td>188</td> </tr> <tr> <td>精神保健</td> <td>102</td> <td>83</td> <td>89</td> <td>69</td> <td>52</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>111</td> <td>119</td> <td>143</td> <td>146</td> <td>204</td> <td>751</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3,391</td> <td>2,975</td> <td>2,645</td> <td>2,512</td> <td>2,452</td> <td>3,002</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	小児慢性	1,891	1,842	1,837	1,771	1,691	1,674	育成医療	722	471	114	55	36	20	養育医療	240	164	189	182	190	195	特定疾患	6	5	3	7	6	9	生活保護	138	115	88	100	92	115	生活保護	181	176	182	182	181	188	精神保健	102	83	89	69	52	50	その他	111	119	143	146	204	751	計	3,391	2,975	2,645	2,512	2,452	3,002	A	<p>公費負担医療を提供するためには、本人による申請が必要となることから、証明書・診断書の発行など公費適用患者の利便性を重視して対応している。</p>	<p>・医療費助成制度(公費負担)においては、患者が自己負担額の助成を受けるため、医療機関受診後に自治体に対して申請を要する。 ・患者家族の手続き上の負担や心情に配慮し、パンフレット等を用いて丁寧な対応を行っている。</p>																																																																																														
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																						
小児慢性	1,891	1,842	1,837	1,771	1,691	1,674																																																																																																																																																																						
育成医療	722	471	114	55	36	20																																																																																																																																																																						
養育医療	240	164	189	182	190	195																																																																																																																																																																						
特定疾患	6	5	3	7	6	9																																																																																																																																																																						
生活保護	138	115	88	100	92	115																																																																																																																																																																						
生活保護	181	176	182	182	181	188																																																																																																																																																																						
精神保健	102	83	89	69	52	50																																																																																																																																																																						
その他	111	119	143	146	204	751																																																																																																																																																																						
計	3,391	2,975	2,645	2,512	2,452	3,002																																																																																																																																																																						
			94	①研究費や研究旅費等の予算化等により学会や研修会等への参加がしやすい体制を維持する。	<p>(総合) 海外研修の実績(3年度) (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内 容</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>11th CONGRESS OF THE VASCULAR ACCESS SOCIETY</td><td>2</td></tr> <tr><td>AATS 99th Annual Meeting</td><td>2</td></tr> <tr><td>米国胸部疾患学会2019国際会議</td><td>3</td></tr> <tr><td>Jung Conference in Wroclaw 2019</td><td>1</td></tr> <tr><td>24th World Congress of Dermatology Milan 2019</td><td>1</td></tr> <tr><td>SSAI 2019</td><td>3</td></tr> <tr><td>第31回欧州病理学会</td><td>1</td></tr> <tr><td>欧州呼吸器学会国際会議2019</td><td>3</td></tr> <tr><td>5th Congress of the European Society of Sexual Medicine</td><td>2</td></tr> <tr><td>第28回ヨーロッパ皮膚科学・性病学会学術大会</td><td>1</td></tr> <tr><td>ヨーロッパ救急医学会</td><td>1</td></tr> <tr><td>第21年次会議2019</td><td>3</td></tr> <tr><td>37th WORLD CONGRESS OF ENDOUROLOGY</td><td>2</td></tr> <tr><td>American Pancreatic Association</td><td>3</td></tr> <tr><td>ANS Kidney Week 2019</td><td>2</td></tr> <tr><td>アジア太平洋呼吸器学会国際会議2019</td><td>2</td></tr> <tr><td>EuroEcho 2019</td><td>2</td></tr> <tr><td>ASCVT2020</td><td>2</td></tr> <tr><td>第109回 USCAP2020</td><td>1</td></tr> <tr><td>臨床研修医UCLA研修</td><td>18</td></tr> <tr><td>令3</td><td>実績なし</td></tr> <tr><td>令3</td><td>実績なし</td></tr> <tr><td>計</td><td>32</td></tr> </tbody> </table> <p>学会発表実績(国内外) (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>578</td> <td>600</td> <td>596</td> <td>547</td> <td>51</td> <td>102</td> </tr> </tbody> </table> <p>(こころ) 学会発表実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>12</td> <td>4</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> <p>(こども) 学会発表実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>496</td> <td>596</td> <td>414</td> <td>448</td> <td>141</td> <td>245</td> </tr> </tbody> </table>	内 容	人数	11th CONGRESS OF THE VASCULAR ACCESS SOCIETY	2	AATS 99th Annual Meeting	2	米国胸部疾患学会2019国際会議	3	Jung Conference in Wroclaw 2019	1	24th World Congress of Dermatology Milan 2019	1	SSAI 2019	3	第31回欧州病理学会	1	欧州呼吸器学会国際会議2019	3	5th Congress of the European Society of Sexual Medicine	2	第28回ヨーロッパ皮膚科学・性病学会学術大会	1	ヨーロッパ救急医学会	1	第21年次会議2019	3	37th WORLD CONGRESS OF ENDOUROLOGY	2	American Pancreatic Association	3	ANS Kidney Week 2019	2	アジア太平洋呼吸器学会国際会議2019	2	EuroEcho 2019	2	ASCVT2020	2	第109回 USCAP2020	1	臨床研修医UCLA研修	18	令3	実績なし	令3	実績なし	計	32	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	件数	578	600	596	547	51	102	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	件数	10	10	10	12	4	6	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	件数	496	596	414	448	141	245	B	<p>医師や研修医をはじめとする医療スタッフが研究費や研究旅費等の予算化等により国内外の学会や研修会等へ参加できる体制を確保している。令和3年度については、令和2年度に続き新型コロナウイルス感染症の拡大によりWeb開催には対応しているものの、学会の中止等により参加機会が減少している。 医師や研修医などの医療スタッフが国内外の学会や研修会等へ参加できる体制を引き続き確保していく。</p>	<p>・全国水準を上回る研究研修費を確保することにより、新技術・知識習得のための各種研修会・講習会への参加、情報収集のための各種図書購入等を推進している。 ・研修会等の参加者が得た知識をもとに、院内・院外の研修で講師を務めて研修成果の伝達を行うなど工夫している。 ・新型コロナウイルスの影響で学会等の開催数が減少しているため、学会発表実績の減少はやむを得ないが、引き続き学会や研修会等への参加がしやすい体制を維持していくことが期待される。</p>																																																																										
内 容	人数																																																																																																																																																																											
11th CONGRESS OF THE VASCULAR ACCESS SOCIETY	2																																																																																																																																																																											
AATS 99th Annual Meeting	2																																																																																																																																																																											
米国胸部疾患学会2019国際会議	3																																																																																																																																																																											
Jung Conference in Wroclaw 2019	1																																																																																																																																																																											
24th World Congress of Dermatology Milan 2019	1																																																																																																																																																																											
SSAI 2019	3																																																																																																																																																																											
第31回欧州病理学会	1																																																																																																																																																																											
欧州呼吸器学会国際会議2019	3																																																																																																																																																																											
5th Congress of the European Society of Sexual Medicine	2																																																																																																																																																																											
第28回ヨーロッパ皮膚科学・性病学会学術大会	1																																																																																																																																																																											
ヨーロッパ救急医学会	1																																																																																																																																																																											
第21年次会議2019	3																																																																																																																																																																											
37th WORLD CONGRESS OF ENDOUROLOGY	2																																																																																																																																																																											
American Pancreatic Association	3																																																																																																																																																																											
ANS Kidney Week 2019	2																																																																																																																																																																											
アジア太平洋呼吸器学会国際会議2019	2																																																																																																																																																																											
EuroEcho 2019	2																																																																																																																																																																											
ASCVT2020	2																																																																																																																																																																											
第109回 USCAP2020	1																																																																																																																																																																											
臨床研修医UCLA研修	18																																																																																																																																																																											
令3	実績なし																																																																																																																																																																											
令3	実績なし																																																																																																																																																																											
計	32																																																																																																																																																																											
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																						
件数	578	600	596	547	51	102																																																																																																																																																																						
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																						
件数	10	10	10	12	4	6																																																																																																																																																																						
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																						
件数	496	596	414	448	141	245																																																																																																																																																																						
			95	③院内における資格取得を支援し、活用を促進する。	<p>資格等取得助成制度利用者 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>27</td> <td>8</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>9</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>38</td> <td>20</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>10</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>8</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>30</td> <td>3</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>30</td> <td>4</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>57</td> <td>11</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>12</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>4</td> <td>9</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>68</td> <td>24</td> <td>11</td> <td>18</td> <td>13</td> <td>16</td> </tr> </tbody> </table>		28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	総合							看護師	27	8	0	0	9	10	コメディカル	11	12	0	0	1	1	事務	0	0	0	0	0	2	計	38	20	0	0	10	13	こころ							看護師	0	0	0	2	1	1	コメディカル	0	0	0	5	0	0	事務	0	0	0	1	0	0	計	0	0	0	8	1	1	こども							看護師	30	3	7	6	2	2	コメディカル	0	0	4	4	0	0	事務	0	1	0	0	0	0	計	30	4	11	10	2	2	本部							事務	0	0	0	0	0	0	計							看護師	57	11	7	8	12	13	コメディカル	11	12	4	9	1	1	事務	0	1	0	1	0	2	計	68	24	11	18	13	16	A	<p>平成24年度以降、資格等取得助成制度により資格取得を支援している。これまで、毎年度一定数の利用者があり、令和3年度については16人が利用し、意欲ある職員の資質向上に資することが出来た。</p>	<p>・資格等助成制度は、看護師、コメディカル、事務職員が、診療情報管理士資格等の新たな免許・資格等の積極的取得促進のために、原則として3万円を上限として、支給する助成金である。 ・職員の資格取得の動機付けとなっていると考えられ、専門的知識を有する職員の育成と能力を発揮できるよう、緩和ケアやがん看護の認定看護師をがん相談センターに配置するなど、資格の特性が人事配置にあたって考慮されている。</p>			
	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																																																						
総合																																																																																																																																																																												
看護師	27	8	0	0	9	10																																																																																																																																																																						
コメディカル	11	12	0	0	1	1																																																																																																																																																																						
事務	0	0	0	0	0	2																																																																																																																																																																						
計	38	20	0	0	10	13																																																																																																																																																																						
こころ																																																																																																																																																																												
看護師	0	0	0	2	1	1																																																																																																																																																																						
コメディカル	0	0	0	5	0	0																																																																																																																																																																						
事務	0	0	0	1	0	0																																																																																																																																																																						
計	0	0	0	8	1	1																																																																																																																																																																						
こども																																																																																																																																																																												
看護師	30	3	7	6	2	2																																																																																																																																																																						
コメディカル	0	0	4	4	0	0																																																																																																																																																																						
事務	0	1	0	0	0	0																																																																																																																																																																						
計	30	4	11	10	2	2																																																																																																																																																																						
本部																																																																																																																																																																												
事務	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																						
計																																																																																																																																																																												
看護師	57	11	7	8	12	13																																																																																																																																																																						
コメディカル	11	12	4	9	1	1																																																																																																																																																																						
事務	0	1	0	1	0	2																																																																																																																																																																						
計	68	24	11	18	13	16																																																																																																																																																																						

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価	
						説明						
(3) 県民への情報提供の充実 公開講座や医療相談の開催、ホームページの活用などを通じて県民へ情報発信し、県民の健康意識の高揚に努めること。	(3) 県民への情報提供の充実 定期的に公開講座、医療相談会等を開催し、ホームページ等で健康管理・増進などについての情報を提供するなど、様々な方法で県民への情報提供を進め県民の健康意識の高揚や健康に関する知識の充実に努める。 【目標値】 ・公開講座件数(総合、こころ、こども)	(3) 県民への情報提供の充実 ①定期的な公開講座、医療相談会等の開催 ②ホームページ等による健康管理・増進などについての情報提供 ③報道機関等への情報発信	96	①県民向け・医療機関向けの公開講座等を開催する。	各病院、特色を活かした公開講座等を企画、開催した。 (単位:件、人) 公開講座 病院 区分 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度 3目標 総合 県民向け 表施件数 4 10 6 9 3 5 10 参加者 495 712 524 349 125 104 - 医療機関 表施件数 29 27 21 27 10 9 27 向け 参加者 1,765 1,691 1,193 1,441 371 379 - こころ 県民向け 表施件数 2 2 2 2 0 0 2 参加者 6 8 28 21 0 0 - 医療機関 表施件数 3 5 3 8 3 0 5 向け 参加者 81 485 88 115 20 0 - こども 県民向け 表施件数 2 3 3 6 1 3 5 参加者 116 149 195 188 20 127 - 医療機関 表施件数 15 17 13 6 10 15 20 向け 参加者 906 799 698 218 422 721 - きこえとことばのセンター主催研修会等の開催件数 (単位:件) 区分 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度 件数 - 7 8 5 32 33	B	総合病院では、外部向け講座としてがん医療公開講座を開催している。また、きこえとことばのセンターでは難聴児の早期発見、早期介入を目的に、地域の医療従事者や行政担当者による研修会等を実施している。ただし、令和3年度も、新型コロナウイルス感染症の影響によりきこえとことばのセンターの公開講座を除いて実施件数は目標値を下回った。 また、難聴者・人工内耳装着者の音声・言語認知の共同研究に関する協定の締結などの取組みについてプレスリリースを掲載し、情報発信した。 こころの医療センターでこころの医療においては、院内での新型コロナウイルス感染症の感染予防を優先していることもあり、令和3年度についてはボランティア研修会の開催が中止となった。	・アンケートで要望の多かったテーマを企画するなど、県民のニーズに柔軟に対応している。 ・令和3年度は新型コロナウイルス感染症対策として開催を中止したのもあり、目標値を下回った。公開講座等の開催については、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、開催方法を工夫していく必要がある。 ・きこえとことばのセンターにおいては、令和2年度に引き続き多くの研修会を実施し、難聴児への支援が拡充されている。				
					①【総/子】・県民向けイベントの開催や参加に努める。 (単位:人) オープンホスピタル来場者数 区分 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度 来場者数 1,200 1,400 1,200 1,200 - - (こども) 例年、(株)静岡新聞社、静岡放送(株)が主催の「こどもみらいプロジェクト秋まつり inツインメッセ」に参加し、健康相談及びこども用の医師・ナース服の着用体験のブースを出展しているが、令和2・3年度はコロナ禍の状況を鑑み不参加となった。 こどもみらいプロジェクト来場者数 (単位:人) 区分 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度 健康相談 17 22 10 3 0 0 写真撮影 1,288 957 1,064 792 0 0 ※例年2日間開催されるが、令和元年度は台風の影響により、1日のみの開催	-	オープンホスピタルの開催などにより、県民の健康意識の高揚や健康に関する知識の充実につなげてきたが、令和2年度及び3年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により開催を見送った。 開催を見送っていることで、適正な評価が困難であることから、未評価とする。 ただし、人数を制限した公開講座(No.96)等は、縮小して開催しており、県民への情報提供は継続している。 また、「病院だより」等、健康情報が記載されている冊子をホームページに掲載しており、健康に関する知識の充実につなげている。	・総合病院のオープンホスピタルは、充実した内容により、来場者数は例年1,000人を超える高い水準にある。 ・こども病院は継続してこどもみらいプロジェクトに出展しており、健康相談や医師・看護師の服の着用体験の体験者数も多く好評を得ている。 ・令和2・3年度は新型コロナウイルスの影響により、それぞれ開催中止・未参加という対応になり、やむを得ないものであるが、一部の公開講座は人数を制限して開催するなど、県民への情報提供を継続して行っている。今後も新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、開催方法を工夫していく必要がある。				
					②県民及び他の医療機関従事者に、県立病院機構の有する医療情報等を積極的に提供するため、機構ホームページを適時、的確に更新する。	各病院(企画)	機構全体のトピックスやプレスリリース、各病院の感染症対策情報等を迅速に更新し、積極的に情報発信を行った。 (単位:件) セクション別アクセス件数 区分 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度 本部 214,412 218,435 226,519 232,673 246,234 234,744 総合 1,864,780 2,017,729 2,322,348 2,902,755 2,751,715 2,542,438 こころ 269,084 275,298 376,258 662,762 659,939 674,386 こども 1,452,729 1,551,263 1,690,943 1,772,069 1,800,380 1,810,951 合計 3,801,005 4,062,725 4,616,068 5,570,259 5,458,268 5,262,519	A	総合病院では、診療内容やイベント開催等の基本的な情報を始め、感染症に関する突発的な情報等を閲覧者に対して丁寧かつ迅速に伝えるため、ホームページを積極的に活用している。 こころの医療センターでは、新型コロナウイルス感染症防止のための当院の取組についてスピード感を持って情報提供を行った。また、7月に発生した熱海土石流災害における当院のDPAT活動についてもホームページに掲載し、当院の業務活動の広報に努めた。	・機構ホームページにおいては、最新情報が随時更新され、アクセス件数も増加傾向にある。 ・検査結果の見方や薬に関する知識、診療科紹介等のページへのアクセスが多く、医療について県民が必要とする情報が適切に提供されている。 ・各病院における感染症対策の情報等も随時更新し、積極的な情報発信に努めている。 ・今後も迅速かつ正確な情報提供に努めるとともに、県民、採用希望者、医療従事者等、閲覧者の特性に応じ、わかりやすい内容・構成等への配慮が期待される。		
③県民に病院の運営にかかる情報を戦略的に広報するため、報道機関向けの情報発信の推進を図る。	各病院(企画)	最先端医療への取組や各病院で開催する県民向けの公開講座、各種イベントなどについて、積極的に情報提供を行い、情報発信の推進を図った。平成28年度から各病院でのプレスリリース実績を共有ファイルで管理するようにし、各病院の実績の把握及び機構全体での情報共有を図った。 (単位:件) 記者情報提供件数 区分 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度 提供件数 48 47 43 36 19 29 掲載件数 31 36 30 24 13 20 ※提供件数1件に対し、掲載件数が複数あった場合も掲載件数1件とカウントする	A	提供件数は高い水準を保っているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、イベント等を中止するなど令和元年前と比較すると減少している。引き続き、継続して取り組みを強化していく。	・県政記者クラブへの情報提供は、イベント開催告知にとどまらず、令和3年度はNTTコミュニケーション科学基礎研究所との協定締結や、科学雑誌への研究論文の掲載など、病院機構が提供する高度・専門医療に対して県民の理解や共感を得るための効果的・効率的な発信ツールとなっている。 ・報道機関や一般の県民にとって理解が難しい医療に関する専門用語や複雑な医療制度等については、わかりやすさに配慮した情報発信が期待される。							

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																																																										
						説明																																																																																															
			106	⑩月次決算の集計等により、病院の経営状況の早期把握を図る。	<p>理事会等における月次決算の報告回数 (単位:回)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>回数</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	実績	9	6	6	6	10	10	回数							A	令和3年度は、理事会開催の度に月次決算の報告を実施し、病院の経営状況の早期把握及び機構内の情報共有を円滑に行うことができた。																																																																									
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																															
実績	9	6	6	6	10	10																																																																																															
回数																																																																																																					
			107	⑩⑪毎月の理事会や病院幹部会議において、経営状況を報告・分析するとともに、それらの経営状況の職員への周知を図る。 ⑩機構の直近の経営状況を職員(特に病院の幹部職員、県からの新しい派遣職員や新規採用職員)に認識させるため、会議や研修、広報誌等を通じて周知徹底する。	<p>理事会や運営会議において、毎月の月次決算により経営状況を分析し、報告を行っている。また、3病院合同幹部会議において各病院の幹部職員に定期的に報告し、周知を図っている。職員研修などにおいて、病院経営や効率的な業務運営に関する取組等の科目を設け、意識の醸成を図った。</p> <p>院内コミュニケーションシステムや職員報(トライアングル等)を通じて、理事会資料等の経営情報を全職員に向け提供し、意識醸成を図っている。上記取組みを継続して行い、経営情報の把握や適時適切な措置を講じられる体制整備を図っている。</p>	A	月次決算等により、経営状況の報告・分析を着実に進めている。 また、会議や職員報を通じた経営分析結果の職員への周知、理事長、副理事長自らによる研修等により、職員の経営に対する意識啓発を図っている。 令和3年度は、コロナ禍による診療収益の減と、補助金の見込額を随時把握し、月次決算報告に反映させた。																																																																																														
			108	⑫院内コミュニケーションシステムを活用するなどして、職員が経営・業務改善を常時提案できる体制を整備する。	<p>業務改善について、院内コミュニケーションシステム等を利用して、誰もが経営・業務改善を常時提案できる体制の整備に努めた。また、他職員の改善提案を確認できるよう仕組みを整備している。</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="8">業務改善運動推進制度実績件数 (単位:件)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>3目標</th> </tr> <tr> <td>総合</td> <td>43</td> <td>80</td> <td>72</td> <td>113</td> <td>27</td> <td>164</td> <td>80件以上</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>36</td> <td>29</td> <td>24</td> <td>32</td> <td>4</td> <td>53</td> <td>36件以上</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>71</td> <td>50</td> <td>34</td> <td>50</td> <td>29</td> <td>38</td> <td>71件以上</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>16</td> <td>19</td> <td>10</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>21</td> <td>19件以上</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>166</td> <td>178</td> <td>140</td> <td>203</td> <td>68</td> <td>276</td> <td>—</td> </tr> </table>	業務改善運動推進制度実績件数 (単位:件)								区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標	総合	43	80	72	113	27	164	80件以上	こころ	36	29	24	32	4	53	36件以上	こども	71	50	34	50	29	38	71件以上	本部	16	19	10	8	8	21	19件以上	計	166	178	140	203	68	276	—	B	令和3年度は、276件と機構全体としては平成21年度以降で過去最高件数となったが、一部目標件数に達しなかった。優れた取組については、ホームページやマスコミを活用し、他の医療機関に広く周知を図った。	29	1	○																																			
業務改善運動推進制度実績件数 (単位:件)																																																																																																					
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3目標																																																																																														
総合	43	80	72	113	27	164	80件以上																																																																																														
こころ	36	29	24	32	4	53	36件以上																																																																																														
こども	71	50	34	50	29	38	71件以上																																																																																														
本部	16	19	10	8	8	21	19件以上																																																																																														
計	166	178	140	203	68	276	—																																																																																														
			—	—	—	—	—	—	—	—	—																																																																																										
2 事務部門の専門性の向上	2 事務部門の専門性の向上	2 事務部門の専門性の向上	—	—	—	—	—	—	—	—	—																																																																																										
事務部門において、病院特有の事務に精通した職員を確保及び育成することにより、専門性の向上を図ること。	経営管理機能を強化するため、引き続き法人固有の事務職員を採用して業務量に応じた柔軟な職員配置に努め、専門性を十分に発揮できるような体制を整備する。また、急速な経営環境の変化にも迅速に対応できるように病院運営や医療事務等に精通した人材の確保にも努める。	①階層や職務に応じた効果的な研修の実施、学会発表等への事務職員の参加など ②異動方針の弾力的運用及び各部署におけるOJT(on-the-job training)をはじめとする人材の育成・研修の推進 ③診療情報管理機能の強化	①階層や職務に応じた各種研修を実施する。 ・また、事務職員の機構外研修への積極的な参加を促す。 ②職員の適性等を考慮した弾力的な人事異動を行う。	<p>事務職員に対する研修状況</p> <table border="1"> <tr> <th>受講時期</th> <th>研修名</th> <th>開催状況</th> </tr> <tr> <td>新採年度</td> <td>新規採用職員研修</td> <td>7月 2日間</td> </tr> <tr> <td>係長級昇任時</td> <td>新任役付職員研修</td> <td>9月 1日間</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">管理者</td> <td>新任監督者研修</td> <td>7月 1日間</td> </tr> <tr> <td>労務管理者研修</td> <td>6月 2時間</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">希望により任意参加</td> <td>コーチング研修</td> <td>10月 1日間</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーション研修</td> <td>9月 1日間</td> </tr> <tr> <td>ファシリテーション研修</td> <td>10月 1日間</td> </tr> <tr> <td>メンタルサポート研修</td> <td>12月 4時間</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">希望により任意参加</td> <td>事務職員基礎研修</td> <td>4月 0.5時間</td> </tr> <tr> <td>会計講座</td> <td>9月 2.5時間</td> </tr> <tr> <td>内部統制講座</td> <td>11月 2.5時間</td> </tr> <tr> <td>医療保険制度・診療報酬基礎講座</td> <td>9月 2.0時間</td> </tr> </table>	受講時期	研修名	開催状況	新採年度	新規採用職員研修	7月 2日間	係長級昇任時	新任役付職員研修	9月 1日間	管理者	新任監督者研修	7月 1日間	労務管理者研修	6月 2時間	希望により任意参加	コーチング研修	10月 1日間	コミュニケーション研修	9月 1日間	ファシリテーション研修	10月 1日間	メンタルサポート研修	12月 4時間	希望により任意参加	事務職員基礎研修	4月 0.5時間	会計講座	9月 2.5時間	内部統制講座	11月 2.5時間	医療保険制度・診療報酬基礎講座	9月 2.0時間	A	階層別に、業務に必要なスキルを身につける専門研修を実施している。																																																															
受講時期	研修名	開催状況																																																																																																			
新採年度	新規採用職員研修	7月 2日間																																																																																																			
係長級昇任時	新任役付職員研修	9月 1日間																																																																																																			
管理者	新任監督者研修	7月 1日間																																																																																																			
	労務管理者研修	6月 2時間																																																																																																			
希望により任意参加	コーチング研修	10月 1日間																																																																																																			
	コミュニケーション研修	9月 1日間																																																																																																			
	ファシリテーション研修	10月 1日間																																																																																																			
	メンタルサポート研修	12月 4時間																																																																																																			
希望により任意参加	事務職員基礎研修	4月 0.5時間																																																																																																			
	会計講座	9月 2.5時間																																																																																																			
	内部統制講座	11月 2.5時間																																																																																																			
医療保険制度・診療報酬基礎講座	9月 2.0時間																																																																																																				
			110	③診療情報管理業務に専門的に携わることができる知識・技能を有する職員を育成する。	<p>診療情報管理士資格取得状況 (単位:人)</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">28年度</th> <th colspan="2">29年度</th> <th colspan="2">30年度</th> <th colspan="2">元年度</th> <th colspan="2">2年度</th> <th colspan="2">3年度</th> </tr> <tr> <th>資格取得者</th> <th>専門課程修了者</th> <th>資格取得者</th> <th>専門課程修了者</th> <th>資格取得者</th> <th>専門課程修了者</th> <th>資格取得者</th> <th>専門課程修了者</th> <th>資格取得者</th> <th>専門課程修了者</th> <th>資格取得者</th> <th>専門課程修了者</th> </tr> <tr> <td>総合</td> <td>5</td> <td>11</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>7</td> <td>10</td> <td>7</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>11</td> <td>17</td> <td>12</td> <td>17</td> <td>13</td> <td>17</td> <td>13</td> <td>14</td> <td>17</td> <td>17</td> <td>17</td> <td>17</td> </tr> </table> <p>※ 専門課程修了者: 資格試験受験資格を有する者</p>	区分	28年度		29年度		30年度		元年度		2年度		3年度		資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	総合	5	11	6	10	7	10	7	9	9	9	9	9	こころ	1	1	1	2	1	3	2	2	2	2	1	1	こども	3	4	3	4	3	4	3	3	5	5	5	5	本部	2	1	2	1	2	0	1	0	1	1	2	2	計	11	17	12	17	13	17	13	14	17	17	17	17	A	令和3年度については、診療情報管理機能の強化をするため、引き続き診療情報管理士資格の取得支援制度を活用するなど、必要な資格者を育成するとともに、適切な人員配置を行った。				
区分	28年度		29年度		30年度		元年度		2年度		3年度																																																																																										
	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者																																																																																									
総合	5	11	6	10	7	10	7	9	9	9	9	9																																																																																									
こころ	1	1	1	2	1	3	2	2	2	2	1	1																																																																																									
こども	3	4	3	4	3	4	3	3	5	5	5	5																																																																																									
本部	2	1	2	1	2	0	1	0	1	1	2	2																																																																																									
計	11	17	12	17	13	17	13	14	17	17	17	17																																																																																									

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																											
						説明																																																
3 収益の確保と費用の節減 <p>新たな診療報酬の取得可能性やDPCの係数向上等について積極的に検討を行うほか、診療報酬制度の改定に迅速に対応し、収益の確保を図ること。また、診療報酬請求漏れの防止や未収金の発生防止及び早期回収に努めること。</p> <p>費用面においては、診療材料・医薬品等の適切な管理によるコスト削減に努めるほか、経営状況の分析を随時行い、費用対効果の分析を随時行い、費用対効果の</p>	3 収益の確保と費用の節減 <p>診療報酬制度の改定に迅速に対応し、収益の確保を図る。また、様々な診療報酬の取得可能性やDPCの係数向上等について積極的に検討を行うほか、診療報酬請求漏れの防止、未収金の発生防止や早期回収に努める。</p> <p>費用面においては、診療材料・医薬品等の適切な管理によるコスト削減に努めるほか、経営状況の分析を随時行い、費用対効果の改善に向けた進捗管理に取り組む。</p>	3 収益の確保と費用の節減 <p>①平均在院日数の短縮に向けた取り組み ②医薬品、診療材料の適正かつ計画的な購入 ③診療報酬など収入の適正な確保 ④業務の質を担保しつつ、多様な契約手法の活用や事務の効率化などによるコスト削減 ⑤未収金対策の実施</p>	-	-	-	-	-																																															
												111	各病院(医事)	<p>①平均在院日数の短縮に向け、DPC入院期間Ⅱ以内での退院を促進する。 【こども】①長期入院患者の退院促進に取り組む。</p> <table border="1"> <caption>DPC入院期間Ⅱ以内の退院割合 (単位：%)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度実績</th> <th>29年度実績</th> <th>30年度実績</th> <th>元年度実績</th> <th>2年度実績</th> <th>3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>62.0</td> <td>61.2</td> <td>62.0</td> <td>64.1</td> <td>66.3</td> <td>65.8</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>61.5</td> <td>59.9</td> <td>67.0</td> <td>67.8</td> <td>67.6</td> <td>68.1</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>長期入院患者率 (単位：%)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度実績</th> <th>29年度実績</th> <th>30年度実績</th> <th>元年度実績</th> <th>2年度実績</th> <th>3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こども</td> <td>37.2</td> <td>40.7</td> <td>38.9</td> <td>37.5</td> <td>43.1</td> <td>44.0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度実績	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度実績	3年度実績	総合	62.0	61.2	62.0	64.1	66.3	65.8	こども	61.5	59.9	67.0	67.8	67.6	68.1	区分	28年度実績	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度実績	3年度実績	こども	37.2	40.7	38.9	37.5	43.1	44.0	<p>(総合) DPC入院期間Ⅱ以内の退院割合を高めるため、各診療科に対して上位5疾患をリストアップし、入院期間Ⅱ以内の退院について協力を求めるとともに、クリニカルパス見直し等の取組を行っている。</p> <p>(こども) 令和3年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響で退院後の受入れが停滞していることもあり、前年度に続いて長期入院患者率が増加した。</p> <p>(こども) DPC部会を開催し、状況確認や課題の解決について取り組んだ。</p>	<p>・DPC入院期間ⅡはDPC病院の平均在院日数を表しており、この日数内の退院割合は、診療の効率性の観点における指標となりうるが、総合病院・こども病院ともにDPC入院期間Ⅱ以内の退院割合は、令和2年度と同等の水準を維持している。</p> <p>・こどもの医療センターの長期入院患者率は、新型コロナウイルス感染症の影響により地域移行が停滞していることから、令和2年度より増加している。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みつつ、引き続き、地域と連携した退院支援に取り組むことを期待する。</p>			
												区分	28年度実績	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度実績	3年度実績																																				
総合	62.0	61.2	62.0	64.1	66.3	65.8																																																
こども	61.5	59.9	67.0	67.8	67.6	68.1																																																
区分	28年度実績	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度実績	3年度実績																																																
こども	37.2	40.7	38.9	37.5	43.1	44.0																																																
112	各病院	<p>②診療材料、薬品の廃棄状況を要因別・部門別に明らかにし、破棄・破損について、削減のための対策を講じる。</p> <table border="1"> <caption>3年度 破棄・破損額 (単位：千円)</caption> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>診療材料費</th> <th>薬品費</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>4,431</td> <td>2,561</td> <td>6,992</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>52</td> <td>146</td> <td>198</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>3,163</td> <td>2,787</td> <td>5,950</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>7,646</td> <td>5,494</td> <td>13,140</td> </tr> </tbody> </table>	区分	診療材料費	薬品費	合計	総合	4,431	2,561	6,992	こども	52	146	198	こども	3,163	2,787	5,950	合計	7,646	5,494	13,140	<p>(総合) 破棄・破損については、部署、原因、金額等の記録を徹底し、特に高額なものはインシデントレポートの提出を義務化している。また、委員会において事象報告を行い、対応策を議論することにより、破棄・破損の削減に努めている。予定変更や手技によるものは致し方ないが、落下や誤開封について削減に努めている。</p> <p>(こども) 破棄・破損額の発生を抑えるため、3病院間での薬品の譲受譲渡を令和3年度は146品目について実施し、不動在庫の軽減に繋げた。</p> <p>診療材料については、病棟の消毒薬在庫の適正化を図り、入出庫の少ないものは、極力在庫を置かず、必要時その都度発注することとして、期限切れによる廃棄の削減に努めている。</p> <p>(こども) 各部署と金額等の情報共有を徹底し、在庫管理に努めている。委員会などで破棄・破損額の情報共有、適切な在庫管理を周知している。</p>	<p>・経費削減の観点のみならず、使用期限切れ材料・薬品による医療事故の予防等、医療安全上の要請からも、在庫管理の徹底が求められるが、診療材料、薬品の破棄・破損を抑制し経費削減を図るため、記録の徹底、委員会における情報共有等を徹底し、有効な在庫管理に努めている。</p>																														
区分	診療材料費	薬品費	合計																																																			
総合	4,431	2,561	6,992																																																			
こども	52	146	198																																																			
こども	3,163	2,787	5,950																																																			
合計	7,646	5,494	13,140																																																			
113	各病院	<p>③積極的に施設基準を取得する。 ・診療報酬の適正請求にかかる研修会等を実施する。</p>	<p>(総合) ICUにおいて、医師、看護師、理学療法士等の多職種による総合的な早期離床に係る取組を開始し、特定集中治療室管理科早期離床・リハビリテーション加算の届出を行った。 精神科リエゾンチーム加算について、常勤の公認心理師を採用し専従者として届け出たため、算定可能患者数が15人から30人に増加した。 精神科医師と運用を調整し、精神疾患診療体制加算の新規届出を行った。 急性期看護補助体制加算の夜間100対1急性期看護補助体制加算及び夜間看護体制加算の施設基準を取得に向けて、夜間看護補助者を確保するため人材派遣業者の公募を行っている。次年度6月には届出予定である。</p> <p>県内初の内視鏡手術用支援機器を用いた腹腔鏡下膵体尾部切除術の施設基準を3月に届け出た。 (こども) 作業療法士の採用に伴い、脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)を(Ⅰ)へランクアップさせた。 患者相談窓口の設置及び職員の配置が可能となったため、患者サポート体制充実加算の新規届出を行った。 ICUの病棟再編に伴い、CCU病棟の届出入院料を、特定集中治療室管理科3から小児入院医療管理科1へ変更した。 持続血糖測定器に係る適切な研修を修了し要件を満たしたため、持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)の新規届出を行った。 各種職種との連携を図り、適正な収入確保を念頭に施設基準取得に努めた。</p>	<p>施設基準の新規及びびランクアップの届出を積極的に行い、診療単価が向上した。 研修会等を通じて、病院全体として適正請求に関する意識を高めるよう努めている。</p>	<p>・新たに導入した医療技術にかかる施設基準の届出など、医療の提供体制や内容に応じた診療報酬を適正に請求するため、研修を通じた職員養成など体制づくりに取り組んでいる。</p> <p>・総合病院では、常勤の公認心理師の採用や夜間看護師補助者の人材派遣業者の公募など、新たな施設基準の取得等に積極的に取り組んでいる。</p> <p>・診療報酬改定の年に件数が増加する傾向であり、総合病院における、直近3年の施設基準届出件数の推移は、令和元年度9件、令和2年35件、令和3年度4件、となっており、経営面に貢献している。</p> <p>・今後も、診療報酬制度の改定に際して、早期の情報収集に基づく迅速な院内体制の確保と、診療報酬事務職員の養成、医療現場への周知徹底が期待される。</p>	30	○																																															

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																																											
						説明																																																																																
			114	④SPD導入により、薬品・診療材料の期限切れ、病棟の在庫減少に努める。	<p>薬品・診療材料期限切れ廃棄額 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬品</td> <td>2,127</td> <td>2,832</td> <td>2,931</td> <td>2,279</td> <td>2,553</td> <td>2,638</td> </tr> <tr> <td>診療材料</td> <td>1,615</td> <td>675</td> <td>969</td> <td>973</td> <td>627</td> <td>1,631</td> </tr> </tbody> </table> <p>薬品・診療材料在庫額 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬品</td> <td>101,066</td> <td>102,777</td> <td>92,244</td> <td>136,694</td> <td>153,688</td> <td>160,916</td> </tr> <tr> <td>診療材料</td> <td>191,861</td> <td>216,079</td> <td>224,292</td> <td>221,511</td> <td>227,708</td> <td>239,545</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	薬品	2,127	2,832	2,931	2,279	2,553	2,638	診療材料	1,615	675	969	973	627	1,631	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	薬品	101,066	102,777	92,244	136,694	153,688	160,916	診療材料	191,861	216,079	224,292	221,511	227,708	239,545	<p>薬品及び診療材料については、使用期限を確認し、期限切迫品の表示や使用頻度の高い部署へ移管を行うことにより、多くのロスを防ぐなどSPD業務の改善を図っている。しかしながら、稀な症例に使用する物品(ただし緊急時になければ困るもの)が期限切れになっており、今後も管理方法について検討を行っている。</p> <p>薬品は、SPDによる在庫管理に加え、3病院間における移管や担当職員の関与により、期限切れ廃棄額の削減と在庫減少に努めている。</p> <p>診療材料は、手術室において期限切迫品カートを設置し、使用を促している。医療の高度化により高額材料が増加したが、ピッキングリストの見直し提案を行う等、在庫の削減に努めている。</p> <p>令和3年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により、マスクや手袋等、供給体制が不安定な物品について、在庫を増やすなど診療に支障がないよう取り組んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・SPD(Supply Processing Distribution)は、薬品・診療材料等の発注、調達、物流、棚卸等を一元管理する仕組みであり、在庫の適正種類・量の確保、期限切れ廃棄の削減等に寄与している。 ・薬品在庫については、高度な手術や高額薬剤を使用する化学療法の件数増加等の要因により増加しているが、期限切迫品の可視化による周知、使用状況に応じた他部署への移管、不動態在庫のリスト化など、期限切れの抑止に努めている。 	30		○																																		
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																
薬品	2,127	2,832	2,931	2,279	2,553	2,638																																																																																
診療材料	1,615	675	969	973	627	1,631																																																																																
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																
薬品	101,066	102,777	92,244	136,694	153,688	160,916																																																																																
診療材料	191,861	216,079	224,292	221,511	227,708	239,545																																																																																
			115	④材料費等の削減のための対策を実施する。	<p>診療材料コスト削減実績 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度実績</th> <th>29年度実績</th> <th>30年度実績</th> <th>元年度実績</th> <th>2年度実績</th> <th>3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>34,307</td> <td>27,923</td> <td>85,869</td> <td>82,971</td> <td>71,680</td> <td>132,620</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>107</td> <td>446</td> <td>95</td> <td>13</td> <td>3</td> <td>105</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>8,320</td> <td>6,182</td> <td>15,458</td> <td>16,734</td> <td>12,229</td> <td>22,956</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>42,734</td> <td>34,551</td> <td>101,422</td> <td>99,718</td> <td>83,912</td> <td>155,681</td> </tr> </tbody> </table> <p>3年度 新規導入・廃止した診療材料・薬品 品目数の実績 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="3">診療材料品目数</th> <th colspan="3">薬品品目数</th> </tr> <tr> <th>3年度当初新規採用数</th> <th>廃止数</th> <th>契約数</th> <th>3年度当初新規採用数</th> <th>廃止数</th> <th>契約数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>17,570</td> <td>1,495</td> <td>2,040</td> <td>17,025</td> <td>1,647</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>397</td> <td>24</td> <td>13</td> <td>408</td> <td>607</td> <td>73</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>4,212</td> <td>352</td> <td>179</td> <td>4,385</td> <td>1,337</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>22,179</td> <td>1,871</td> <td>2,232</td> <td>21,818</td> <td>3,591</td> <td>176</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度実績	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度実績	3年度実績	総合	34,307	27,923	85,869	82,971	71,680	132,620	こころ	107	446	95	13	3	105	こども	8,320	6,182	15,458	16,734	12,229	22,956	合計	42,734	34,551	101,422	99,718	83,912	155,681	区分	診療材料品目数			薬品品目数			3年度当初新規採用数	廃止数	契約数	3年度当初新規採用数	廃止数	契約数	総合	17,570	1,495	2,040	17,025	1,647	45	こころ	397	24	13	408	607	73	こども	4,212	352	179	4,385	1,337	58	合計	22,179	1,871	2,232	21,818	3,591	176	<p>(総合) 診療材料については年度当初の単価契約と比較し、価格交渉により約5,668万円削減した。また共同購入の取り組みによる還元額は、過去最高の約7,594万円還元となった。品目数については、物品の集約と使用状況の調査を行ったことで、採用数より廃止数が上回る結果となった。</p> <p>(こころ) 後発品の採用率は前年度と比較して上昇した。また、診療材料については、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響もあって上昇していたメーカーの販売単価が下降傾向に入り、中には大きく価格が減少したものがあつた。さらに、入院患者の持参薬の臨時採用の見直しなどを進めたこともあり、コスト削減を図ることができた。</p> <p>(こども) 後発医薬品への切り替えに当たっては、小児病院の特性から、先発品との同等性を十分に確認することが必要であるため、安全性・使用性・生物学的同等性の視点を重視し、他の小児専門病院の採用状況を参考にしながら切替候補品目を選定した。</p> <p>また、診療材料は、令和元年から引き続き共同購入の取組を継続しており、一層の価格削減を進めた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・材料費の削減については、「トップダウン」としての診療材料採用の「一増、一減」方針の徹底、「ミドルマネジメント」としての診療材料委員会と中央材料室の機能向上、「ボトムアップ」としての全国的なベンチマークデータを活用した価格交渉など、一貫した削減努力の方向性のもとに取り組んでいる。 ・総合病院及びこども病院では、共同購入組織(一般社団法人日本ホスピタルアライアンス)に加盟して削減に努めており、特に総合病院では、令和3年度は約7,594万円の材料費削減成果をあげている。 ・こころの医療センターにおいても、入院患者の持参薬への対応を見直し、臨時購入から3病院間の採用薬に切り替えるなど、在庫の削減に取り組んでいる。 ・診療報酬改定等の外的要因が病院経営に及ぼす影響を迅速・的確に把握し、分析結果を業務運営に反映することが重要である。 	30		○
区分	28年度実績	29年度実績	30年度実績	元年度実績	2年度実績	3年度実績																																																																																
総合	34,307	27,923	85,869	82,971	71,680	132,620																																																																																
こころ	107	446	95	13	3	105																																																																																
こども	8,320	6,182	15,458	16,734	12,229	22,956																																																																																
合計	42,734	34,551	101,422	99,718	83,912	155,681																																																																																
区分	診療材料品目数			薬品品目数																																																																																		
	3年度当初新規採用数	廃止数	契約数	3年度当初新規採用数	廃止数	契約数																																																																																
総合	17,570	1,495	2,040	17,025	1,647	45																																																																																
こころ	397	24	13	408	607	73																																																																																
こども	4,212	352	179	4,385	1,337	58																																																																																
合計	22,179	1,871	2,232	21,818	3,591	176																																																																																
			116	④効率的な医療機器購入及び管理のための対策を実施する。	<p>各病院において、徹底した価格交渉や価格調査を行い、入札・見積合わせ等により競争性を確保することなどにより、効率的な購入及び管理に努めている。</p> <p>価格交渉では事務と連携して医師等自らも業者と交渉するほか、スケールメリットを生かした複数台購入も行っている。</p> <p>機種選定では複数機種を原則とし、1機種に限定する場合でも複数業者間の競争を維持するよう努めている。</p> <p>価格調査では、他病院実績の調査や関係団体への照会、ベンチマーク調査により目安となる金額の把握を徹底し、適正な金額設計に生かしている。</p> <p>保守委託では、3病院一括の契約を結ぶなど、機器に応じた契約や不要になった保守機器の随時の見直しを行いコスト低減を図っている。</p>	<p>総合病院において、令和3年9月に購入したPET-CT装置は、ベンチマークシステムを活用した価格調査に加え、2メーカーによる入札を実施した結果、5年間の保守を含めて317,658千円(予定価格より▲179,494千円)で契約することができた。</p> <p>3病院一括での契約については、保守の必要性が低下した機器につき、随時必要性の見直しを行い変更契約している。</p> <p>引き続き各病院と連携し、コスト低減を図っていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機器導入にあたっては、業者間・機種間の競争性を確保するとともに、ベンチマークの活用、保守契約の見直し等により、効率的な調達を図っている。 	30		○																																																																												

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3)	令和3年度実績 自己評価		県評価	重点	数値	評価																																																																																																			
						説明																																																																																																								
			117	④複数年契約や集約化等による契約方法の見直しを継続的に実施する。	<p>委託費の節減を図るため、契約の更新時に引き続き一括・複数年化に適合するか見直した。委託の仕様の徹底した見直しを行った。コスト削減による業務水準の低下を防ぐため、一部の委託については、定期的にモニタリング(委託業者の業務を評価)を行い、質の維持・向上を図った。</p> <p>3年度 委託契約等の見直し状況(単年度ベース) (単位:千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>業務名(連携)</th> <th>連携</th> <th>年数</th> <th>期間</th> <th>種類</th> <th>令3決議額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R I施設管理業務委託</td> <td>3病院</td> <td>5年</td> <td>令3.4~令8.3</td> <td>定額</td> <td>14,410</td> </tr> <tr> <td>集約金費送業務委託</td> <td>3病院</td> <td>5年</td> <td>令3.4~令8.3</td> <td>定額</td> <td>3,578</td> </tr> <tr> <td>被曝放射線量測定検査業務</td> <td>3病院</td> <td>5年</td> <td>令3.4~令8.3</td> <td>単価</td> <td>3,947</td> </tr> <tr> <td>産業廃棄物処理業務委託</td> <td>3病院</td> <td>3年</td> <td>令3.4~令6.3</td> <td>単価</td> <td>7,752</td> </tr> <tr> <td>一般廃棄物処理業務委託</td> <td>3病院</td> <td>3年</td> <td>令3.4~令6.3</td> <td>単価</td> <td>7,718</td> </tr> <tr> <td>装飾用植木貸借</td> <td>心・子</td> <td>3年</td> <td>令3.4~令6.3</td> <td>定額</td> <td>214</td> </tr> <tr> <td>医療機器等保守点検業務委託</td> <td>3病院</td> <td>1年</td> <td>令3.4~令4.3</td> <td>定額</td> <td>232,430</td> </tr> <tr> <td>放射線機器保守管理業務委託</td> <td>3病院</td> <td>1年</td> <td>令3.4~令4.3</td> <td>定額</td> <td>223,344</td> </tr> <tr> <td>シメンス社製医療機器保守業務委託</td> <td>総・子</td> <td>1年</td> <td>令3.4~令4.3</td> <td>定額</td> <td>92,309</td> </tr> <tr> <td>建築基準法の定期報告業務委託</td> <td>3病院</td> <td>1年</td> <td>令3.8~令4.3</td> <td>定額</td> <td>6,435</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>592,137</td> </tr> </tbody> </table> <p>3年度 委託モニタリング評価結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>第1期</th> <th>第2期</th> <th>第3期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>第1四半期</th> <th>第2四半期</th> <th>第3四半期</th> <th>第4四半期</th> </tr> <tr> <td>清掃</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>-1%</td> </tr> <tr> <td>警備(心・子)</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>医事(総・心)</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> </tr> </tbody> </table>	業務名(連携)	連携	年数	期間	種類	令3決議額	R I施設管理業務委託	3病院	5年	令3.4~令8.3	定額	14,410	集約金費送業務委託	3病院	5年	令3.4~令8.3	定額	3,578	被曝放射線量測定検査業務	3病院	5年	令3.4~令8.3	単価	3,947	産業廃棄物処理業務委託	3病院	3年	令3.4~令6.3	単価	7,752	一般廃棄物処理業務委託	3病院	3年	令3.4~令6.3	単価	7,718	装飾用植木貸借	心・子	3年	令3.4~令6.3	定額	214	医療機器等保守点検業務委託	3病院	1年	令3.4~令4.3	定額	232,430	放射線機器保守管理業務委託	3病院	1年	令3.4~令4.3	定額	223,344	シメンス社製医療機器保守業務委託	総・子	1年	令3.4~令4.3	定額	92,309	建築基準法の定期報告業務委託	3病院	1年	令3.8~令4.3	定額	6,435	合 計					592,137	区分	第1期	第2期	第3期	総合	可	可	可	区分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	清掃	可	可	可	-1%	警備(心・子)	可	可	可	可	医事(総・心)	可	可	可	可	<p>複数病院で集約化した委託費等の契約は20件、うち複数年化を行ったものは、16件となり、一括・複数年化による費用削減及び事務の簡素化につながっている。</p> <p>医事や警備を始めとした一部の委託については、定期的にモニタリング(委託業者の業務を評価)を行い、質の維持・向上が図られている。</p>		30		○
業務名(連携)	連携	年数	期間	種類	令3決議額																																																																																																									
R I施設管理業務委託	3病院	5年	令3.4~令8.3	定額	14,410																																																																																																									
集約金費送業務委託	3病院	5年	令3.4~令8.3	定額	3,578																																																																																																									
被曝放射線量測定検査業務	3病院	5年	令3.4~令8.3	単価	3,947																																																																																																									
産業廃棄物処理業務委託	3病院	3年	令3.4~令6.3	単価	7,752																																																																																																									
一般廃棄物処理業務委託	3病院	3年	令3.4~令6.3	単価	7,718																																																																																																									
装飾用植木貸借	心・子	3年	令3.4~令6.3	定額	214																																																																																																									
医療機器等保守点検業務委託	3病院	1年	令3.4~令4.3	定額	232,430																																																																																																									
放射線機器保守管理業務委託	3病院	1年	令3.4~令4.3	定額	223,344																																																																																																									
シメンス社製医療機器保守業務委託	総・子	1年	令3.4~令4.3	定額	92,309																																																																																																									
建築基準法の定期報告業務委託	3病院	1年	令3.8~令4.3	定額	6,435																																																																																																									
合 計					592,137																																																																																																									
区分	第1期	第2期	第3期																																																																																																											
総合	可	可	可																																																																																																											
区分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期																																																																																																										
清掃	可	可	可	-1%																																																																																																										
警備(心・子)	可	可	可	可																																																																																																										
医事(総・心)	可	可	可	可																																																																																																										
			118	⑤弁護士事務所への未収金回収業務委託を活用し、未収金の縮減、効率的な回収を実施する。 ⑥未収金に関する研修や、弁護士事務所への相談により、事務担当者のレベルアップを図る。	<p>平成24年度から弁護士法人へ委託先を変更。</p> <p>令和3年度 未収金回収実績(弁護士事務所委託分) 単位:百万円</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>新規委任金額</th> <th>回収額</th> <th>累計回収率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>24~27年度</td> <td>139</td> <td>60</td> <td>43.4%</td> </tr> <tr> <td>28年度</td> <td>24</td> <td>15</td> <td>46.3%</td> </tr> <tr> <td>29年度</td> <td>38</td> <td>17</td> <td>46.1%</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>23</td> <td>16</td> <td>48.7%</td> </tr> <tr> <td>元年度</td> <td>26</td> <td>20</td> <td>51.6%</td> </tr> <tr> <td>2年度</td> <td>30</td> <td>16</td> <td>51.7%</td> </tr> <tr> <td>3年度</td> <td>24</td> <td>12</td> <td>51.6%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	新規委任金額	回収額	累計回収率	24~27年度	139	60	43.4%	28年度	24	15	46.3%	29年度	38	17	46.1%	30年度	23	16	48.7%	元年度	26	20	51.6%	2年度	30	16	51.7%	3年度	24	12	51.6%	<p>累計回収率については、令和元年度以降50%を超えており、令和3年度も同水準で推移した。平成23年度以前に委託していたサービサーの回収率が20.4%であったのに対して、高い回収率を維持している。</p>																																																																								
年度	新規委任金額	回収額	累計回収率																																																																																																											
24~27年度	139	60	43.4%																																																																																																											
28年度	24	15	46.3%																																																																																																											
29年度	38	17	46.1%																																																																																																											
30年度	23	16	48.7%																																																																																																											
元年度	26	20	51.6%																																																																																																											
2年度	30	16	51.7%																																																																																																											
3年度	24	12	51.6%																																																																																																											
第4 財務内容の改善に関する事項	第4 予算、収支計画及び資金計画	第3 予算、収支計画、資金計画及び収支予算等	-	-	-	-	-																																																																																																							
<p>業務運営の改善及び効率化を進めるなどとして、第3期中期目標期間を累計した損益計算において、経常収支比率を100%以上とすること。</p> <p>業務運営に当たっては、日頃から経営状況を的確に把握するとともに、社会保障制度の見直しや診療報酬制度の改定など、病院経営に大きく関わる環境変化に対しても適切な対応を図ること。これら取組を通じて、中長期的な病院運営の健全化や経営基盤の強化を図ること。</p>	<p>「第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」で定めた計画を確実に実施することにより、業務運営の改善及び効率化を進めるなどとして、第3期中期目標期間を累計した損益計算において、経常収支比率を100%以上とすることを目指す。</p> <p>業務運営に当たっては、日頃から経営状況を的確に把握し、社会保障制度の見直しや診療報酬制度の改定など、病院経営に大きく関わる環境変化に対しても適切な対応を図り、経営情報を職員が共有するなど、職員全員の経営意識の向上に努める。これら取組を通じて、中長期的な病院運営の健全化や経営基盤の強化を図る。</p>		119	・新規施設基準取得などによる増収への取組みと業務見直しによる支出節減への取組みを効率的に進めることにより、各年度での3病院黒字化を図る。	<p>経常収支の状況 (単位:%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>5目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>100.4</td> <td>100.4</td> <td>100.8</td> <td>100.6</td> <td>100.6</td> <td>102.4</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>心臓</td> <td>114.2</td> <td>113.3</td> <td>112.9</td> <td>103.1</td> <td>108.6</td> <td>106.8</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>子ども</td> <td>105.3</td> <td>103.1</td> <td>103.4</td> <td>101.4</td> <td>102.3</td> <td>102.9</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>機構全体</td> <td>102.6</td> <td>101.9</td> <td>102.2</td> <td>100.9</td> <td>101.5</td> <td>102.7</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	5目標	総合	100.4	100.4	100.8	100.6	100.6	102.4	-	心臓	114.2	113.3	112.9	103.1	108.6	106.8	-	子ども	105.3	103.1	103.4	101.4	102.3	102.9	-	機構全体	102.6	101.9	102.2	100.9	101.5	102.7	100.0	<p>令和3年度も、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けたが、医療面では充実した質の高い医療を提供し、経営面では機能的で効率的な病院経営を推進した。空床補償等の新型コロナ関連補助金が適切に交付されたこともあり、地方独立行政法人化後、13年連続で経常収支比率100%以上を達成した。</p>		31	1	○																																																												
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	5目標																																																																																																							
総合	100.4	100.4	100.8	100.6	100.6	102.4	-																																																																																																							
心臓	114.2	113.3	112.9	103.1	108.6	106.8	-																																																																																																							
子ども	105.3	103.1	103.4	101.4	102.3	102.9	-																																																																																																							
機構全体	102.6	101.9	102.2	100.9	101.5	102.7	100.0																																																																																																							